

經 營 學 部

履 修 要 項

平 成 6 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(金) 入学式
- 9日(土) 新入生オリエンテーション
- 12日(火) 在校生身分証明登録
- 9日(土) 在校生成績発表
- 15日(金) 体育実技Ⅱ受講届(種目選択届)
- 11日(月) 受付(学部2年次生)
- 12日(火) 時事外国語受講届受付
(経済学部3年次生)
- 13日(水) 在校生成績質疑応答
- 19日(火) 前期授業開始
- 13日(水) 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 18日(月) 履修届受付(土曜日は除く)
(学部により受付日が異なる)
- 22日(金)
- 20日(水)
- 25日(月)
- 5月25日(水) 卒業論文論題受付(仏教・文学部の
4年次生)(締切日は正午まで)
- 6月10日(金) 中間試験及び前期終了科目定期試験
(授業平常どおり)
- 7月14日(木) 前期授業最終日
- 20日(水) 夏季休業第1日(9月15日まで)
- 21日(木) 体育実技Ⅱ集中授業コース
(学部2年次生)
- 21日(木) 前期終了科目定期試験欠試届(追試
験申込)受付締切
- 25日(月)
- 25日(月)
- 9月5日(月) 補講期間
- 9日(金)

後 期

- 9月16日(金) 後期授業開始
- 16日(金) 前期終了科目定期試験成績発表(質
疑応答)および再試験申込受付
- 19日(月)
- 26日(月) 外国語指定届受付(仏教・文<除英米
文>・法学部・短大国文・英文の1年
次生および昭和63年度以前入学の経
済学部の2年次生)
- 30日(金)

- 27日(火) 専攻コース指定届受付
- 28日(水) (歴史・社会学科の1年次生)
- 26日(月) 前期終了科目追・再試験
(授業平常どおり)
- 10月1日(土)
- 3日(月) 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 6日(木) 第112回開校記念日(全学休業)
- 15日(土)
- 24日(月) 編入学願書受付
- 28日(金)
- 27日(木) 転部・転科試験願書受付
- 29日(土)
- 11月19日(土) 転部・転科試験
- 12月1日(木) 卒業論文受付(仏教・文学部の4年
次生)(締切日は正午まで)
- 12日(月) 編入学試験
- 4日(日) 冬季休業第1日(1月7日まで)
- 21日(水) 体育実技Ⅱ集中授業コース
(学部2年次生)
- 21日(水)
- 25日(日)

平成7年

- 1月9日(月) 後期授業再開
- 14日(土) 後期授業最終日
- 17日(火) 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(木)
- 27日(金) 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 2月3日(金) 定期試験欠試届受付締切
- 6日(月) 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の
4年次生)
- 7日(火) 成績発表(質疑応答)および再試験申
込受付(学部4年次生・短大生)
- 17日(金)
- 18日(土)
- 20日(月) 体育実技Ⅱシーズン・コース(ス
キー)(学部2年次生)
- 24日(金)
- 23日(木) 追・再試験(学部4年次生・短大生)
および追試験(学部1~3年次生)
- 3月1日(水)
- 20日(月) 卒業生名簿発表
- 25日(土) 卒業式

授 業 時 間

| 時 限 | 第1時限 | 第2時限 | 第3時限 | 第4時限 | 第2時限 |
|-----|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 時 間 | 9:00~10:30 | 10:40~12:10 | 12:50~14:20 | 14:30~16:00 | 16:10~17:40 |

【専門教育科目の履修について】

経営学部において開設されている専門教育科目（基礎教育科目を含む）は、「開設科目一覧」（以下、一覧）にみられる通りである。これらの専門科目をどのように履修するかは諸君の任意であるが、学習の効果をより高めるためには、「一覧」を参考にし、各科目の講義内容をよく読んで体系的に履修することが望ましい。このような趣旨から「一覧」を作成し、諸君が科目履修を行なう際の参考に供することとした。

〔基礎教育科目〕 経営学部開設科目一覧（参考）
〔専門教育科目〕

| | 1 年 次 | 2 年 次 | 3 ・ 4 年 次 |
|--------|------------|---------------------------------|---|
| 経営学系列 | 経営学概説（必） | 経営学（必） 経営史 経営管理論 企業形態論 | 経営学史 アメリカ経営学 経営財務論 経営労務論 経営組織論 経営技術論 国際経営論 日本経営史 マーケティング論 商業史 商業経営論 保険経営論 銀行経営論 公益企業論 |
| 会計学系列 | 簿記学（必） | 会计学（必） 原価計算論 | 上級簿記 財務会計論 管理会計論 経営分析論 税務会計論 会計監査論 |
| 経済学系列 | 経済学概説（必） | 近代経済学 経済原論 日本経済史 | 経済政策 財政学 金融論 国際経済論 日本経済論 証券市場論 国際金融論 |
| 経営科学系列 | | プログラミング論 統計原論 | 情報理論 経営情報論 経営統計 経営科学 |
| 法学系列 | | 民法 I | 商法 I（3年） 民法 II 商法 II（4年） 労働法（4年） |
| | 外書講読 | | 外書講読 |
| | 専門科目演習（ゼミ） | 演習 I | 演習 II（3年） 演習 III（4年） |

※（必）は必修科目，他はすべて選択科目。

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位数 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 卒業及び学位記の授与 (2)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (3)
2. 外国語科目の履修方法 (4)
3. 保健体育科目の履修方法 (6)
4. 基礎教育科目の履修方法 (7)
5. 専門教育科目の履修方法 (7)
6. 他学部科目の履修方法 (9)
7. 随意科目の履修方法 (11)
8. 再履修科目の履修方法 (11)
 - ※ 「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (11)
 - ※ 授業科目のコード番号について (12)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (13)
2. 履修届記入上の注意 (14)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (15)
4. 授業時間 (15)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (16)
2. 中間試験 (16)
3. 追・再試験 (16)
4. 受験心得 (17)
5. 成績評価・単位認定 (17)
6. 試験時間 (18)
7. 成績発表 (18)

| | | |
|------|---------------|------|
| VI | 進級について | (19) |
| VII | 教職課程・資格講座 | (20) |
| VIII | 事務取扱いについて | |
| | 1. 事務室の事務受付時間 | (21) |
| | 2. 休 講 | (21) |
| | 3. 掲示・連絡 | (21) |
| | 4. 問い合わせ | (21) |
| IX | 学籍について | |
| | 1. 修業年限と在学年数 | (22) |
| | 2. 休 学 | (22) |
| | 3. 復 学 | (22) |
| | 4. 退 学 | (23) |
| | 5. 除 籍 | (23) |
| | 6. 懲 戒 | (23) |
| | 7. 編 入 学 | (23) |
| | 8. 再 入 学 | (23) |
| | 9. 転部・転科 | (23) |
| | 10. 留 学 | (24) |
| | 11. 学生氏名・保証人 | (24) |
| | 12. 学生番号 | (24) |
| X | 既修得単位の認定について | (25) |
| XI | 届書・願書について | (26) |
| XII | 各種証明書取扱い窓口 | (27) |
| | 試験実施規程（抜粋） | (28) |
| | 講義内容 | (31) |

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目 |

※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目

選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数

| 授 業 科 目 の 区 分 | | 科 目 数 | 修 得 単 位 | 計 | 合 計 |
|---------------|-----------|-------|---------|----|---------|
| 一 般 教 育 科 目 | 人 文 分 野 | 4 | 16 | 32 | } 140以上 |
| | 社 会 分 野 | 2 | 8 | | |
| | 自 然 分 野 | 2 | 8 | | |
| 外 国 語 科 目 | 第 1 外 国 語 | 4 | 8 | 16 | |
| | 第 2 外 国 語 | 4 | 8 | | |
| 保 健 体 育 科 目 | 講 義 | 1 | 2 | 4 | |
| | 実 技 | 2 | 2 | | |
| 基 礎 教 育 科 目 | | 2 | 8 | 8 | |
| 専 門 教 育 科 目 | 必 修 | 3 | 12 | 80 | |
| | 選 択 | 17 | 68 | | |

2. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、「学士（経営学）」の学位が与えられる。

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

| | | | | |
|---------|-------|--------|---|--------------|
| 人 文 分 野 | 4 科 目 | 計16単位 | } | 合計 8 科目 32単位 |
| 社 会 分 野 | 2 科 目 | 計 8 単位 | | |
| 自 然 分 野 | 2 科 目 | 計 8 単位 | | |

| 分 野 | 授 業 科 目 | 単 位 | 履 修 科 目 数 | 修 得 単 位 | 計 | 備 考 |
|------|--------------------------|-----|--|---------|---|--|
| 人文分野 | 宗教学Ⅰ（1年次必修） | 4 | 「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修 | 16 | } | |
| | 宗教学Ⅱ（2年次必修） | 4 | | | | |
| | 哲 学 | 4 | | | | |
| | 論 理 学 | 4 | | | | |
| | 倫 理 学 | 4 | | | | |
| | 文 学 | 4 | | | | |
| 社会分野 | 法 学 憲 法 （日本国憲法2単位を含む） | 4 | 2科目選択必修 | 8 | } | 教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。 |
| | 社 会 学 | 4 | | | | |
| | 地 理 学 | 4 | | | | |
| | 統 計 学 | 4 | | | | |
| | 文 化 人 類 学 | 4 | | | | |
| 自然分野 | 自 然 科 学 概 論 | 4 | 2科目選択必修 | 8 | } | |
| | 数 学 | 4 | | | | |
| | 心 理 学 | 4 | | | | |

※「宗教学Ⅰ」の授業は木曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6か国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した英語以外の外国語の2か国語を履修することになる。その2か国語を、1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

なお、第1外国語は英語、第2外国語は他の外国語となる。

| 履修年次 | 第1外国語 | | 第2外国語 | | 計 | |
|------|-------|-----|-------|-----|-----|-----|
| | 科目数 | 単位数 | 科目数 | 単位数 | 科目数 | 単位数 |
| 1年次 | 2 | 4 | 2 | 4 | 4 | 8 |
| 2年次 | 2 | 4 | 2 | 4 | 4 | 8 |
| 計 | 4 | 8 | 4 | 8 | 8 | 16 |

1年次の履修

6か国語のうち英語IA・IBの2科目と、入学手続の際に指定した英語以外の外国語IA・IBの2科目の計4科目8単位を必修とする。

| 授業科目 | 単位 | 科目内容 | 履修科目数 |
|----------|----|----------------|--|
| 英語 IA | 2 | | IA・IBの2科目を必修とする。ただしIAは「英会話I(定員40名)」または「英語LLI(定員30名)」に振り替えることができる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。 |
| 英語 IB | 2 | | |
| 英会話 I | 2 | | |
| 英語LLI | 2 | 視聴覚教材を使用した語学教育 | |
| ドイツ語 IA | 2 | 文法 | 5か国語のうちから入学手続の際指定した1か国語IA・IBの2科目を必修とする。 |
| ドイツ語 IB | 2 | 講読 | |
| フランス語 IA | 2 | 文法 | |
| フランス語 IB | 2 | 講読 | |
| 中国語 IA | 2 | | |
| 中国語 IB | 2 | | |
| スペイン語 IA | 2 | | |
| スペイン語 IB | 2 | | |
| ロシア語 IA | 2 | | |
| ロシア語 IB | 2 | | |

※ 英語科目内容

英語IA：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語IB：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※LL……………ランゲージ・ラボラトリー

※「英語IB」の授業は木曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修した2か国語（英語と他の1か国語）を、それぞれⅡA・ⅡBの2科目ずつ計4科目8単位必修とする。

第1外国語（英語を2科目4単位必修）

| 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
|---------|-----|-----|
| 英 語 Ⅱ A | 2 | |
| 英 語 Ⅱ B | 2 | |

第2外国語（1年次で履修した英語以外の1か国語を2科目4単位必修）

| 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 | 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 |
|---------------|-----|---------|---------------|-----|---------|
| ド イ ツ 語 Ⅱ A | 2 | 講 読 | ス ペ イ ン 語 Ⅱ A | 2 | |
| ド イ ツ 語 Ⅱ B | 2 | 講 読 | ス ペ イ ン 語 Ⅱ B | 2 | |
| フ ラ ン ス 語 Ⅱ A | 2 | 講 読 | ロ シ ア 語 Ⅱ A | 2 | |
| フ ラ ン ス 語 Ⅱ B | 2 | 講 読 | ロ シ ア 語 Ⅱ B | 2 | |
| 中 国 語 Ⅱ A | 2 | | | | |
| 中 国 語 Ⅱ B | 2 | | | | |

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

外国語科目履修上の注意

イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号により該当するクラスで履修すること。

ロ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。

ハ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.11参照）。

ニ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

| | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
|-----|---------|-----|------------|
| 講 義 | 保健体育理論 | 2 | 1年次前期または後期 |
| 実 技 | 体育実技Ⅰ | 1 | 1年次通年 |
| | 体育実技Ⅱ | 1 | 2年次前期または後期 |

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は木曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰ（再履修クラス含む）の種目等の説明は、最初の授業に『体育実技受講要領』を配布して行うので、必ず出席すること。なお、当日の服装は、普段着でよい。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において2科目8単位を必修とする。

| 履修年次 | 授業科目 | 単位 | 備考 |
|------|-------|----|----|
| 1年次 | 経済学概説 | 4 | |
| | 経営学概説 | 4 | |

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

必修科目（3科目12単位）

| 1年次必修 | | | 2年次必修 | | |
|-------|----|----|-------|----|----|
| 授業科目 | 単位 | 備考 | 授業科目 | 単位 | 備考 |
| 簿記学 | 4 | | 経営学 | 4 | |
| | | | 会計学 | 4 | |

選 択 科 目 (68単位以上)

| 2 年 次 選 択 | | | 3・4 年 次 選 択 | | | 3・4 年 次 選 択 | | |
|-----------------|-----|-----|-----------------|-----|-----|-------------|-----|-----|
| 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
| 経 営 史 | 4 | | 経 営 労 務 論 | 4 | | 会 計 監 査 論 | 4 | |
| 経 営 管 理 論 | 4 | | 経 営 組 織 論 | 4 | | 証 券 市 場 論 | 4 | |
| 企 業 形 態 論 | 4 | | 経 営 技 術 論 | 4 | | 商 業 史 | 4 | |
| プ ロ グ ラ ミ ン グ 論 | 4 | | 経 営 情 報 論 | 4 | | 経 済 政 策 | 4 | |
| 原 価 計 算 論 | 4 | | 経 営 科 学 | 4 | | 財 政 学 | 4 | |
| 経 済 原 論 | 4 | | 情 報 理 論 | 4 | | 金 融 論 | 4 | |
| 近 代 経 済 学 | 4 | | 公 益 企 業 論 | 4 | | 国 際 経 済 論 | 4 | 休 講 |
| 日 本 経 済 史 | 4 | | マ ー ケ テ ィ ン グ 論 | 4 | | 国 際 金 融 論 | 4 | |
| 統 計 原 論 | 4 | | 商 業 経 営 論 | 4 | | 日 本 経 済 論 | 4 | |
| 民 法 I | 4 | | 保 険 経 営 論 | 4 | | 民 法 II | 4 | |
| 演 習 I | 4 | | 銀 行 経 営 論 | 4 | | 外 書 講 読 | 4 | |
| 3 年 次 選 択 | | | 国 際 経 営 論 | 4 | | 4 年 次 選 択 | | |
| 商 法 I | 4 | | 日 本 経 営 史 | 4 | | 商 法 II | 4 | |
| 演 習 II | 4 | | 経 営 統 計 | 4 | | 労 働 法 | 4 | |
| 3・4 年 次 選 択 | | | 上 級 簿 記 | 4 | | 演 習 III | 4 | |
| 経 営 学 史 | 4 | | 財 務 会 計 論 | 4 | | | | |
| ア メ リ カ 経 営 学 | 4 | | 管 理 会 計 論 | 4 | | | | |
| 経 営 財 務 論 | 4 | | 経 営 分 析 論 | 4 | | | | |
| | | | 税 務 会 計 論 | 4 | | | | |

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科，他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は，次の要領で履修することができる。

なお，履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち，他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.10参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし，授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は，卒業までに3科目12単位以内とする。

なお，その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

(1) 「履修要項」の講義内容を参考に，『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し，『他学部履修願』用紙に必要事項を記入の上，必ず最初の授業に出席し担当教員の受講許可を受けらる。

なお，『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は，教務部⑩番窓口で配布する。

(2) 『履修届』に記入し，『履修許可書』を添えて，所定の期日（履修届提出時）に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

(1) 所属学科の開設科目は，他学部科目として履修登録できない。

(2) 他学部科目は，『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。

(3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は，1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は，改めて前項の手続きを経なければならない。

なお，再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.11）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は，所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し，卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

| 開設学科 | 授業科目 | 単位 | 履修年次 | 備考 | 開設学科 | 授業科目 | 単位 | 履修年次 | 備考 |
|-------|--------------|-----|------|-----------|-------------|--------------|-----------|------|---------|
| 禅学科 | 禅学特講Ⅰ | 4 | 3・4 | | 社会学科 | マスコミュニケーション | 4 | 3・4 | |
| | 禅学特講Ⅱ | 4 | 3・4 | | | 産業社会学 | 4 | 3・4 | |
| | 禅学特講Ⅲ | 4 | 3・4 | | | 都市社会学 | 4 | 3・4 | |
| | 禅学特講Ⅳ | 4 | 3・4 | | | 社会福祉発達史 | 4 | 3・4 | |
| | 禅学思想史 | 4 | 3・4 | | | ロシア・東欧経済論 | 4 | 3・4 | ※イ |
| | 哲学史 | 4 | 3・4 | | | 社会政策 | 4 | 3・4 | |
| 仏教学科 | インド仏教史 | 4 | 3・4 | | 経済学 | 国民所得論 | 4 | 3・4 | |
| | 中国仏教史 | 4 | 3・4 | | | 中国経済論 | 4 | 3・4 | |
| | 日本仏教史 | 4 | 3・4 | | | アジア経済論 | 4 | 3・4 | |
| | 日用経典 | 4 | 3・4 | | | 中小企業論 | 4 | 3・4 | |
| | 仏教美術 | 4 | 3・4 | | | 教育経済論 | 4 | 3・4 | |
| | 現代哲学概説 | 4 | 3・4 | | | アメリカ経済論 | 4 | 3・4 | |
| 国文学科 | 上代文学 | 4 | 3・4 | | 商学科 | 商業政策 | 4 | 3・4 | |
| | 中世文学 | 4 | 3・4 | | | 貿易論 | 4 | 3・4 | |
| | 近世文学 | 4 | 3・4 | | 法律学科 | 行政法Ⅱ | 4 | 3・4 | |
| | 近代文学 | 4 | 3・4 | | | 民法Ⅳ(1) | 4 | 3・4 | |
| | 中国文学 | 4 | 3・4 | | | 民法Ⅳ(2) | 4 | 4 | |
| 英米文学科 | 英文学特講Ⅰ | 4 | 3・4 | | 政治学科 | 比較憲法 | 4 | 3・4 | |
| | 英文学特講Ⅱ | 4 | 3・4 | | | 地方自治法 | 4 | 3・4 | 休講 |
| | 英文学特講Ⅲ | 4 | 3・4 | | | 経済法 | 4 | 3・4 | |
| | 英文学特講Ⅳ | 4 | 3・4 | | | 国際関係論 | 4 | 3・4 | |
| | 英文学特講Ⅴ | 4 | 3・4 | | | 西洋政治史 | 4 | 3・4 | |
| | 英文学特講Ⅵ | 4 | 3・4 | | | 宣伝広告論 | 4 | 3・4 | |
| | 英米演劇特講 | 4 | 3・4 | | | 比較社会構造論 | 4 | 3・4 | 休講 |
| | 米文学特講Ⅰ | 4 | 3・4 | | | 政党論 | 4 | 3・4 | |
| | 米文学特講Ⅲ | 4 | 3・4 | | | 短大国文科 | 国文講読Ⅰ(上代) | 2 | 3・4 |
| 時事英語 | 4 | 3・4 | | 国文講読Ⅱ(中古) | 2 | | 3・4 | | |
| 地理学科 | 地質学 | 4 | 3・4 | | 国文講読Ⅲ(中世) | | 2 | 3・4 | |
| | 人口地理学 | 4 | 3・4 | | 国文講読Ⅳ(近世) | | 2 | 3・4 | |
| | 応用地理学Ⅰ | 4 | 3・4 | | 国文講読Ⅴ(近・現代) | | 2 | 3・4 | |
| | 文化地理学 | 4 | 3・4 | | 国文特講Ⅴ(近・現代) | 4 | 3・4 | | |
| 歴史学科 | 日本仏教史Ⅱ | 4 | 3・4 | | 短英大科 | 英文タイプライティングⅡ | 2 | 3・4 | |
| | 日本史特講Ⅶ(近代) | 4 | 3・4 | | 時事英語 | 4 | 3・4 | | |
| | 東洋史特講Ⅹ(近・現代) | 4 | 3・4 | | 短放射線大科 | 計算機言語概論 | 2 | 3・4 | 半期科目 ※ロ |
| | 西洋文化史Ⅰ | 4 | 3・4 | | | 臨床放射線特論Ⅰ | 2 | 3・4 | 半期科目 |
| | 考古学特講Ⅲ | 4 | 3・4 | 隔年開講 | | 応用計測学 | 2 | 3・4 | 半期科目 |
| | 歴史哲学 | 4 | 3・4 | | | | | | |
| | 哲学史 | 4 | 3・4 | | | | | | |
| | 日本民俗学 | 4 | 3・4 | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

※イ、「ロシア・東欧経済論」については、旧名称「ソビエト経済論」の単位を既に修得している学生は履修できない。

※ロ、計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定する。

7. 随意科目の履修方法

2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

| 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
|-------------|-----|-----|-----------------------|-----|-----|-----------------------|-----|-----|
| 比 較 思 想 特 講 | 4 | | 英 語 L L II | 2 | ※ | ス ペ イ ン 語 P L L (初 級) | 2 | |
| 英 会 話 II | 2 | ※ | ド イ ツ 語 P L L (初 級) | 2 | | ス ペ イ ン 語 P L L (中 級) | 2 | |
| ド イ ツ 語 F | 2 | | ド イ ツ 語 P L L (中 級) | 2 | | ロ シ ア 語 P L L (初 級) | 2 | |
| フ ラ ン ス 語 F | 2 | | フ ラ ン ス 語 P L L (初 級) | 2 | | ロ シ ア 語 P L L (中 級) | 2 | |
| 中 国 語 F | 2 | | フ ラ ン ス 語 P L L (中 級) | 2 | | | | |
| ス ペ イ ン 語 F | 2 | | 中 国 語 P L L (初 級) | 2 | | | | |
| ロ シ ア 語 F | 2 | | 中 国 語 P L L (中 級) | 2 | | | | |

※ 「英会話Ⅱ」・「英語LLⅡ」の履修を希望する者は、最初の授業に『履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を再度履修することをいう。
- ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。
- ニ. 外国語科目・体育実技Ⅰ・保健体育理論および宗教学Ⅰを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、「英会話Ⅰ」・「英語LLⅠ」については、当該科目の振替科目である「英語ⅠA」を再履修クラスで履修すること。
- ホ. 外国語科目の再履修は『外国語再履修科目授業時間表』（教務部⑩番窓口で配布）から履修し、最初の授業で『外国語再履修票』を提出して担当教員の許可を受けること。ただし、原級者が同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。この場合の外国語科目は、『外国語再履修票』を必要としない。
- ヘ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法

『外国人留学生』及び『海外帰国子女』の一部を対象とする科目で、原則として1・2年次において履修すること。

- 日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。
 - 日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。
 - 各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。
- (注) 詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P. 24参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

| 授業科目の区分 | 系列番号 | 分 野 番 号 |
|----------------|------|-----------------------|
| 一般教育科目 | 0 | |
| 人 文 分 野 | | 1 (必修) ・ 2 (選択) |
| 社 会 分 野 | | 3 |
| 自 然 分 野 | | 4 |
| 基礎教育科目 | 1 | 5 |
| 外国語科目 | 2 | |
| 保健体育科目 | 4 | |
| 実 技 | | 1 |
| 講 義 | | 2 |
| 専門教育科目 | 5 | |
| 必修科目 | | 1 ・ 2 ・ 3 |
| 選択科目 | | 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 |
| 随意科目 | 7 | |
| 再履修科目 | 8 | |
| 課程・講座科目 | 9 | |
| 必修科目 | | 1 |
| 選択科目 | | 2 |
| 教科科目 | | 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 |

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

所属する学科、学年に開講されている授業科目のうち履修を希望する科目を授業時間表から選び、所定の『履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる授業科目数（制限科目数）は次のとおりである。

| 年 次 | 履 修 科 目 数 | 課程・講座登録者科目数 |
|-------|--------------|-------------|
| 1 年 次 | 15 科 目 | — |
| 2 年 次 | 5 科目以上12科目以内 | 18 科 目 以 内 |
| 3 年 次 | 5 科目以上11科目以内 | 18 科 目 以 内 |
| 4 年 次 | 3 科目以上14科目以内 | 18 科 目 以 内 |

イ. 体育実技Ⅱ・随意科目は、上記表の制限外とする。

ロ. 半期科目も1科目とする。

ハ. 再履修科目の履修については、次のとおりとする。

(1) 2年次生はすべて制限科目数（12科目以内）の範囲内で履修すること。

(2) 3・4年次生は外国語科目・保健体育科目の再履修についてのみ制限科目数（3年次：11科目以内、4年次：14科目以内）の枠外とし、17科目以内で履修できるものとする。

(注) 再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は、再履修科目にならない。

ニ. 課程・講座科目を履修する場合

例) 3年次の場合

認める ……

履 修 制 限 科 目 数 { 外国語・保健体育科目の再履修は } + 課 程 ・ 講 座 科 目 数 = 18 科 目
5 科目以上11科目以内 { 制限外 その合計が17科目以内 }

認めず ……

履 修 制 限 科 目 数 { 外国語・保健体育科目の再履修は } + 課 程 ・ 講 座 科 目 数 = 18 科 目
4 科目以下又は12科目以上 { 制限外 その合計が17科目以内 }

ホ. 制限科目数の範囲内で順次履修すれば、課程・講座科目の履修や未・再履修の補充も制限科目数の範囲内で十分可能である。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は必ず本人が記入捺印し、指定された日時に学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は、学業の意志のないものとして処理する。なお、指定日時に提出できないものは事前に教務部⑨番窓口で相談すること。）

ロ. 履修届は、4月25日（月）9時30分から16時まで教務部臨時窓口で受付ける。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし、他学部履修科目（P.10参照）は、履修登録できる。

また、教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は『課程・各種講座授業時間表』（教職係窓口で配布）から履修し、教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

- ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。
- ホ. いったん提出（登録）した履修科目の変更は認めない。
- ヘ. 『履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

Ⅲ) 履修確認表の配布

下記の日・時に教務部臨時窓口において履修確認表を配布する。

(記) 5月18日(水)・19日(木) …… 9:30~16:00 昼休み除く

履修届(本人控)と照合の上、誤りのある場合は、5月30日(月)・31日(火)・6月1日(水)の期間に教務部⑨番窓口で必ず訂正すること。

※ 受付時間(9:30~16:00 昼休み除く、土曜日は9:30~正午まで)

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

正しい記入例

| 曜日 | 時限 | 科目名 | 科目コード | 担当者コード | 担当者名 |
|----|----|------------|--------|--------|-------|
| 月 | 1 | ドイツ語ⅠA | 512201 | 879 | 百済 勇 |
| 月 | 2 | 保健体育理論(前期) | 514201 | A10 | 長濱 友雄 |
| | | 保健体育理論(後期) | 514201 | 622 | |
| 月 | 3 | 宗 教 学 Ⅰ | 510101 | 157 | 岡部和雄 |
| 月 | 4 | 論 理 学 | 510203 | 306 | 国嶋一則 |
| 月 | 5 | 自然科学概論 | 510401 | 104 | 宇和川正人 |

| 曜日 | 時限 | 再履 | 科目名 | 科目コード | 担当 | 担当コード |
|----|----|----|------------|--------|-----|-------|
| | 1 | | ドイツ語ⅠA | 512201 | 百済 | 879 |
| | 2 | | 保健体育理論(前期) | 514201 | 長濱 | A10 |
| | 3 | | 宗 教 学 Ⅰ | 510101 | 岡部 | 157 |
| | 4 | ○ | 論 理 学 | 510203 | 国嶋 | 306 |
| | 5 | | 自然科学概論 | 510401 | 宇和川 | 104 |

- イ. 楷書体で正確に記入すること。
- ロ. 記入の際は、必ず黒のボールペンを使用し、捺印の上提出すること。
- ハ. 授業時間表のとおり記入すること。ただし、「担当」欄には、担当教員の姓のみを記入すること。
- ニ. 半期終了の科目は「再履」から「担当コード」欄までの中央に点線(上記、正しい記入例参照のこと)を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。
- ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
- ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。
 - (1) 科目名・科目コード、担当名(姓のみ)・担当コードが一致しない場合
 - (2) 時限を誤って記入した場合
 - (3) 判読できない数字で記入した場合(例として間違い易い数字 0と6, 1と7)
 - (4) その他、不明瞭に記入した場合
- ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名(姓のみ)・担当コードを正しく記入すること。
- チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失ないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次の順序で履修する科目を決定すると容易である。

| 順序 | 授業区分 | 授業科目（適用） | 科目数 |
|------------|--------|---|-----|
| 1 | 一般教育科目 | 宗教学Ⅰ（必修） | 1 |
| 2 | 外国語科目 | 第1外国語，第2外国語（選択必修） | 4 |
| 3 | 保健体育科目 | 保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修） | 2 |
| 4 | 基礎教育科目 | 経済学概説，経営学概説（必修） | 2 |
| 5 | 専門教育科目 | 簿記学（必修） | 1 |
| 6 | 一般教育科目 | 人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修) | 5 |
| 1年次履修制限科目数 | | | 15 |

4. 授業時間

授業時間は、次のとおりである。

| 時限 | 第1時限 | 第2時限 | 第3時限 | 第4時限 | 第5時限 |
|----|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 時間 | 9:00～10:30 | 10:40～12:10 | 12:50～14:20 | 14:30～16:00 | 16:10～17:40 |

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日(木)～7月20日(水)に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月17日(火)～2月3日(金)に実施する。
- ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。
なお、指定された日・時以外は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については提示で発表する。
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。〔締切日は前期7月25日(月)、後期2月6日(月)〕
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目1,000円とする。
(注意) 前期終了科目の追・再試験は9月26日(月)～10月1日(土)に、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月23日(木)～3月1日(水)に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試験時間

| 定期試験実施時間（前期） | | | |
|--------------|-------------|-----|-------------|
| 1時限 | 9:20~10:20 | 4時限 | 14:40~15:40 |
| 2時限 | 10:50~11:50 | 5時限 | 16:10~17:10 |
| 3時限 | 13:10~14:10 | | |

| 定期試験実施時間（後期） | | | |
|--------------|-------------|-----|-------------|
| 1時限 | 9:30~10:30 | 4時限 | 14:30~15:30 |
| 2時限 | 11:00~12:00 | 5時限 | 15:50~16:50 |
| 3時限 | 13:00~14:00 | | |

| 追・再試験実施時間（前期） | |
|---------------|-------------|
| 1時限 | 16:10~17:00 |
| 2時限 | 17:10~18:00 |

| 追・再試験実施時間（後期） | |
|---------------|-------------|
| 1時限 | 9:30~10:20 |
| 2時限 | 10:50~11:40 |
| 3時限 | 13:00~13:50 |
| 4時限 | 14:10~15:00 |
| 5時限 | 15:20~16:10 |

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.28）ので参照のこと。

7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を提示すること。

前期成績発表 9月16日（金）、19日（月）

後期成績発表（卒業年次生） 2月17日（金）、18日（土）

”（在校生） 4月9日頃

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表

| | 1年次から2年次 | 2年次から3年次 | 3年次から4年次 |
|---------|----------|----------|--|
| 進 級 | 30単位以上 | 60単位以上 | 90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。 |
| 注 意 進 級 | 29～20単位 | 59～48単位 | 86単位以上修得しているが、保健体育科目・外国語科目の不足単位数が12単位以下の場合。または、一般教育科目の不足単位がある場合。 |
| 原 級 留 置 | 19単位以下 | 47単位以下 | 85単位以下。または86単位以上修得しているが、保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。 |

※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。

※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

VII 教職課程・資格講座

経営学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次のとおりである。

| 課程・講座名 | 開講年次 | 備 考 |
|---------------------|-------|---|
| 教 職 課 程 | 2年次より | 教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。 |
| 学校図書館司書教諭講座 | " | 学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。 |
| 社会福祉主事講座 社会福祉士基礎 | " | 社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能) |
| 社会教育主事講座 | " | 社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。 |

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1か月前から掲示板で、その旨指示する。

VIII 事務取扱いについて

1. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時から16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表等各申込の受付は、9時30分から16時までとする。

2. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑩番窓口に出してその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

IX 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、事前に窓口で相談の上、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分し、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

| 休学願提出日 | 学 費 |
|--------------|--------------------------|
| 4月1日～9月20日 | 第1期(前期)分納入済のこと。(第2期分免除) |
| 9月21日～11月30日 | 第1期(前期)分・第2期(後期)分共納入のこと。 |

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、第1期(前期)学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

(1) 当該期学費納入者 …………… 退学願提出日

(2) 当該期学費未納者 …………… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

本大学卒業者（卒業見込者を含む）または2年以上在学した者（在学中の者を含む）で、同一学部他学科または他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、選考の上入学を許可することがある。

ただし、編入学生の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

11. 学生氏名・保証人

- イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づき J I S 第 1 水準・第 2 水準文字で運用する。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は 6 桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

| | | | | | |
|---|---|---|---|--|--|
| | | | | | |
| : | : | : | } | | |
| 学 | 学 | 入 | 一 | | |
| 部 | 科 | 学 | 連 | | |
| | | (| 番 | | |
| | | 年 | 号 | | |
| | | 度 |) | | |
| | | 曆 |) | | |

(例) 1994年度入学・経営学部
経営学科14番の場合

| | | | | | |
|---|---|---|----|---|---|
| 5 | 1 | 4 | 0 | 1 | 4 |
| : | : | : | } | | |
| 経 | 経 | 一 | 14 | | |
| 営 | 営 | 九 | 番 | | |
| 学 | 学 | 九 |) | | |
| 部 | 科 | 四 | 年 | | |
| | | 入 | 学 | | |

学部・学科の番号

| 学部・学科名 | 学部番号 | 学科番号 |
|-----------|------|------|
| 仏 教 学 部 | 1 | |
| 禅 学 科 | | 1 |
| 仏 教 学 科 | | 2 |
| 文 学 部 | 2 | |
| 国 文 学 科 | | 1 |
| 英 米 文 学 科 | | 2 |
| 地 理 学 科 | | 3 |
| 歴 史 学 科 | | 4 |
| 社 会 学 科 | | 5 |
| 経 済 学 部 | 3 | |
| 経 済 学 科 | | 1 |
| 商 学 科 | | 2 |
| 法 学 部 | 4 | |
| 法 律 学 科 | | 1 |
| 政 治 学 科 | | 2 |
| 経 営 学 部 | 5 | |
| 経 営 学 科 | | 1 |

X 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位の算入される。

XI 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

| 種 類 | | 要 領 (必 要 書 類) | 本人 印 | 保証 人印 | 取扱 窓口 |
|----------------------------|---------------|--|---------|----------|----------|
| 届 書 | 履 修 届 | <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること | 要 | 不要 | 掲示 |
| | 欠 試 届 | <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること(締切日は掲示参照) | 不要 | 不要 | ⑨ |
| | 改 氏 名 届 | <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後1週間以内 | 要 | 不要 | ⑤ |
| | 本籍地(都道府県名)変更届 | <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後1週間以内 | 要 | 不要 | |
| | 保証人変更届 | <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・在学誓書(保証書)添付 | 要 | 要 | |
| | 保証人住所変更届 | <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・変更後1週間以内 | 不要 | 不要 | |
| | 死 亡 届 | <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・死亡を証明できる書類(写し可)添付 | / | 要 | |
| 願 書 | 休 学 願 | <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届 ・その他の場合は、保証人連署の理由書 | 要 | 要 | ⑤ |
| | 復 学 願 | <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付 ・4月10日までに提出すること | 要 | 要 | |
| | 退 学 願 | <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・学生証添付 | 要 | 要 | |

※ 大学の定める諸届(願)の提出期限が、日曜・祭日の場合はその翌日までとする。

XII 各種証明書取扱い窓口

| 証 明 書 名 | 取 扱 窓 口 | 料 金 |
|---------------------|-----------|--|
| 成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ） | 教 務 部 ④ 番 | 在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円） |
| 成 績 証 明 書 | | |
| 卒 業 証 明 書 | | |
| 教員免許状取得見込証明書 | | |
| 教職・講座単位修得（見込）証明書 | | |
| 一般教養科目修了（見込）証明書 | | |
| そ の 他 の 諸 証 明 書 | 就 職 部 | |
| 人 物 考 査 書 | | |
| 健 康 診 断 証 明 書 | 学 生 部 ③ 番 | |
| 在 学 証 明 書 | 学 生 部 ② 番 | 無 料 |
| 学 割 | | |
| 通 学 証 明 書 | | |

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口で申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、5月下旬から7月下旬まで及び3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をとまなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講 義 内 容 目 次

| | |
|---------------------|------|
| 一 般 教 育 科 目 | (35) |
| 保 健 体 育 科 目 | (40) |
| 随 意 科 目 | (41) |
| 基 礎 教 育 科 目 | (45) |
| 専 門 教 育 科 目 | (46) |
| 他 学 部 履 修 科 目 | (61) |

〔 卷 末 〕

教職および資格講座

一般教育科目

人文分野

| | |
|----------------------------|----|
| 宗教学 I (池田 練太郎) | 35 |
| 宗教学 I (石川 力山) | 35 |
| 宗教学 I (伊藤 隆壽) | 35 |
| 宗教学 I (井桁 碧) | 35 |
| 宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄) | 35 |
| 宗教学 I (再クラス) (奈良 康明) | 35 |
| 宗教学 II (皆川 広義) | 36 |
| 宗教学 II (椎名 宏雄) | 36 |
| 宗教学 II (佐々木 章格) | 36 |
| 宗教学 II (白金 昭文) | 36 |
| 哲学 (丸山 豊樹) | 36 |
| 論理学 (戸田 洋樹) | 36 |
| 倫理学 (国嶋 一則) | 37 |
| 文学 (森藤 憲定) | 37 |
| 歴史学 (茂沢 方尚) | 37 |

社会分野

| | |
|---------------------|----|
| 法学憲法 (北野 かほる) | 37 |
| 法学憲法 (茂野 隆晴) | 37 |
| 社会学 (岩上 真珠) | 37 |
| 地理学 (中島 義一) | 38 |
| 統計学 (日下 泰夫) | 38 |
| 文化人類学 (小川 順敬) | 38 |
| 文化人類学 (村武 慶) | 38 |

自然分野

| | |
|-----------------------|----|
| 自然科学概論 (漆原 和子) | 38 |
| 自然科学概論 (宇和川 正人) | 38 |
| 自然科学概論 (篠原 正雄) | 38 |
| 自然科学概論 (安羅岡 一男) | 39 |
| 数学 (福田 賢一) | 39 |
| 数学 (三好 重明) | 39 |
| 心理学 (板津 裕己) | 39 |
| 心理学 (鈴木 順一) | 39 |

保健体育科目

| | |
|-----------------------------|----|
| 保健体育理論 (高橋 俊介) | 40 |
| 保健体育理論 (田中 佳孝) | 40 |
| 保健体育理論 (再クラス) (牧野 茂) | 40 |
| 保健体育理論 (再クラス) (宮沢 栄作) | 40 |

随意科目

| | |
|---|----|
| 比較思想特講 (麻生 建) | 41 |
| 比較思想特講 (洗 建) | 41 |
| 英会話 II (P. A. Bendinelli ・ T. A. Grange | |

W. Hubbard ・ D. J. Nolan

J. K. Wells ・ P. Ziegler)

| | |
|--|----|
| 英語 L L II (T. J. Cogan ・ 岩山 義春 大庭 直樹) | 41 |
| ドイツ語 F (柴野 博子) | 42 |
| ドイツ語 F L L (初級) (小林 ゲアリンデ) .. | 42 |
| ドイツ語 F L L (中級) (松岡 晋) | 42 |
| フランス語 F (桑田 禮彰) | 43 |
| フランス語 F L L (初級) (小玉 齊夫) | 43 |
| フランス語 F L L (初級) (M. マルタン) | 43 |
| フランス語 F L L (中級) (M. マルタン) | 43 |
| 中国語 F (釜屋 修) | 43 |
| 中国語 F L L (初級) (松本 丁俊) | 43 |
| 中国語 F L L (中級) (小川 隆) | 43 |
| スペイン語 F (アウロラ・ベルエタ) | 44 |
| スペイン語 F L L (初級) (ホワン・ナバロ) .. | 44 |
| スペイン語 F L L (中級) (ホワン・ナバロ) .. | 44 |
| ロシア語 F (杉山 秀子) | 44 |
| ロシア語 F L L (初級) (木村 英明) | 44 |
| ロシア語 F L L (中級) (滝川 ガリーナ) | 44 |

基礎教育科目

| | |
|---------------------|----|
| 経済学概説 (永田 智則) | 45 |
| 経営学概説 (中村 真人) | 45 |

専門教育科目

| | |
|------------------------|----|
| 簿記学 (片桐 伸夫) | 46 |
| 簿記学 (近藤 禎夫) | 46 |
| 簿記学 (中平 榮一) | 46 |
| 簿記学 (川口 修) | 46 |
| 簿記学 (加古 宜士) | 46 |
| 簿記学 (古庄 修) | 47 |
| 簿記学 (大野 満奈) | 47 |
| 経営学 (鈴木 幸毅) | 47 |
| 会計学 (高木 克己) | 47 |
| 経営史 (前田 和利) | 47 |
| 経営管理論 (鈴木 幸毅) | 48 |
| 企業形態論 (園田 哲男) | 48 |
| 原価計算論 (近藤 禎夫) | 48 |
| 経済原論 (明石 博行) | 49 |
| プログラミング論 (青木 武典) | 49 |
| プログラミング論 (高井 徹雄) | 49 |
| プログラミング論 (森 博彦) | 50 |
| 近代経済学 (滝田 公一) | 50 |
| 日本経済史 (北島 万次) | 50 |
| 統計原論 (吉野 紀) | 50 |
| 民法 I (鶴井 俊吉) | 50 |
| 商法 I (荒木 正孝) | 51 |

| | |
|-------------------------|----|
| 経営学史 (北村 健之助) | 51 |
| アメリカ経営学 (宮城 徹) | 51 |
| 経営財務論 (高田 光明) | 52 |
| 経営労務論 (中村 真人) | 52 |
| 経営組織論 (長瀬 勝彦) | 53 |
| 経営技術論 (小野寺 孝一) | 53 |
| 経営情報論 (高井 徹雄) | 53 |
| 経営科学 (和光 純) | 54 |
| 情報理論 (西村 和夫) | 54 |
| 公益企業論 (石井 彰次郎) | 54 |
| マーケティング論 (曾我 信孝) | 54 |
| 商業経営論 (森宮 勝子) | 54 |
| 保険経営論 (石名坂 邦昭) | 55 |
| 銀行経営論 (大岡 誠市) | 55 |
| 国際経営論 (茂垣 広志) | 55 |
| 日本経営史 (萩本 眞一郎) | 55 |
| 経営統計 (相山 長知) | 55 |
| 上級簿記 (大野 満奈) | 56 |
| 管理会計論 (長松 秀志) | 56 |
| 財務会計論 (渡邊 惠一郎) | 56 |
| 経営分析論 (片桐 伸夫) | 56 |
| 税務会計論 (高木 克己) | 56 |
| 会計監査論 (中平 榮一) | 57 |
| 証券市場論 (佐藤 昇) | 57 |
| 商業史 (山田 勝) | 57 |
| 経済政策 (西山 司) | 57 |
| 財政学 (速水 昇) | 57 |
| 金融論 (石野 典) | 58 |
| 国際金融論 (齊藤 寿彦) | 58 |
| 日本経済論 (羽鳥 茂) | 58 |
| 民法Ⅱ (上井 長久) | 58 |
| 外書講読 (英) (石井 彰次郎) | 58 |
| 外書講読 (英) (高田 光明) | 59 |
| 外書講読 (独) (百済 勇) | 59 |
| 外書講読 (仏) (前田 祝一) | 59 |
| 外書講読 (中) (松本 丁俊) | 59 |
| 外書講読 (ス) (佐藤 玖美子) | 59 |
| 外書講読 (口) (杉山 秀子) | 59 |
| 商法Ⅱ (前期:黄 清溪) | |
| (後期:島原 宏明) | 60 |
| 労働法 (藤本 茂) | 60 |

一般教育科目

人文分野

〔教科書〕松本史朗『仏教への道』（東京書籍）
¥1,400

〔参考書〕授業において紹介する。

宗 教 学 I

池 田 練太郎

宗教学の成立、及び宗教のもつ基本的な問題について考えた後、仏教の思想及び社会的側面について、歴史的展開を踏まえながら検討していこうと思う。

〔教科書〕『宗教学 I』（更生社）

宗 教 学 I

井 桁 碧

宗教は「戒律」「教義」「教団組織」といった枠組みを通して把握されることが多い。たしかにそれらを通して人間の宗教的営為を理解することも可能であろう。しかし本講では、そうした体系的な思想や組織化された教団としての宗教ではなく、人々の行為、祭りや儀礼などに着目し、そこに示されている「民俗の想像力」を探ることを目的とする。本年度は「シャーマニズム」「死」を中心に、日本人にとって宗教とは何か、さらに人間社会における宗教の意味・機能について考察したい。参考書は授業の中で紹介する。

宗 教 学 I

石 川 力 山

前期は宗教とは何かという課題について、世界の諸宗教を体系的にとらえた上で、個人と宗教、社会集団と宗教、国家と宗教等の問題について考えてみたい。

後期は、仏教についての基本的理解を深めた上で、アジア世界における仏教の様態について触れ、人間生活と宗教の問題について検討する。

〔教科書〕駒沢大学仏教学研究室編『宗教学 I』（更生社）¥2,370

〔参考書〕水野弘元・柴田道賢監修
『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教の歩んだ道1』（東京書籍）

宗 教 学 I

伊 藤 隆 壽

仏教は、日本人にとって最も身近な宗教である。しかし、その仏教に対する正しい理解・認識をもつ人は甚だ少ない。本講座では、先ず第一に仏教の基本的な教え、立場についての理解を深めるようにしたい。その過程において、他の宗教や宗教に関する基礎的問題に言及することにする。

宗 教 学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

皆 川 広 義

はじめに、日本人の心に大きな影響をあたえてきた仏教について、教主釈尊の教えを中心に概説する。

次に、仏教のなかで、生活化された仏教といわれる禅について、その歴史を中国・日本へとたどりながら、思想や創造した禅文化について考究したい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

宗 教 学 II

椎 名 宏 雄

宗教学Ⅰで学習した基礎の上に立ち、仏教思想の中でも特に東洋的で超宗派的な多くの特長をもつ禅について、広い視野からの総合的な理解を目指す。

講義はノート筆記と口述により、(1)仏教と禅、(2)禅の歴史、(3)禅の実践、(4)禅の思想、(5)禅と文化、(6)禅と経営、の順に進める。学習とは、みずから理解し身につけることであって、試験のために暗記することであってはならない。したがって、講義の中で、随時に関連したテーマをとりあげ、現実の問題として学生諸君とともに考えてゆきたい。坐禅の実習も行なう。

〔参考書〕適宜紹介する。

宗 教 学 II

佐々木 章 格

すでに宗教学Ⅰにおいて、宗教の概説、インド・中国・日本の仏教を学んだことと思う。この宗教学Ⅱにおいては、さらにすすんで日本文化にも多大の影響を及ぼしている「禅」について探究する。

禅は理論も知らなければならないが、同時に生活の上に実践できなければ意味がない。今日、一般の人々が仏教とりわけ禅に寄せる関心の高さには驚かされるものがある。

ここでは、「禅」の概要および中国・日本における禅宗の歴史と変遷を、その時代時代の禅者を通して考えながら学び、思想的理解を深める。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

白 金 昭 文

1. 宗教としての禅
 - (1) 釈迦の教えと禅
 - (2) 禅と人間・生活・文化
2. 禅の歴史に学ぶ
 - (1) 禅宗の祖ダルマの教え
 - (2) 禅の思想
 - (3) 禅の日本の展開 — 道元と瑩山
 - (4) 禅と現代
3. 禅の体験 — 坐禅実習

哲 学

丸 山 豊 樹

哲学は生きるための支え、拠り所を求めつつ、同時にそれが確かめられた学問的知識であることを求める。その意味で、哲学は諸学と経験の基礎づけをめざし、それにより生きることを学ぶものである。授業では、最初、この哲学的思索がいかに行われ、いかなる問いが立てられねばならないか、について一般的な重点を説明する。それを、更に、具体的に過去の哲学の営みを通して検討し、現代的視点から過去の哲学 — 古代ギリシア哲学から現代哲学にいたるまで — の意味を学ぶことにする。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

論 理 学

戸 田 洋 樹

科学であれ哲学であれ、また日常的な行為においても、正しい論理的思考が求められるが、それを主眼的に探究するのが論理学である。授業では、前期では主にアリストテレス以来の伝統的論理学（概念論、判断論、推理論等）を取り上げる。後期では、現代の記号論理学の基礎的内容（命題論理学と述語論理学）を学ぶ。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

社会分野

倫理学

国嶋一則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に基づく行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主要な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努める。哲学思想の基礎的概念や考え方の解明を重視し、教材の重要な個所を解説して読解力を養成する。
〔教科書・参考書〕その都度指示する。

文学

森藤憲定

『小倉百人一首』は、万葉集時代から新古今集時代までの約600年間の百人の歌人各一首からなる秀歌撰である。この秀歌撰は、室町期より歌学に於いて重視され、江戸期には多くの注釈書が版行され、カルタの流行などにより庶民にも広く普及した。『小倉百人一首』は、成立以後現代に至るまで和歌入門書、教養書の性格を持ち続けている。講義では『小倉百人一首』を、撰者である藤原定家（1162～1241）の和歌史観をふまえて、和歌史と文化史の両視座から読み、日本人の心の歴史に脈々と生き続けている抒情の世界、その源流である和歌の美と伝統にふれる。
〔教科書〕鈴木日出男著『百人一首』筑摩書房（筑摩文庫）¥700

歴史学

茂沢方尚

中国古代、なかでも殷周春秋戦国秦漢代までの、中国と西北方の民族との関係史を展望する。王国維の「鬼方昆夷獫狁考」を解説検討する。甲骨金文から漢文資料を利用するために、その基礎となる所謂文字学、即ち小学及び、広く深い伝統を有する中国学の全般にわたる解説をあわせて行う。最も基礎的文獻たる『史記』を通じて司馬遷の見た中国人の経済と心の問題等も考えてみたい。
〔参考書〕茂沢方尚著『韓非子』の思想史的研究（近代文藝社）¥5,000

法学憲法

北野かほる

前半では社会における法の機能と社会人と法の一般的な関わりとについて考察し、これを基礎に後半では現在の日本の国家システムにおける基本的法規である日本国憲法について、主に人権に焦点をあてて解説する。
〔教科書〕未定。
〔参考書〕随時指示する。

法学憲法

茂野隆晴

平素の日常生活のなかでは余り意識されることがないかもしれないが、われわれは多種多様な法制に困繞されており、ときにそれによって重大な影響を被ることも少なくない。こうした状況のもとで、正しい法知識、法的素養を身につけることは必須の要件といっていよい。
法律は、ともすれば無味乾燥なものと理解されている向きがある。そこで、成るべく身近な問題に照して平易に講述していく。
講義は、前半で、わが国の法制の歴史的変遷、現代国家の仕組みなどを概観したうえで、現代法の特性に及ぶ。後半では、教養としての憲法を念頭におき、憲法全般の解釈をおこなう。
〔教科書〕大久保治男・茂野隆晴・櫻井一成共著『現代法学』（高文堂出版社）
〔参考書〕適宜指示します。

社会学

岩上真珠

個人は、社会に生み込まれ、社会の一員としてさまざまな社会現象に遭遇する。講義では、家族、近隣、学校、職場といった個人が会おう身近な現象を、誕生から子ども時代、青年期、成人期、老年期を経て死に至る個人の生活史に即して、考察してみたい。講義を通して、われわれをとりまく生活世界の構造を理解してもらうことを目指す。
〔教科書〕高島・岩上・石川共著『生活世界を旅する—ライフステージの社会学』（福

村出版]

[参考書] 授業中、適宜指示する。

地理学

中島義一

地理学の諸分野のうち、日本の歴史地理に重点をおいて講義する。下記の教科書のほか、地図帳(高校生の時に使ったものでよい)を忘れずに持ってくること。

[教科書] 矢守一彦『空から見た歴史景観』(大明堂) ¥2,400

統計学

日下泰夫

統計学は経営、経済等の諸問題を解決する1つの有力な手法であり、広範な領域で利用されている。本講義では、統計学の基本的な考え方を例題をまじえて説明する。特に、理解を深めるための演習に力を入れたい。さらに、この分野でコンピュータがどのように利用されるかを理解するための「パソコン実習」(度数分布法、正規乱数の発生、確率分布の計算、モンテカルロ・シミュレーション等)も行いたい。

1. 統計学の歴史
2. 統計的方法の本質
3. 記述統計
4. 標本空間と確率
5. 確率変数と確率分布
6. 母集団と標本
7. 推定
8. 検定
9. 相関
10. 回帰

[教科書] P. G. ホーエル

(浅井 晃・村上正康共訳)

『初等統計学』(培風館) ¥1,530

[参考書] 開講時に紹介する。

文化人類学

小川順敬

文化人類学は様々な文化の比較・研究を通じて、「人間の理解」を旨としている。講義では、文化人類学の目的や特色、基本的な考え方を、「社会構造」「文化とパーソナリティ」「宗教と世界観」などの問題を検討していく中で、明らかにしていきたい。

[教科書] 『文化人類学入門』(中公新書560番)

文化人類学

村武慶

日本文化を中心に、文化人類学の基本的問題、家族、親族、婚姻、儀礼などをとり扱いたい。

[教科書] 村武精一・佐々木宏幹編『文化人類学』(有斐閣Sシリーズ) ¥1,545

自然分野

自然科学概論

漆原和子

自然科学の歴史を通して、これまで人類が自然にどのように接してきたかを説明する。さらに現在、高度の科学・技術をもって人類が自然へ働きかけることによってどのような問題をかかえているかを考察する。

[教科書] なし

[プリント] 必要に応じて、その都度配布する。

自然科学概論

宇和川正人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

[参考書] その都度紹介する。

自然科学概論

篠原正雄

「現代科学の自然像と地球外文明探査」

現代の自然科学は細かい分野に分かれ、研究者も隣の分野の専門的なことはわからない。けれども、自然は一つであるから、どの分野も互いに深く関わりあっている。例えば宇宙の果ての天体の観測が地震予知に使われている。本講では地球外文明探査(SETI)をとりあげる。SETIはSFではなく科学である。根底には、生命と文明

に満ちた我々の世界が宇宙の中の極めて稀な偶然の産物なのか、それとも自然の進化の必然の結果なのかという問いが横たわっている。このテーマの下で、素粒子から宇宙に至る自然の階層構造と、自然の進化について現代科学諸分野を総合して得られる自然像を学ぶ。

〔教科書〕前田担著「自然科学への招待」培風館

自然科学概論

安羅岡 一 男

今日では医学は臨床医学をも含めて自然科学の中の生物学の一分科である。「流行病の学問」として発生した疫学は、最近では「人間疾病の生態学」としてとらえられている。最近重大な関心が寄せられているエイズ、がん、輸入病、院内感染、気功などを例にとって、病気の科学について解説したい。

〔参考書〕その都度紹介する。

数 学

福 田 賢 一

自然、工学的現象だけでなく、社会科学諸分野との関連、応用を考えながら、現代数学の基本的概念、方法を学ぶ。

予備知識は特に必要としない。しかし、自分自身で考え分析するという態度は当然必要である。

内容は次のとおりである。

(1)論 理 (2)線形代数 (3)微 積

(4)確率・統計 (5)ゲームの理論

〔教科書〕大学自然科学教育研究会『新しい数学』(東京数学社) ¥1,600

〔参考書〕必要となり次第指示する。

数 学

三 好 重 明

数学とは遊びである。人類は役に立つという理由だけで数学の研究を行ってきたわけではない。350年間の世界中の数学者達の挑戦のすえ、去年(1993年)やっと解決されたフェルマーの最終定理(方程式 $x^n + y^n = z^n$ は n が3以上のとき整数解を持たない)は実際の生活に役に立つだろうか。すぐに役立つとは思えないだろう。だが人類は単にそれが知りたいから、わかりたいからこの問題を追及してきたのだらう。「わかる」こと

は楽しい。そしてそうやって構築してきた数学が実際役に立ってしまうから素晴らしいのではないか。この講義ではこの原点に立ち返って、受講者達と共に数学の世界に遊びたいと思う。

心 理 学

板 津 裕 己

心理学は、人間の諸行動を科学的に研究することによって、「人間とは何か」さらに「自分自身」を明らかにしていこうとする学問である。本講義では、まず最初に心理学研究の輪郭について述べた後、主要研究領域である感情、欲求、発達、パーソナリティ、社会的行動、犯罪や非行への心理学的アプローチ、さらには、産業界への応用などのうちからいくつかのテーマを選んで話を進めていきたい。

〔参考書〕講義の進行にともない、適宜紹介していきます。

心 理 学

鈴 木 順 一

心と行動の科学であろうとしている心理学は、人間行動を予測し制御しようとする行動科学や、自己を理解し自己を制御しようとする臨床的アプローチ等として発展しつつある。本講座では、主として臨床心理学やパーソナリティ心理学を中心に、カウンセリングや心理療法を体験実習しながら、自己をみつめ自己を知りセルフ・コントロールできるよう自己成長をめざしてグループ学習を進める。最初の授業で述べる学習方針を良く理解し、自己の責任において主体的に選択すること。

〔評価方法〕出席点と平常の小レポート、小試験により評価します。

〔教科書〕特に教科書は指定しませんが、知識としての心理学を理解するために『心理学概説』(八千代出版)をお読み下さい。

〔参考書〕授業内で指示します。

保 健 体 育 科 目

保健体育理論

高 橋 俊 介

保健体育理論をとおして身体の健康とか体力について考える。

- I. 運動はなぜ必要か — 人間は動くことによって、生命を維持する。
- II. 体育による教育 — 体育を通して、どのような教育的効果があるか。
- III. 現在行なわれている運動がどのような経緯で生まれてきたか。
 - イ. 実用面
 - ロ. 健康の面
 - ハ. ホモルーデンスの面
- IV. 体育に関係のある言葉の解説

(注) 評価方法 — 特にペーパーテストは行なわないが毎月1回のレポート提出で試験に代える。

保健体育理論 (再クラス)

宮 沢 栄 作

大学保健体育の目的をふまえ、我が国体育の変遷にふれ、併わせてその時代時代の体育の特長を明確にとらえさせることを導入とし、身体運動の意義とスポーツの持つ価値の再認識を生理、解剖学的根拠をもって図る。

具体的には、栄養学を含めた体力トレーニング論と、価値あるべきスポーツが、方法を誤ると重大な障害を引き起すスポーツ障害の原因、予防更に日常生活に於ける救急処置法等についてふれていきたい。また現在大きな問題となっているエイズについて、ビデオ等を教材として過ちのないよう指導をしたいと考えている。

保健体育理論

田 中 佳 孝

健康生活を維持する為に必要な栄養学的知識について、食物とビタミンを中心に講義を展開する。

内容はビタミンの生理作用と薬理作用・ストレス・喫煙と飲酒・身体に良い食物・間違ったダイエット等について話し、AIDSについて識る。

保健体育理論 (再クラス)

牧 野 茂

健康の正しい認識、健康を阻害する因子、健康・体力づくりを中心テーマとし、具体的な事例又は話題をとりあげながら授業を展開する。

随 意 科 目

比較思想特講

麻 生 建

ヨーロッパの思想が明治以来、さまざまな形で歪められながら輸入されてきた経緯を考えながら、日本の思想とヨーロッパの思想の差異について考える。

〔教科書〕丸山真男『日本の思想』（岩波新書C 39）

比較思想特講

洗 建

法律と宗教のかかわりについて考察する。法律が規範の体系である以上、社会で主要な伝統となってきた宗教の世界観や人間観と無縁ではあり得ない。東西の宗教文化と日本の近代法をめぐる問題について考える。

〔参考書〕随時指示する。

英 会 話 II

P. A. Bendinelli ・ T. A. Grange
W. Hubbard ・ D. J. Nolan
J. K. Wells ・ P. Ziegler

全学で6クラスを設け、学部および短大の2年次生以上を対象とします。1年次で英会話Iを履修した学生を対象とするクラスとそれ以外の初修者も参加できるクラスがあります。各担当者の講義内容（syllabus）を参考にし、場合によっては受講希望クラスの担当教師に相談してください。

担当者、曜日、時限、クラスは時間割表で確認してください。

P. A. Bendinelli

A course for highly motivated students. (UPPER LEVEL II CLASS) Class will be student orientated, not teacher orientated. Details in first meeting.

T. A. Grange

“...the English language is nobody's special property...”

You must learn to listen. Carefully. And you must talk. Talk, talk, talk, talk, talk, and talk some more. To your classmates. To yourself. To me.

“...it is the property of the imagination...”

(Derek Walcott, Nobel laureate in literature, 1992, quoted by Jervis Anderson in “Derek Walcott's Odyssey”, The New Yorker, December 21, 1992)

W. Hubbard

This course presents the basic as well as more advanced language skills that one needs for everyday communication in English. The emphasis is on class interaction, comprehension, and application. A variety of dialogs, situations, topics and EIKEN oriented material will be used.

〔教科書〕The text material will be decided depending on the ability of the students assessed at class time.

D. J. Nolan

At the core of this course is

- 1) a series of dialogues that are topical and should prove interesting to Japanese students, and
- 2) language activities that are meaningful and intellectually rewarding.

The material is advanced in the sense that it takes for granted the considerable familiarity Japanese students already have with English but recognizes a need to provide further opportunities to internalize what students have learned at lower levels.

The course specifically intends to help students prepare for the STEP tests (Eiken), either second level or higher, the targeted level depending upon the qualifications of those who apply.

Grades are determined on the basis of attendance, participation, and occasional

short tests.

〔教科書〕 Dale Fuller/Clyde W. Grimm, Milestones, Macmillan Language House
¥1,800

J.K. Wells

Hello students! Welcome to my English Conversation II course. Once again this year I hope to provide an opportunity for students to practice speaking English with each other. So, if you like to speak English, please come to my class. There are no tests! See you in class!!

P. Ziegler

The course will consist of exercises designed to expand student vocabulary and improve oral communication skills. A wide variety of materials will be used.

〔教科書〕 Mark Twain Huckle berry Finn
(Yohn) ¥720

英語LLⅡ

T. J. Cogan・岩山義春
大庭直樹

英語LLⅠのアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語LLⅠを履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。最後までやり通す意欲ある学生を歓迎します。

担当者及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

T. J. Cogan

In this intermediate-advanced course we will study American English through video.

The text this year will probably be either a popular movie or a video series. Since the class will be small, there should be ample opportunity for students to discuss in English what they see on the screen. The purpose of the course is to improve each student's ability to comprehend and speak English at a fairly high level. The course will be conducted entirely in English. I will announce the text on the first day of class.

岩山義春

聞き取りと表現力の向上をめざします。毎週話題となっているニュースを選び、それを繰り返し聞き、英文でアウトラインを書いてもらい、毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありません。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

大庭直樹

前期と後期にビデオ映画(英語の字幕付き)をそれぞれ1本ずつ観る。前期は、会話表現、語法等を検討しながら、各場面を英語で要約することに重点をおく。後期は、映画の各場面について、フリーにディスカッションする形式をとりながら、発話力を身につけていく。授業は、英語でおこなう。

ドイツ語F

柴野博子

我々がドイツ文化をどうとらえているか、また、ドイツ人が日本文化をどうとらえているか、といういわゆる異文化理解の問題は、国際化がさげばれている今日、非常に重要なテーマだと思います。そこで本年は、ドイツ人の講演や新聞・雑誌の記事等を手がかりにして、この異文化理解の問題を考えて行きます。

なお、テキストは、随時コピーしてお渡しします。

ドイツ語FLL(初級)

小林ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や句型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語FLL(中級)

松岡晋

本講義はFLL(初級)修了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、受講してかまわない。また初級・中級の両方を同時に履修してもさしつかえない。

学習上の目標は、毎年秋におこなわれる「ドイツ語検定試験」(独検)の四級ないし三級に合格できるための会話力・耳からの理解力・文章理解力の養成にある。

目標をもってドイツ語を学ぶ意欲のある学生の受講を期待している。テキストはコピーを用意するが、受講者の希望もとり入れる。

〔教科書〕コピーを配布する。

フランス語 F

桑 田 禮 彰

フランスの文化と社会を、いくつかのテーマに沿って具体的に概観しながら、日本との違いを考えていきます。テーマとしては、家族／教育／趣味／宗教／思想などを予定しています。いずれの場合も、フランスの最新の社会科学・人文科学の成果を紹介しながら、授業をすすめます。出席者には資料を配布します。資料にはフランス語のものと日本語のものがありますが、フランス語の初心者でも歓迎します。フランス文化とフランス語は不可分です。この授業は特にフランス文化に重点を置き、フランス語については、出席者各人の能力を考慮した指導をしていきます。フランスという鏡に映る日本を見極めようとする意欲的な人の出席を望みます。

〔教科書〕使いません。

〔参考書〕授業の中で指示します。

フランス語 F L L (初級)

小 玉 齊 夫

ビデオ教材を利用して、初級の聞きとり・会話の練習を行います。この授業の良さは、自由な発想のもとに、教える者も教えられる者も、2年生も4年生も平等に、友愛感に溢れた雰囲気、しかも小人数で、フランス語に親しめるという点でしょう。ともすれば文字と文法とに片寄りがちなこれまでのフランス語習得を、音と映像とで補うのが主たる目的ですが、事情が許せば、フランスの絵画や映画を見に外へ飛び出したい、とも思っています（昨年は皆でvinをすすって、フランス文化を「実践」したりしました）。

授業時間が少ないのが難ですが、その気になれば、一年後には初歩のフランス語会話は出来るようになる、はずです。Bon courage!

〔教科書〕『Avec Plaisir 1』(4月にL L事務室で購入のこと)

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通

じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、少し高度な聴きとり、及び表現の練習をします。

教材は教室で指示します。

中国語 F

釜 屋 修

中国の民衆の生活の実態を微型小説(ショート・ショート)、新聞記事などを通してさぐりつつ、中国語読解能力の向上をめざします。中国語学習歴二年以上またはそれと同等の力を有し、中国と中国語に関心をもつ諸君を“熱烈歓迎”。

毎時間簡単な中国語会話の練習もとります。独自プリントを開講時に配布します。

〔参考書〕開講時に紹介します。

中国語 F L L (初級)

松 本 丁 俊

ビデオ教材を使って、会話と聴き取りの練習をします。中国語 I 既習でいどの基礎力が必要です。ビデオの内容は、ごく日常的な場面での会話ばかりで、楽しく学んでいけるとと思います。

発音の復習から始めますので、イチからやり直したい人、中国語 I A・B の成績が芳しくなかった人でも大丈夫。

中国語 F L L (中級)

小 川 隆

中国語を1年以上履修したか、またはそれと同程度の学習歴のある人を対象に、映画・テープ等を使った会話と聴き取りの訓練を行います。新たな知識の獲得よりも、既習の知識の耳と口への定着を主な目標とします。教材はプリントを用意しますが、適宜、基本的な文法知識の復習を行うため、下記の教科書を毎回持参して下さい。

〔教科書〕 山下輝彦『中国語の入門』白水社
¥1,800

スペイン語 F

アウロラ・ベルエタ

1・2年でおぼえた基本のスペイン語を身につけよう！最新のビデオを見てかんたんな会話をどういふコンテキストの中で使うかをたしかめてから実際に声を出して自分のものにします。必要に応じてカセットテープも使う予定です。

〔教科書〕 VIAJE AL ESPAÑOL SELF-ACCES COURSE
BOOK 2 SANTILLANA 発行
発売元：伸興通商株式会社 ¥2,000
Tel (03)3353-1751

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の表現力を身につけるための平易な読みものを取りあげ、ロシア語らしい言いまわしや、語いを広げて様々なスタイルのロシア語文に馴れてもらうことを主眼とし、第二には最新版のアガニョークやリテラトゥールナヤ・ガゼータの記事を取りあげ、現代ロシア社会のひずみや歪んだ部分に光をあててみたい。

〔教科書〕 教場にてプリントを配布。

〔参考書〕 露語辞書、NHKロシア語初級教科書の文法表（この教科書をもっていない人は文法表をさしあげます。）

ロシア語 F L L (初級)

木村 英明

日常会話に役立つ簡単な表現をやさしい文章を用いて練習します。発音、イントネーションに重点をおいた反復練習により初等ロシア語の知識を耳と口から身につけることを目的とします。特に、最初の段階では受講者一人一人の発音上の欠点を分かりやすく指摘し、正しいロシア語の発音に慣れるようにします。

〔教科書〕 プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L (中級)

滝川 ガリーナ

ロシア語の正規授業を履修した人または同程度の学習体験を有する人を対象とします。ロシア語独特の言いまわし、イントネーションを小話等の短文を用いながら受講者の能力に応じて修得することを目的とします。またロシア語を通じユーラシア大陸におけるロシア連邦、各共和国、諸民族の生活や文化にもふれます。

〔教科書〕 プリントを教場で配布。

基礎教育科目

経済学概説

永田智則

経済学の基礎的知識の習得を目的として講義する。

〔教科書〕水野正一，河合宣孝，竹内信仁編著
『現代経済学』（中央経済社）

〔参考書〕講義中に紹介する。

以上によって，①大学での学習に共通して求められる筆記録作成技能（note-taking skill）を早く身につけるといふことと，②専門的な社会科学書に慣れるといふこと，これらを心がけてほしい。

〔教科書〕中村瑞穂・丸山恵也・権泰吉『現代の企業経営－理論と実態－』（ミネルヴァ書房）

経営学概説

中村真人

1 学習の課題

(1) 企業経営について

現代社会の経済では，国民経済か国際経済かを問わず，企業はきわめて影響力の強い経済単位となっている。この企業が，どのような形態と構造を持ち，内部にどのような機能を有し，社会経済的な環境に適応し働きかけるためにどのような行動をとるか，ということについて，現代日本企業や外国企業を例にとりながら概説する。

(2) 経営学について

同時に，この講義では，学生諸君が4年間にわたって経営学を学んでいくための基礎づくりとして，経営学というひとつの学問体系がどのような要素から成り立ち，それらがどのように組み立てられているか，ということについて，見取り図が描けるように概説する。

2 学習の方法

下記の書物を教科書として講義を進める。ただし，これは，大学1年生が自己流に読んで理解できるほど易しい本ではない。したがって，自分で詳しいノートを作りながら講義を聴取する必要がある。①講義での説明と板書により学習すべき事柄を理解し，②みずから注意深く教科書を読んでノートに書き加える，という二つの手続きを，各項目ごとに繰り返していくことによって学習が進められる。両者があいまって自分のノートができる。さらに不明瞭なところは経営学事典などで調べて補う。

専 門 教 育 科 目

簿 記 学

片 桐 伸 夫

簿記は、(とくに企業の)経済活動を貨幣金額で記録するための方法です。

簿記とは「帳簿記入」の略語であり、文字通り「書いて覚える」科目です。したがって、授業を休まず、毎回の宿題をていねいに記帳し、確実に学習することが大切です。

学習の成果は、次第に「企業の経営成績が分かる」ようになることです。

成績評価は平常点(出席、宿題、年四回の小テスト)により、学年末試験は行わないので、十分注意下さい。

〔教科書・ワークブック〕開講の時、指示します。

- (2) 財政状態とその記帳
- (3) 損益計算とその記帳
- (4) 勘定科目と元帳
- (5) 取引と貸借記入
- (6) 仕訳帳の記入と元帳への転記
- (7) 試算表と精算表、複式簿記の構造
- (8) 決算と決算手続
- (9) 商品勘定の分割及び商品売買と商品の棚卸
- (10) 売上帳と仕入帳
- (11) 売掛金と買掛金
- (12) 現金勘定及び預金勘定の記帳処理
- (13) 手形取引と手帳記入帳
- (14) 決算整理事項とその記帳処理
- (15) 各種帳簿及び伝票
- (16) 簿記と財務諸表

上記の講義のプロセスにおいて、出来るだけ多くの記帳演習問題を取りあげてゆく予定である。

簿 記 学

近 藤 禎 夫

社会科学としての簿記・会計学は、たんなる計算技術的側面の理解のみにおわってはならない。

それが現実の社会・経済においてどのような役割をにない、機能しているのかという点もあわせて解明する必要がある。本講義では、簿記論に関するかぎりにおいて、周辺科学(とくに会計に関する領域や、商法、税法等)も、必要に応じて展開する。

〔教科書〕大橋英五・成田修身・近藤禎夫編著
『現代企業と簿記』(ミネルヴァ書房)、
1993年、¥2,500

〔参考書〕畠村剛雄編著『簿記会計学習ハンドブック』(中央経済社)¥2,400
なお、プリントは随時配布

簿 記 学

川 口 修

この講義では、複式簿記を商企業に適用する商業簿記について、その基本的な原理を講義し、同時に記帳方法についても講義・指導する。必要と考えられる簿記の対象となる経済事象について講義をし、記帳方法を指導する。

この講義においては、最終的に個人企業の決算手続までを論ずる。できる限り、わかり易くする考えであるが、学生諸君にも相当の努力を期待する。適宜、プリント等で理解の確認をする予定である。

継続は力なりと言われるが、簿記の理解にも、そのことはあてはまる。欠席しないように不断の努力を望む。

〔教科書〕森藤一男編著『教養簿記』増補版(東京経済情報出版)¥3,000

簿 記 学

中 平 榮 一

簿記学について次の項目の順で、その内容を講述したい。

- (1) 総説

簿 記 学

加 古 宜 士

企業会計の計算構造の基礎をなす複式簿記の仕組みについて、その原理と技術を理解習得させ、

簡単な損益計算書と貸借対照表を作成しうる能力を養成する。

内容：複式簿記のメカニズム、簿記上の取引概念、勘定記入のルール、仕訳帳の記入、元帳の記入、試算表の作成、精算表の作成、商品売上の記帳、固定資産の減価償却の記帳、費用・収益の記帳、資本金の記帳、損益計算書・貸借対照表の作成等。

〔教科書〕新井清光編著『簿記検定3級商業簿記』（税務経理協会）¥630

簿記学

古庄修

企業会計システムからアウトプットされるデータの理解と適切な運用なくして、企業を合理的に経営していくことは不可能である。複式簿記のシステムは、企業の外部および内部からの要請に基づいて考案された社会的制度的な計算技術である。

本講座は、この複式簿記の基本原則を習得してもらうためである。講義は、一回一回の積み重ねによって総合的な理解を得てもらうように進められるから、学年末にまとめて勉強することは出来ない。必ず出席してその場でマスターしてほしい。

〔教科書〕東海幹夫監修『情報化社会の簿記会計知識』（東京経済情報出版）

簿記学

大野満奈

簿記は会計諸学科の基本であり、複式簿記の計算構造は、会計学のどの分野を学ぶにしても前提的に理解されることが必要である。この意味において、簿記の基本原則を理解し、経営学部に学ぶ者が最低必要とされる簿記知識を修得することを目的とするものである。

また、併行して、実際に簿記問題を解く練習も行い、解説していく。

〔教科書〕東海幹雄監修『情報化社会の簿記会計知識』（東京経済情報出版）¥2,100
沼田嘉穂『簿記教科書』（四訂新版）（同文館）¥2,600

〔参考書〕講義中に紹介

経営学

鈴木幸毅

経営学は、資本主義社会における経済活動の単位としての企業とその管理機能を対象とし、企業の本質と発展の必然性につき原理的把握を行い、それに立脚して現実の企業の活動と経営者・管理者の行動を説明する学問である。

講義は、次のような内容で行う。

1. 経営学の対象と方法

- (1) 企業
- (2) 企業管理

2. 管理論的経営学

- (1) 生産
- (2) 販売
- (3) 財務
- (4) 労務
- (5) 経営戦略

3. 企業論的経営学

- (1) 企業の発展
- (2) 企業の国際化
- (3) 日本の経営
- (4) 企業の社会的責任

〔教科書〕鈴木幸毅著『企業と管理の理論』

（第3版）税経。改訂中、秋には完成予定

会计学

高木克己

今日、会計は株式会社をはじめとして、あらゆる経済主体で重要な役割を果たしている。会計学は、一般的に、その基礎的な諸概念及び会計制度を体系的に取扱おうとするものである。

講義では、経済活動の成果を測定し、かつ、伝達する手段としての簿記の知識に基づいて、その理論的な背景等を明らかにして行く。

なお、テキスト等は開講時に指示する。

経営史

前田和利

経営史は「企業経営とは何か」について史的に答えていくことに研究の意義がある。講義では、経営史学の課題と方法を検討し、そのうえにたって企業経営の一般的発達史（生成・確立をイギリス、発展をアメリカを中心として）を論ずる。そ

の際、経済過程や文化構造と関連させながら、企業経営者のタイプ、経営形態、企業形態、組織と管理などの問題に焦点をあてる。

なお、講義の最終段階で日本企業の成長過程を1、2の産業をとりあげて論じる予定である。
〔教科書・参考書〕開講時に指示します。

経営管理論

鈴木 幸 毅

経営管理の理論と現実について、経済社会の動向との関連を考慮して説明する。

1. テイラー科学的管理論と古典理論
 - (1) 課業管理論
 - (2) 管理原則論
 - (3) 管理道德論
 - (4) 組織構造論
2. ホーソン実験と新古典理論
 - (1) 人間関係論的管理論
 - (2) 行動科学的管理論
 - (3) 組織変革論
3. バーナード理論と近代理論
 - (1) 組織論的管理論
 - (2) 意思決定論的管理論
 - (3) システム論的管理論
4. 社会技術システム論とマンテインジェンジャー理論
 - (1) 技術決定論
 - (2) 環境決定論
 - (3) 戦略的選択論

〔教科書〕鈴木幸毅著『現代組織理論』税経

企業形態論

園 田 哲 男

本講は、まず経営形態と企業形態の意義の区別を理解させ、その上で経営形態の発展過程を制度的に考察し、今日の企業制度の本質を理解させることにある。特に株式会社の特質と機関、および資本形態について解説して行く。

〔教科書〕車戸 実編『企業形態論』

(八千代出版) ¥3,200

〔参考書〕講義中に紹介

原価計算論

近 藤 禎 夫

《科目の位置づけ》

原価計算論は、たんに製造原価の算定方法を取扱うというのではなく、日常の国民生活と直接に結びついた重要な役割を果たすものであるから、その対象領域はきわめて広いといえる。たとえば価格形成問題、原価管理、予算統制、利益計画および公表会計などと関連する、このような会計と経営の両分野を包摂した科学である。

《科目の概要》

原価計算は会計領域の全般にかかわり機能している。とりわけ経営管理活動と有機的に関連づけられ測定・情報伝達・利用がなされている。企業の経営管理活動とは通常大きく二つに分けて認識される。一つは社会的存在としての企業が、それをとりまく利害関係者（株主、債権者、投資家、徴税当局、労働組合など、および広くは国民大衆）に対し社会的責任を遂行する分野である。いま一つは、企業活動について意思決定と業績評価を行ない、企業を活性化させ利益の獲得機会を拡大させるための活動分野である。

原価計算の役割は、前者においては公表財務諸表作成のための原価情報の提供にある。また後者についてはきわめて幅が広く、経営管理の全領域にわたって原価情報が提供される。いずれにせよ、企業経営の要となる会計情報が提供される。

本講義では、講義方針でもふれるように、「企業会計原則」を補完する「原価計算基準」の示す範囲に力点をおいて取り組むことになる。したがって、まず原価計算の基本概念および基本的計算構造をしっかりと身につけるよう講義することになる。講義のはじめに際しては、商業簿記から工業会計への橋渡しを平易に展開したい。

前期においては、原価計算が制度会計の枠組みのなかで重要な役割を担っている売上原価の算定、たな卸資産（原材料、製品、仕掛品、貯蔵品など）の評価といった技術的側面を取扱う。具体的には、製造原価計算の算定プロセスを理解しやすいように説明していきたい。順序としては原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算の算定手続きを展開することになる。この場合、当初は実際原価計算制度を前提として述べるが、後期には管理手段としての原価計算にもふれるので標準原価計算にも及ぶ。なお、さらに一步立ち入って、原価計算の管理会計分野での適用問題にもふれる。

原価計算論は製造工業を中心とした計算体系ではあるが、サービス業（電力、ガス、鉄道などの公共事業の運賃・料金問題）など適用範囲は多様にわたる。現実の事例などを紹介しながら講義を

すすめていく予定である。

《講義方針・内容》

原価計算論を学習するにあたっては、制度会計の側面と管理会計の側面の両者に関連を有するので、会計法規集を常に携帯していただきたい。

とりわけ講義は「原価計算基準」（大蔵省・企業会計審議会中間報告、昭和37年）を中心に行なう予定である（テキストを補うプリント類は随時配布する）。モットーは、「高度な内容をやさしく」である。

1994年度においては、下掲のテキストにより以下に示す内容を講義する。

1. 資本制的原価計算の役割とその考え方
2. 原価計算の概要
3. 原価の費目別計算
4. 原価の部門別計算
5. 個別原価計算の方法
6. 総合原価計算の方法
7. 標準原価計算
8. 経営計画と原価計算
9. 社会主義の原価計算方法
10. 原価計算の歴史

〔教科書〕 敷田礼二編著『新しい原価計算論』
（中央経済社）1988年

〔参考書〕 敷田礼二・近藤禎夫著『原価公開』
（新日本出版社）

経済原論

明石博行

本講義では、資本制社会の経済的な仕組みと運動法則について、基礎的な説明をします。講義は、若干の序論的な説明ののち、第1部「単純流通」、第2部「資本一般」、第3部「資本と土地」、という3つの部分にわけて進めます。資本制経済社会における物と物との関係・人と人との関係・社会と自然との関係を体系的に解き明かしてゆくことが、この講義の課題です。

第1部「単純流通」は、(1)商品、(2)貨幣、(3)貨幣の資本への発展、にわけて説明します。この部分では、単純な流通関係としての商品・貨幣・資本を分析し、商品・貨幣関係から生まれてくる物化・疎外とよばれる社会現象、自立した個人相互の関係としての市民関係について説明し、さらに日本における市民社会形成についても説明します。

第2部「資本一般」は、(1)資本の生産過程、(2)資本の流過程、(3)資本と利潤、にわけて説明します。この部分では、資本はどのようにして生産されるか、資本はどのようにして生産をするか、資本はどのように流通し再生産されるか、資本を基礎とする生産がどのように発展し変化してゆく

か、を一般的に論じます。具体的には、不変資本・可変資本、剰余価値とその率、資本蓄積、資本の循環、資本の回転、流動資本・固定資本、再生産表式、利潤と利潤率、といった基礎的概念について説明し、資本制社会の基底にある資本家階級と労働者階級という二大階級の関係について説明するのです。また、雇用と失業、富裕と貧困、資本・賃労働関係から生じる疎外関係、ならびにいくつかの基本的な運動法則について説明し、日本的な労使関係についても言及します。

第3部「資本と土地」では、資本は商業資本・貨幣取扱資本・利子生み資本といった諸資本にわかれることを資本一般の説明をふまえて説明するとともに、土地所有と地代について説明します。この部分では、資本制社会が資本家階級・賃労働者階級・土地所有者階級という三大階級を基礎として形成されること、それらの階級がさまざまな階層にさらに分化してゆくことを明らかにします。そして最後に、各国の資本制社会の発展段階の差異と歴史的伝統の差異を視野に入れ、西欧の資本制社会の発展と非西欧の資本制社会の発展の差異、先進国型資本制社会とキャッチ・アップ型資本制社会との差異などを考慮した市民関係・階級関係・階層関係について、概括的な整理をします。

プログラミング論

青木武典

高度情報化時代といわれる今日、コンピュータ、特にパソコンの利用は経営の現場において欠かせないものとなってきました。本講義では、初心者を対象に、楽しみながらパソコン利用の基礎を身に付けて頂くことを狙いとして、

- (1) 前期は、表計算データベースソフトによるデータ処理、およびマクロによる基本的なプログラミングを学ぶ。
- (2) 後期は、PASCALを用いた統計解析や簡単なシミュレーションなど、実用的なプログラミング技法を学ぶ。

〔教科書〕 高原康彦他編「経営情報システム」、
日刊工業新聞社

〔参考書〕 プリント使用

プログラミング論

高井徹雄

高度情報化社会といわれる今日、コンピュータの利用は、経営の現場において欠かせないものとなっている。本講義は、コンピュータ利用の基礎

を身につけて頂くことを狙いとするが、単なる計算機技法の習得にのみ陥らないよう、経営の実践的問題との関連にも気を配りながら、教材や課題を選択してゆく。

(1) 前期：コンピュータの基礎的操作に慣れた後、スプレッドシートソフト (LOTUS1-2-3, WingZ) によるデータ処理を学ぶ。すなわち表計算、グラフ、データベースといった基本機能の使い方を学ぶ。

(2) 後期：スプレッドシートソフト上での簡単なプログラミング機能の利用を学ぶ。また、その後、計算機言語PASCALによるプログラミングの基礎を習得する。

〔教科書〕 高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著「経営情報システム」(日刊工業新聞社) ¥3,200

(注) 教科書は、経営情報論と共通。適宜、プリントも用意する。

10. 価格差別

11. 垂直的統合

12. 品質と情報と広告

〔教科書〕 特に指定しません。

〔参考書〕 ロジャー・クラーク著、『現代産業組織論』, 多賀出版, 1989

Carlton, D.W. and J.M.Perloff,
Modern Industrial Organization,
Scott, Foresman, 1990

日本経済史

北島万次

江戸時代から明治維新期までの経済史について講義する。

プログラミング論

森 博彦

本講義では、パソコン実習を通して、経営におけるコンピュータの利用方法について、実践的に学んでいくことを目的とする。

前半は、表計算などのビジネスアプリケーションを用いて、コンピュータの使用法や、経営での活用法を学ぶ。後半には、Pascalなどの言語を用いてコンピュータの原理・基礎を学んでいく。また、随時、マルチメディアや人工現実感、また意思決定の支援などの最新技術も話題として取り入れていく。

〔教科書〕 開講時に指示します。

〔参考書〕 講義中に指示します。

統計原論

吉野 紀

開講時に指示します。

近代経済学

滝田 公一

本年度は、産業組織論の入門的講義を行います。講義内容は、以下のとおりです。

1. 産業組織論とは?
2. 企業の理論
3. 生産費用
4. 完全競争と独占
5. 支配的企業と競争的周縁
6. カルテル
7. 非協力的な寡占
8. 製品差別化と独占的競争
9. 産業構造と成果

民法 I

鶴井俊吉

民法 (I) は、民法総則、物権法を対象とする。民法総則は民法の通則であって、抽象的でわかりづらい。そして物権法も、日本の特殊性が強く出ている領域であって、これもまたむずかしい。できる限り具体的な事例などをあげて解説する予定でいる。

〔教科書〕 我妻 栄・有泉 亨著『民法 I』総則物権法 (一粒社)

商 法 I

荒 木 正 孝

この講義では、商法総則（法例、商人、商業登記、商号、商業帳簿、商業使用人、代理商）および会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基本的な事項について説明する。

商法は、民法を一般法とする特別法であるから、民法総則、物権法、債権総論の基本的知識があれば一層理解しやすいと思います。

講義のやり方としては、限られた授業時間をできるだけ有効に使いたいの、議論の多い会社法に多くの時間を割き、会社法を理解するために必要な限りにおいて商法総則に触れることにしたい。また、会社法のなかでも現代社会において国民の経済生活に大きな影響を及ぼしている株式会社について、その生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を規整する株式会社法に重点を置き、重要問題を中心に法則、学説、判例および実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原理を理解できるようにする。

〔教科書〕荒木正孝著『現代企業法』（商法総則・会社法）』（成文堂）

〔参考書〕奥島・中島編『商法演習 I（会社法）』（成文堂）
鴻・竹内・江頭編『会社判例百選』（第5版）（有斐閣）

経営学史

北 村 健之助

経営学の現代性が問われている。いろいろな新しい問題がもち込まれたからである。しかし経営学の本質が変わったわけではない。問題が複雑怪奇になり、迷路にさまようようになると本質まで変ってしまったような錯覚に陥ることがある。

経営学は今世期初頭に生成した学問であるといわれている。ただ偶然に生まれたわけではない。それには長い前史があるのである。

資本の原始蓄積が行われていた頃、重商主義政策を背景に、ドイツではフランスのサバリーの影響を受けた商人学が生まれている。19世紀初期のころであった。産業革命を遂行したイギリスは、19世紀前半には早くも工業経営論が現われている。19世紀中頃には、アメリカでは大規模化した鉄道企業において、経営管理の問題がとり上げられている。この世紀後半に入ると、ドイツ産業資本の確立と共に工業経営論が生れ、組織、工業労働、工業計算の問題が研究されている。

本年は、これら19世紀に現われた商業経営論、工業経営論、などをめぐる議論を中心にとりあげ、中味を詳しく検討し、基本的な問題を集約したい。現代経営学の複雑な問題を理解するには、古い歴史の中でそれが単純に語られていると思うからである。よくいわれるように、ある学問の本質は、学問の歴史そのものの中にあるという意見は正に金言である。

テキストは後期に拙著を刊行するつもりである。

〔テキスト〕本年刊行予定

〔参考書〕藤芳誠一「図説 経営学」学文社

アメリカ経営学

宮 城 徹

《授業内容と目的》

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必修科目である「経営学概説」や「経営学」などの授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の7つの要目について検討する。

《授業の形式と進行計画》

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。年間最後の時間は期末テストであるので、原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数（合計28回）で完結する予定である。

なお、この授業回数は1応の目安であり、授業時間が祝祭日に当る場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

《成績評価》

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

1994年度『アメリカ経営学』授業計画

- I 経営学の対象と方法(2)
- II 意思決定と権力(パワー)(8)
- III 戦略論(特に提携, グループ, ファミリー)(4)
- IV コンティンジェンシー理論(4)
- V 取引コスト理論(6)
- VI プロパティ・ライツ理論(2)
- VII プリンシパル・エージェント理論(2)

《参考文献》

- 1 宮城 徹『企業の政治理論序説』税務経理協会, 1983
- 2 宮城 徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』(早大, 第20号), 1985
- 3 宮城 徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』, 千倉書房, 1987
- 4 宮城 徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』(第2版), 成文堂, 1989
- 5 宮城 徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』, 学文社, 1993

ここでは、紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文だけを参考文献の1部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介してゆく。

経営財務論

高田 光明

《財務の意味》

経営財務は、企業という組織体の財務を研究する学問分野である。企業の財務とは、現在では、企業による資本の調達と運用をいっている。企業は、社会が必要とする財貨やサービスを生産し販売するという活動を営む報酬として利益を獲得しようとする組織体である。このような活動では、機械、建物、原材料などが必要となるし、労働力も不可欠である。企業は、その活動を営むに際し、機械、建物、原材料などを取得しなければならないし、働き手も雇用しなければならないわけであり、そのために元手となる資本を必要とする。

資本の調達とは、この元手としての資本を集めることをいう。そして調達した資本で、企業は、今述べた機械とか労働力などを取得し、これらの生産要素により、財貨やサービスを生産して販売するという営業活動を遂行し、その結果として資

本が自己増殖することを目指す。このことが資本の運用であり、企業の営業活動を通じての資本の自己増殖分が利益である。

《資本調達の位置》

企業が資本を調達するのは、調達資本をできるだけ効率的に運用して自己増殖させ、利益を生み出すためである。その意味では、資本の運用あつての調達であるといつてよい。しかしながら、企業は、用途に合った種類の資本を、必要とする額だけ必要なときに調達できなければ、資本の運用を意図したように行いにくくなる。資本運用の効率性は、企業が、資本の運用に合わせた調達をいかに行えるかに制約される。資本の運用がうまくいくかどうかの出発点は、資本をどのように調達するかにあるといえる。

《授業の進め方》

資本の調達問題は、経営財務において、依然として重要な位置を占めていることに変わりはない。資本の運用あつての調達であるからといつて、そのことは、資本の調達面の意義が小さくなることをけつして意味してはしないのである。この授業では、以上のような問題意識のもとで、資本の調達を中心に、必要に応じて資本の運用面と関連させながら講義するつもりである。

〔教科書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』(中央経済社)

〔参考書〕染谷恭次郎著『資金計画の手引き』(日経文庫)

経営労務論

中村 眞人

企業社会と言われる今日の日本社会で、人々はどうのように働き、生活を支えているのだろうか。企業を社会経済のなかに位置づけた上で、企業と労働との関係、企業のなかでの労働の実態について、考えていきたい。

学問の対象それ自体は、会社と仕事という身近なものだが、専門的な諸概念や理論枠組を用いて問題の発見と説明をはかる。講義内容は高度だから、自分で毎回、詳しいノートを取りながら聴講すること。

(1) 企業社会の成り立ちと労働

現代日本には、さまざまな業種の企業があり、また世界的な巨大企業から零細企業に至るまで企業規模の幅も広い。これらの企業は、どのような関係のもとに結びついているのか。そして、それは、企業で働く人々にどのような階層分化をもたらしているのか。また、それぞれの階層ごとに、どのような問題を抱えているのか。これら前半については、下記の教科書を用いる。

(2) 現代日本企業の人的資源管理と労使関係
後半では、私がおこなっている実態調査研究をふまえて、現代日本企業の雇用管理（人事管理）、賃金、労働時間、労使関係などについて、具体的な事例を示し、最新の現実に引照しつつ解説する。

〔教科書〕戸塚秀夫・徳永重良編『現代日本の労働問題』（ミネルヴァ書房）

経営組織論

長瀬勝彦

この講義では、企業を組織としての側面から考えていく。学生諸君の多くは大学という組織を巣立つと企業組織に身を置くことになるが、企業組織の構成員は、組織の内部にいて息苦しさや抑圧を感じるし、わが身の昇進を喜んだり仕事の達成に充実感を味わったりもする。また企業の活動によって社会が豊かになり、世界のボーダーレス化が加速され、環境破壊も進むのである。このように個人にとっても社会にとっても大きな意味を持つ経営組織について、ここでじっくりと考えてみようではないか。

予定している主なテーマは以下の通りである（順不同）。組織の階層、組織の部門化、ネットワーク組織、ラインとスタッフ、組織のライフ・サイクル、組織のリストラクチャリング、多国籍企業の組織、日本企業の組織、組織文化、組織と環境、組織と個人、企業の社会的責任。現代企業の実例をなるべく多く織り込みながら講じていくことにしよう。

なお、講義の活性化のために随時受講生諸君の発言を促すので、積極的な参加を希望する。また私語等については厳正に対処するので心すること。

〔教科書〕なし。

〔参考書〕随時指示する。

経営技術論

小野寺 孝 一

経営技術論

商品や設備を生産するとき、その技術的過程は次のように把握されている。

A 企画・設計

- (1) 課題の認識 (Problem Definition)
- (2) 目的の選定・設定 (Choosing and Setting Objectives)
- (3) 代替案＝システムの合成 (Synthesizing)
- (4) 代替案＝システムの解析 (Analysing)

(5) 代替案の選択、実施計画

B 生産

マネジメント、生産管理、TQC (Total Quality Control)

この過程でおこなわれる技術が経営技術と考えている。課題の認識や、そこからの目的の具体的な選定・設定には、それぞれの専門的見識がなければならないが、ここではそれを説明するサンプルとして誰でも関係する住居をとりあげて説明する。合成には技術的知識がなければならぬが、これを経営的におこなうには資本制経済における技術の本質と、それに基づく技術の発展の見通しがなければならない。解析とは代替案が目的通り機能するかどうかの検討であるが、これが経営的に、また経済的に満足しうるものかどうかを検討することを経営的解析とっているが、それは市場調査による解析と投資計算による解析、バリユウ・エンジニアリングによる解析に分けられる。このようにして解析された資料によって代替案から実施案を選定するが、それが生産に移されても解決すべき問題が出てくる。これを解明するには、市場調査による解析に使はれたと、技術的には同じ統計数理を使う。これが品質管理(Quality Control)といわれるものである。これを単に生産管理のみでなく、広く企業のマネジメントまで高めたとき Total Quality Control ということになる。これを一般に論じられているマネジメントとの関連においても説明する。以上が経営技術論の概要であるが、これは一般に経営工学といわれているものと、技術の本質論及び技術史において論じられているものとを、体系的に編成したものとっている。

経営情報論

高井 徹 雄

経営スタッフの役割は、ひとことで言うと、「意思決定の支援」である。すなわち、意思決定の問題に関するデータを収集し、決定の指針となる情報へとまとめあげ、それをタイミングよく意思決定者に提供するのが、経営スタッフの仕事である。

本講義では、将来、企業や官庁などで、経営スタッフとして活躍されるであろう皆さんのために、経営情報に関するシステムの観点と、情報処理技術の基礎について解説する。

I. 総論：経営情報のシステムの観点

- (1) 科学とシステム理論
- (2) 経営情報と意思決定
- (3) コンピュータと情報環境の発展
- (4) データベースとネットワーク

II. 各論：経営情報の処理技術

- (1) 統計処理とデータ解析
- (2) シミュレーション技法
- (3) 意思決定を支援する人工知能システム
〔教科書〕高原康彦・高津信三編，高井徹雄他著
「経営情報システム」（日刊工業新聞社）¥3,200

〔注〕先にプログラミング論を履修しておくことが望ましい。

〔関連科目〕経営科学，情報理論

経営科学

和 光 純

企業の経営，或いは一般に組織の運営における意思決定の状況を数学的手法により客観的にとらえ分析し，よりの確な意思決定を下すための基礎理論を提供しようとする体系が経営科学である。

本講義では，経営科学を形成する理論として，線形計画法，輸送問題，在庫問題，ゲーム理論，及び，経営とコンピュータ等について論じたい。各回ごとに簡単な演習問題をていねいに解き，数学的分析手法の理解が深まるように努めたい。

下記の本を参考書とし，特に教科書は指定しない。

〔参考書〕福田治郎・兎玉正憲・中道 博共著
『OR入門～はじめて学ぶ人のために～』（多賀出版）¥2,781

情報理論

西 村 和 夫

近年では，日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。具体的にいうと，情報の量をビットという尺度で定義したシャノン流の情報理論について講義します。

この授業で登場するエントロピーという概念は，経営情報論，符号理論，通信理論，暗号理論などで利用される重要な概念です。諸言語のエントロピーと冗長度とか，価格以外の情報がない場合の市場占有率の予測などについても講義します。また，符号理論と，近年盛んになってきた暗号理論についても触れます。

内容の性質上，確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが，これらについて全く知らなくても理解できるように配慮します。

〔関連科目〕 → 経営情報論

公益企業論

石 井 彰 次 郎

高度成熟社会を迎えた日本における企業の果す社会的役割は，極めて大であり，また今後もそれは増大することが予想される。かくて公益企業論においては，企業と社会との関係に基本的視点を置き，企業一般における社会性・公共性，そしてそれが顕著にみられる公益企業の特質に特に注目する。

〔内容〕

問題提起

公益企業概念の成立，類似の企業形態との比較
アメリカにおける公益企業概念の発達

企業規制

公共政策，一般的企業規制，独占禁止法と公益企業の事業法，公益企業規制

企業規制の緩和と民営化

法律上の公益企業

社会的企業の発達

〔履修条件〕

テキストは使用せず

参考書は，講義において必要に応じてその都度指示する。

〔成績評価〕

期末テスト，レポート，出欠（年に数回行う）により行う。

マーケティング論

曾 我 信 孝

前期はマーケティング政策である製品政策，価格政策，チャネル政策，販売促進政策を理論面から整理し，大企業が消費者を支配する過程とその資本蓄積の構造をできるだけ実例をあげながら説明する。

後期は，マーケティングの社会的問題を考察し，さらにわが国の経済環境の変化にともなう企業の新しい戦略，とりわけ総合商社を中心に国際マーケティング戦略を分析する。

〔教科書〕講義中に指示する。

商業経営論

森 宮 勝 子

商業経営論とは，生産者と最終消費者との中間にあって，商品もしくはサービスを購入・販売す

ることを業とする中間業者（卸売業者・小売業者）の活動をその研究対象とする。不況下の今日、商業経営も減量経営を余儀なくされており、新たな対応が求められている。又、所得水準の高度化にともなう消費欲求の多様化、高級化により消費者の的確な把握は、ますます難しくなりつつある。このような環境下において、商業経営は、いかに行われるべきかを小売業を中心に立地分析、店舗管理、商品政策、仕入政策、商品管理、販売管理等の諸領域より検討する。

〔教科書〕宇野政雄著『新小売マーケティング』（実教出版）¥2,100

〔参考書〕日経流通新聞編「流通現代史」（日本経済新聞社）¥3,800

保険経営論

石名坂 邦 昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてはいかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕開講時に指示する。

銀行経営論

大 岡 誠 市

金融の自由化・国際化が急速に進展しているなかで、どのような対応をしていくかが今後の銀行経営の課題になっている。

わが国の銀行をとりまく環境のこのような大きな変化と欧米の銀行の動きに注目しつつ、銀行経営にかかわる基本的な事から中心に取り上げることとし、金融関係の時事問題については随時解説することとしたい。

また、金融自由化により新しい金融商品が次々と開発されてきたが、今後登場するものを含め逐次触れることとする。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕全国銀行協会連合会調査部編『図説わが国の銀行』（財經詳報社）¥1,800

国際経営論

茂 垣 広 志

国際経営論とは「国境を越えて事業展開している活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる領域である。周知のように1985年のプラザ合意以降の急激な円高と貿易摩擦による相手先国の輸入規制は、これまでの日本企業の国際戦略の転換を余儀なくさせるものであった。海外市場確保のための現地生産や円圏離脱のための第三国生産、それらは企業の戦略と活動の調整をますます複雑なものにする。

本講義では、企業の国際化、海外進出、多国籍化というような言葉で表わされている現象を企業経営の視点から多面的にとらえ、検討していきたい。その際、日本企業を念頭において話を進めるが、欧米の多国籍企業との比較を踏まえながら、理論とケースを織り交ぜつつ講義を進行させていく予定である。

〔教科書〕根本 孝・諸上茂登編著『国際経営の進化』（学文社）¥2,800

日本経営史

萩 本 眞一郎

日本の企業あるいは事業経営が、いかなる特徴をもち、それがどのような歴史的な条件の下で生れたのかを明らかにすることが、授業の中心になります。

江戸時代から始まりますが、戦後期の高度経済成長期までをとりあげ、具体的な事例（ケース）をあげながら考えていくことにします。財閥、総合商社など企業システムに関わるもの、所有と支配、戦略、内部組織、雇用など企業の内部構造に関連するものが中心となりますが、適時、海外の事例や経済史的な歴史的状況説明にもふれることにします。

〔参考書〕開講時に指示します。

経営統計

相 山 長 知

開講時に指示します。

上級簿記

大野満奈

すでに簿記の基本的な知識を習得した者を対象に、さらに高い水準の簿記論を学習することを目的とする。簿記上の具体的処理と、そこで問題となる重要な事項をとり上げ、企業会計原則等の会計諸則との関連を明らかにしながら解説していく。

〔教科書〕開講時に指示する

〔参考書〕講義中に紹介

管理会計論

長松秀志

情報化・FA化のもとにおけるコスト・マネジメントについて講義する。本年度はとくに、自動化されたFA工場の製造システムの問題を中心に講義を進めていく。

〔教科書〕C.ベルリーナー, J.プリムソン著
長松秀志監訳「先端企業のコスト・マネジメント」(中央経済社)

〔参考書〕学年始めに指示する。

財務会計論

渡邊恵一郎

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の財政状態と経営成績を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を持つ経営者が、投資者、債権者、その他企業活動に利害関係をもつ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が貸借対照表、損益計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心に課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規を取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

〔教科書〕染谷恭次郎著『現代財務会計』
(中央経済社)

経営分析論

片桐伸夫

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

前期は収益性・安定性分析を、後期は生産性・社会性・損益分岐点・利益増減・成長性その他の分析をとりあげ、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にあふれます。

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。(財務諸表とは「貸借対照表」や「損益計算書」など、企業の毎期の経済活動を報告するものです。)

したがって、成績は「平常点」で評価します。

- ① 前・後期、計2回のレポート提出と、
- ② 前・後期、計2回のテストを行い、
- ③ なお、出席を重視します。

学年末試験は行わないので、十分注意下さい。
〔教科書〕開講の時、指示します。

税務会計論

高木克己

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。消費税についても何かと話題にのぼっている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。ここでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引

4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、借地権、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ハイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

なお、テキスト、参考書等は開講時に指示する。
〔評価方法〕

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度、提出を求める。また、毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

会計監査論

中 平 榮 一

会計監査論では、つぎの題目の順で体系的に講義をすすめる。

- (1) 会計監査論の対象と方法
- (2) 会計監査の意義
- (3) 監査の種類
- (4) 監査の基準
- (5) 監査の主体
- (6) 監査証拠と監査技術
- (7) 監査計画と監査手続
- (8) 監査調書
- (9) 監査報告
- (10) 内部監査及び監査役監査
- (11) 国際監査

上記を通じて財務諸表監査の基礎知識を十分に講述したい。

証券市場論

佐 藤 昇

証券市場全般について出来るだけ実践に則した講義を目指したい。

まず最初に、証券市場で取り扱う有価証券の概

念を定義し、つぎに債券、株式の発行・流通市場の現状と歴史、あるいは証券市場を構成する証券会社や証券取引所等の構成、機能などを明らかにしたい。

さらに、世界主要国の証券市場の現状についても概観したいと思う。

また、証券市場に係わる重要な問題等が発生した際には、その都度背景、影響を解説する。

〔教科書〕佐藤昇ほか著「入門現代の証券市場」
(東洋経済新報社) ¥3,200

〔参考書〕講義の中で指定する。

商 業 史

山 田 勝

商業と商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。その際、対象とする時代の人々の生活や考え方、現代とのかかわり、といった諸点も検討していきたい。

主に対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

経 済 政 策

西 山 司

本年度の経済政策の講義は、経済政策の理論および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定である。

特に「価値判断」論争をめぐる諸問題点や、従来の経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の理論的位置を論究し、その果すべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努める。

〔教科書〕学年始めに指示する。

〔参考書〕清水・松原編『経済政策論を学ぶ』
〔新版〕(有斐閣)

財 政 学

速 水 昇

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。そこで、わが国をめぐる最近の財政問題を現実との係わりでとらえ、身近な問題として理解が深ま

るように検討していく。その主な内容として、「平成6年度予算の構成」「公共財のあり方」「政府開発援助の拡大」「高齢化社会と財政」「国債の累積問題」「財政投融资」「財政政策のあり方」などを中心に講義する。
 [教科書] 藤原碩宣・速水 昇他著『財政と現代』(学文社) ¥2,800
 [参考書] 西村紀三郎編著『統計からみる財政学』(学文社) ¥1,500

ける日本の金融の国際化の進展。
 <評価方法>
 学年末の筆記試験を中心とする。前期末の授業時間中に行う小論文の作成と出席点を若干考慮して成績をつける。
 [教科書] 授業時間中に指定する。
 [参考文献] 東京銀行調査部『外国為替の知識』(日経文庫) ¥750

金融論
 石野典

本講義は、金融システムとは何か? という問題に答える“マクロファイナンス”で、経済主体のミクロ的な金融行動を問題とするものではない。したがって経済現象の金融面の理解、すなわちバブル経済の本質を理解するなどに役立つ。伝統的な理論は勿論のこと最近の新しい理論をも取入れ講義する。しかし、純粋理論のみではなく、さりとてエコノミストのように現実を説明するに止まらず、現実理解に役立つ考え方や見方を提供する。
 目次はスペースがないので、ここでは示さないが、開講時にプリントして配布する。講義はオリジナルなのでノート形式で行う。だからテキストは特はない。資料等をできる限り配布する。
 [参考書] 堀江康熙・吉野直行『基本テキスト1. 金融』(東洋経済新報社) ¥1,600

日本経済論
 羽鳥茂

「国際化と日本経済」をテーマに講義する。変動相場制移行後のわが国のマクロ・パフォーマンスを理論と実証の両面からできるだけ平易に解説したいと考えている。
 教科書は深尾光洋『実践ゼミナール国際金融』(東洋経済新報社, 1990年)を予定している。

民法Ⅱ
 上井長久

民法は、われわれ市民の日常の衣食住などの財産、および親子・夫婦などの身分をめぐる社会生活関係を規律の対象とする法律であるといえる。本講では、主として、財産関係のうちで人に対する請求権すなわち債権を中心に扱い、まず、債権法全体の体系および概略を説明し、つぎに、条文に即して債権法総論、債権法各論—売買・賃貸借などの契約、事務管理、不当利得、不法行為など—の順に、それらに含まれる制度・原理の意義、機能、背景などを重点的に解明してゆく。
 [教科書・参考書] 開講のときに掲げる。

国際金融論
 斉藤寿彦

<講義目的(要旨)>
 外国為替, 国際通貨, 国際銀行業の理論と歴史と現状を中心として国際金融を講義する。金融面に重点を置きつつ、できるだけわかりやすく講義し、時事問題にも言及する。
 <授業内容・授業計画>
 前期 前期は外国為替および国際金融市場について説明する。4月, 外国為替の仕組。5月, 外国為替相場論。6月, 外国為替銀行論。7月, 国際金融市場論。
 後期 後期は国際通貨と日本の金融の国際化を明らかにする。9月, 国際通貨の理論。10月, IMF体制の成立, IMFの制度と機能と現実, 旧IMF体制の崩壊, 11月, 変動為替相場制, SD R, ユーロダラー, 12月, 円の国際化, 銀行の国際化, 証券の国際化, 東京の国際金融センター化。1月, 日本企業の国際的資金調達, 東アジアにお

外書講読(英)
 石井彰次郎

現代社会における企業の果す役割の増大は、「企業の社会的責任」「市民としての企業」「企業倫理」などの言葉にみられる。
 企業と社会との関係において、企業の社会性、公共性を強く意識しつつ、適切な英語の文献を選び、その抜粋により授業を行う。
 出欠, 口答での報告, 文書でのレポートをもって成績評価をする。

外書講読(英)

高田 光明

英語を日本語に機械的に置き換えるだけでは、英語の文章を理解したことにはならない。この授業では、英語で書かれた専門書の内容を正確に把握できるようにする訓練を行う。教科書としては、アメリカで定評のある企業財務関係の専門書の一部を使用する。なお、授業で進める範囲を前もって各自必ず予習しておくことを、受講にあたっての必要条件とする。

外書講読(独)

百 濟 勇

ドイツ連邦共和国の批准を経て、ECの経済統合の道筋を定めたマースリッヒ条約(欧州連合条約)が、1993年11月1日に発効した。また1993年1月より欧州共同体(EC)共通市場が成立した。だが、世界経済の不況を背景にしてECは18年ぶりのマイナス成長、二桁の失業率に直面している。経済統合の構想も風前の灯火である。その際に統一ドイツ経済の今後の動向が大きな影響を与えることを見逃していけない。そのドイツ経済の動向を探る基本的な資料を使用する。テキストはプリントで配布する。その背景を理解するために日本語による文献も参考して講義を進めて行く。

〔教科書〕ドイツ経済の動向を探る際に必要な基本資料を使用する。具体的にはドイツ連邦政府、連邦経済省、連邦大蔵省、ドイツ連邦銀行などの官庁資料やドイツ経済研究所など、各研究所の報告・調査資料をその都度指摘して、プリントにして配布する。

〔参考書〕百濟勇：『ドイツの民営化』、共同通信社刊、1993年

外書講読(仏)

前 田 祝 一

『フランス系カナダ』という本を少しずつ読んでいきます。400年来のフランス人のカナダ入植の歴史、カナダの特にケベック市モントリオール市を中心としたフランス語圏の経済、政治、文化、さらには自然的風土などが具体的に理解できるよう、地図、図版、スライド等を利用もしたいと考えています。テキストはすでに日本語訳も出版さ

れていますので参考にすればよいと思います。

〔教科書〕Raul Blanchard: Le CANADA FRANÇAIS, (Coll. Que sais-je) P. U. F. ¥800

〔参考書〕ラウル・ブランシャール：『フランス系カナダ』文庫クセジュ(白水社) ¥900

外書講読(中)

松 本 丁 俊

隣国中国は広大な国土と11億の人口を擁し、長い歴史と高度な文化伝統を持つ社会主義国家である。日本人の現代中国に対する認識や日中関係の現状はどうであろうか。本講では日本と中国を比較する論文を読み進めつつ、上述の問題点を学生諸君とともに考慮する

〔教科書〕プリント配布。

〔参考書〕随時指示する。

外書講読(ス)

佐 藤 玖 美 子

教材はスペインの新聞から社会全般にわたる今日的な内容の記事を選び、これらの講読を通して、いままでに習得したスペイン語の知識の深化、発展を図ると共に、特に経済、政治の分野での専門的な語彙や時事的文章に慣れることを目指す。又、社会主義国でありながら一方で王制を存続させているという、特殊な国スペインの今日の社会情勢を分析し、又EC加盟国としての問題点などをさぐってみたい。

〔教科書〕コピー

外書講読(ロ)

杉 山 秀 子

はじめにやさしく書かれた社会科学文献をじっくり読むことにより、科学文献独特のロシア語の文章スタイルや表現法に馴れてもらい、少しずつ応用力をつけていくようにしたい。テキストは

『Читаем тексты по политической экономии』(Издательство "Русский язык"著)の抜すいを基本的には使うが、あわせてプラウダ新聞の経済に関する社説や『Международная жизнь』誌等の最新記事もとりあげ、混迷するロシア社会

の断面にスポットをあてていきたい。
〔教科書〕教場にてプリントを配布します。

商 法 II

(前期) 黄 清 溪
(後期) 島 原 宏 明

現代の経済社会においては商品代金の支払に当って、現金が用いられるのは個人消費者の場合であって、企業間における取引は手形や小切手ที่ใช้されるのが一般的である。諸君は、いずれか、社会の一員として、企業活動に参入すると、手形や小切手との関係は切っても切れないことになる。そして、手形、小切手は有価証券であり、したがって、手形法、小切手法は有価証券法である。特に、手形、小切手はいわゆる完全有価証券であって、その流通に関する法規制は商法上の他の有価証券にも及んでおり、そのために手形法小切手法を有価証券法の中心部分として把え、そこにおける規制が他の証券にも適用できるのである。このように手形法小切手法を理解することは、現代人にとって非常に大切なこととなる。

手形法は第一編為替手形と第二編約束手形との二つ編から成り、小切手法は全体が一つの編を成してある。それぞれの構成は、「振出」という法律行為による手形・小切手の成立からはじまり、「裏書」によるその流通を経て、「支払」による消滅にいたるまで、論理的に一貫した順序を追う形式になっている。本講義もこの順序を追って進めるのである。

労 働 法

藤 本 茂

労働法は、諸君が近い将来、就職し、労働生活をおくるなかで、身近に接する法領域です。また、会社も人事労務管理上、見過すことのできない法領域でもあります。今日、労働法は、社会の大きな変化の中にあります。労働契約法制、セクシュアルハラスメント、労働時間法制の改正は、その一端です。また、労働組合法領域も、労働組合運動のあり様に関する考え方の変化とともに、労働協約による労働条件決定をめぐるテーマが重要になっています。

授業は、近い将来諸君が見聞するであろう事項を念頭に、労働法上の基礎的な考え方を、なるだけ具体的な事例を用いておこなうつもりです。

〔教科書〕最初の講義のときに話します。

〔参考書〕ジュリスト増刊『労働法の争点』など

他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが，受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。（履修についての詳細は，「他学部科目の履修方法」を参照すること。）

目 次

| | | | |
|--------------------------|---|---------------------------|----|
| 禅学特講Ⅰ(原田 弘道)…………… | 1 | アジア経済論(小林 英夫)…………… | 10 |
| 禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之)…………… | 1 | 日本経済史(古庄 正)…………… | 11 |
| 禅学特講Ⅲ(石井 修道)…………… | 1 | 中小企業論(三井 逸友)…………… | 11 |
| 禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅)…………… | 1 | 教育経済論(谷敷 正光)…………… | 12 |
| 禅学思想史(峰岸 孝哉)…………… | 1 | アメリカ経済論(瀬戸岡 紘)…………… | 13 |
| 哲学史(中村 友太郎)…………… | 1 | 財務会計論(遠藤 孝)…………… | 14 |
| インド仏教史(池田 練太郎)…………… | 2 | 管理会計論(中原 章吉)…………… | 15 |
| 中国仏教史(佐藤 達玄)…………… | 2 | 会計監査論(飯岡 透)…………… | 15 |
| 日本仏教史(石川 力山)…………… | 2 | 商業政策(岩下 弘)…………… | 16 |
| 日用經典(皆川 広義)…………… | 2 | 貿易論(古沢 紘造)…………… | 16 |
| 仏教美術(中島 亮一)…………… | 2 | マーケティング(曾我 信孝)…………… | 17 |
| 現代哲学概説(田島 節夫)…………… | 2 | 労務管理論(石井 脩二)…………… | 17 |
| 上代文学(小野 寛)…………… | 3 | 経営管理論(百田 義治)…………… | 18 |
| 中世文学(水原 一)…………… | 3 | 行政法Ⅱ(斉藤 寿)…………… | 19 |
| 近世文学(富士 昭雄)…………… | 3 | 民法Ⅳ(1)(叶 和夫)…………… | 20 |
| 近代文学(高田 知波)…………… | 3 | 民法Ⅳ(2)(叶 和夫)…………… | 20 |
| 中国文学(中村 璋八)…………… | 3 | 比較憲法(竹花 光範)…………… | 20 |
| 英文学特講Ⅰ(石原 孝哉)…………… | 3 | 経済法(川井 克倭)…………… | 20 |
| 英文学特講Ⅱ(高野 正夫)…………… | 3 | 国際関係論(首藤 素子)…………… | 20 |
| 英文学特講Ⅲ(岡崎 寿一郎)…………… | 3 | 西洋政治史(浦田 早苗)…………… | 20 |
| 英文学特講Ⅳ(中岡 洋)…………… | 4 | 宣伝広告論(上條 末夫)…………… | 21 |
| 英文学特講Ⅴ(高松 雄一)…………… | 4 | 政党論(前期:岩井 奉信)…………… | 21 |
| 英文学特講Ⅵ(丸小 哲雄)…………… | 4 | (後期:早川 純貴) | |
| 英米演劇特講(落合 和昭)…………… | 4 | 経営統計(相山 長知)…………… | 21 |
| 米文学特講Ⅰ(東 雄一郎)…………… | 4 | 国際経営論(茂垣 広志)…………… | 21 |
| 米文学特講Ⅲ(原川 恭一)…………… | 4 | 保険経営論(石名坂 邦昭)…………… | 21 |
| 時事英語(坂本 武)…………… | 5 | 財務会計論(渡邊 恵一郎)…………… | 22 |
| 地形学Ⅰ(小池 一之)…………… | 5 | 経営分析論(片桐 伸夫)…………… | 22 |
| 地質学(貝塚 爽平)…………… | 5 | 税務会計論(高木 克己)…………… | 22 |
| 人口地理学(土谷 敏治)…………… | 5 | 経営労務論(中村 真人)…………… | 22 |
| 応用地理学Ⅰ(高木 正博)…………… | 5 | 商業史(山田 勝)…………… | 23 |
| 文化地理学(菱口 善美)…………… | 5 | 国文講読Ⅰ(上代)(佐原 作美)…………… | 23 |
| 日本仏教史Ⅱ(廣瀬 良弘)…………… | 5 | 国文講読Ⅱ(中古)(鈴木 裕子)…………… | 23 |
| 日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之)…………… | 5 | 国文講読Ⅲ(中世)(蘭部 幹生)…………… | 23 |
| 東洋史特講Ⅹ(近・現代)(安藤 正士)…………… | 6 | 国文講読Ⅳ(近世)(清田 啓子)…………… | 23 |
| 西洋文化史Ⅰ(佐々木 真)…………… | 6 | 国文講読Ⅴ(近・現代)(大室 英爾)…………… | 23 |
| 考古学特講Ⅲ(飯島 武次)…………… | 6 | 国文講読Ⅴ(近・現代)(笹瀬 王子)…………… | 24 |
| 歴史哲学(麻生 建)…………… | 6 | 国文特講Ⅴ(近・現代)(笹瀬 王子)…………… | 24 |
| 哲学史(丸山 豊樹)…………… | 6 | 英文タイプライティングⅡ(竹内 美恵子)…………… | 24 |
| 日本民俗学(谷口 貢)…………… | 6 | 時事英語(岡本 誠)…………… | 24 |
| マスコミュニケーション(川本 勝)…………… | 6 | 英語演習Ⅰ(岡本 誠)…………… | 24 |
| 産業社会学(安藤 喜久雄)…………… | 7 | 計算機言語概論(杉田 徹)…………… | 24 |
| 都市社会学(江上 渉)…………… | 7 | 臨床放射線特講Ⅰ(本間 襄)…………… | 24 |
| 社会福祉発達史(林 千代)…………… | 7 | 応用計測学(榎尾 英次)…………… | 25 |
| ロシア・東欧経済論(山縣 弘志)…………… | 7 | | |
| 社会政策(光岡 博美)…………… | 8 | | |
| 国民所得論(吉野 紀)…………… | 8 | | |
| 中国経済論(小杉 修二)…………… | 9 | | |

他学部履修科目

禅学特講Ⅰ

原 田 弘 道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典觀と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

黒 丸 寛 之

道元禅師の主著として知られる『正法眼蔵』を読む。この講座では、道元教学の理解に資するため、次のテーマに関わる諸巻を重点的に講読する。
Ⅰ 正伝の仏法 Ⅱ 生命の実相 Ⅲ 道元と法華経 Ⅳ 晩年の道元。

〔教科書〕『正法眼蔵』

〔参考書〕『法華経』

禅学特講Ⅲ

石 井 修 道

平成5年度について『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにしたい。その折に和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕荒木見悟著『大慧書』（筑摩書房）

¥3,500

石井修道著『禅語録』（中央公論社）

¥5,200

禅学特講Ⅳ

鈴 木 格 禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に住した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が、一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕教員より配布する。

禅学思想史

峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』（講座道元Ⅱ）

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

哲学史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕開講時まで決定する。

〔参考書〕その都度指示する。

インド仏教史

池田 練太郎

インドにおける仏教の成立・展開の様相を、思想・文献・教団などの歴史の総体として捉えてみたい。また、インド仏教の歴史をインド史全体の流れの中に位置づけることを目指したい。

〔参考書〕平山 彰著『インド仏教史』（上・下）（春秋社）

中国仏教史

佐藤 達玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説－中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

石川 力山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして、日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ、日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に、中世における鎌倉新仏教の成立は、急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり、それにともない、さまざまな社会問題にも関与することになって、正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では、仏教思想の流れとともに、こうした社会的機能の側面についても、あわせて検討していきたい。

〔参考文献〕辻 善之助『日本仏教史』（全10巻、岩波書店刊）

家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉〈近世・近代篇〉』（全3巻、法蔵館刊）

川岸宏教・速見侑等篇『論集・日本仏教史』（全11巻、雄山閣出版刊）

日用經典

皆川 広義

曹洞宗における日常依用の經典について、解説し、その平易な解釈をする

この講義でとりあげる經典は、般若心経、法華経（寿量品、普門品）、修証義、大悲心陀羅尼などである。また、偈文・回向文などについても、解釈したい。

これらの經典は、日本人の精神形成に大きな影響をあたえたものであり、その仏教經典としての正しい理解に心がけたい。

〔教科書〕テキスト プリント配布。

仏教美術

中島 亮一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。（スライド併用）

〔教科書〕高田 修『仏像の誕生』

（岩波新書 388）¥480

佐和隆研『仏教美術入門』

（教養文庫 576）¥720

〔参考書〕その都度指示する。

現代哲学概説

田島 節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレーゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。

〔参考書〕 田島節夫著『現象学と記号論』
（世界書院）¥2,500
田島節夫・他著『西洋哲学の展開』
（公論社）¥3,800

上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。毎年新しいテーマでよむ。

〔教科書〕 小野 寛著『新選万葉集抄』
（笠間書院）

〔参考書〕 金井清一・小野 寛編『年表資料上代文学史』（笠間書院）

中世文学

水原 一

『平家物語』を伝本比較の角度から読み、表現や題材・思想などの多角的な背景を探究してみる。併せて時代の実相理解に有効な、歴史書・公卿漢文日記等にも接する機会を設けたい。

近世文学

富士 昭雄

芭蕉の『おくのほそ道』の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。（昨年度の継続）
〔教科書〕 萩原恭男校注『芭蕉 おくのほそ道』
（ワイド版岩波文庫）¥1,000

近代文学

高田 知波

明治前期の小説群の中から、二葉亭四迷『浮雲』と樋口一葉『たけくらべ』を取りあげ、精読していく。

〔教科書〕 二葉亭四迷『浮雲』（岩波文庫）
樋口一葉『にごりえ・たけくらべ』
（新潮文庫）

中国文学

中村 璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,170

英文学特講Ⅰ

石原 孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』（三修社）¥3,800

英文学特講Ⅱ

高野 正夫

イギリス・ロマン派の詩人、ワーズワス、キーツ、ブレイクなどの詩を中心に読んでいく予定です。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英文学特講Ⅲ

岡崎 寿一郎

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉

理解することはむづかしい。この認識の方法によって、十九・二十世紀の英詩について、その現代的意味を確認したい。具体的には、十九世紀ロマン派の詩人たち、テニスン、M.アーノルドの詩の検証を経て、ハーディ、イエイツ、D.H.ロレンス、さらに、エズラ・パウンド、T.S.エリオット以後の現代詩（モダニズム）について論究する。

〔教科書〕教場にて指示。

〔参考書〕教場にて指示。

英文学特講Ⅳ

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre* や*Wuthering Heights* を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅴ

高 松 雄 一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イエイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講Ⅵ

丸 小 哲 雄

文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題であるから、批評研究は最終的には世界解釈あるいは世界認識ということになります。前期ではそのための有効な方法として伝統批評、ロシア・フォルマリズム；ニュー・クリチシズム、受容理論（読者の立場）、構造主義、記号論、ポスト構造主義などの批評的考え方を講義します。後期では、作品の読み方と研究の仕方を修得するためにテキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。読書のためのプリント・リスト、および適宜必要に応じてプリントを配布します。

英米演劇特講

落 合 和 昭

ギリシャ時代から現代までの演劇史に見られる主義（～ism）をその劇場史とともに、追いながら、重要な出来事、用語などの説明をする。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。さらに、必要とあらば、英文の研究書などにも目を通し、多様な見方にも慣れる。

課題としては、講義の内容をまとめたレポートや他の英文（数冊のアメリカ大学生用テキストや研究書からのプリント）の要旨をまとめたレポートを十数回（一回につき四百字の原稿用紙2枚程度）ほど提出してもらう。

米文学特講Ⅰ

東 雄 一郎

19世紀のホイットマン、ディキンソンから現在のアッシュベリー、リッチ、スナイダー、プラス、マーク・ストランドにいたる総計30人のアメリカの代表的な詩人たちの作品を読みます。特に、ロゴセントリック（論理的）なモダニズムの言葉の解体、作品の自律性神話の崩壊から、ポストモダニズムの恣意性という「修正・見直し」への移行に焦点を当て、アメリカ詩の「自己の歌」の伝統を考えます。

〔教科書〕新倉俊一『アメリカ詩入門』

（研究社）¥2,200

米文学特講Ⅲ

原 川 恭 一

世界最大の内乱アメリカ南北戦争は、敗者南部に復しえぬ荒廃と頹廢をもたらした。その廢墟の中から、この南部の特殊状況を踏まえて、数多くの文学者が、文学作品が生まれ出たが、いわゆる「南部文芸復興」（Southern Renaissance）の興隆の様相を、William Faulkner以下数人の代表的作家の作品世界を中心に据えながら、歴史的、社会的視点をも構えて、出来る限り詳細に講じていきたい。

〔参考書〕福田陸太郎編著『アメリカ文学名作選—風土と文学』（中教出版）

時事英語

坂本 武

放送英語、新聞英語その他時事面に関する英語について、テープ等も随時併用して講義する。また、時事文を多用しての英作文の作法についても採り上げ、「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名、Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕教場にて指示する。

地形学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。〔内容は最先端の知見を含む〕

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』
(東大出版会) ¥4,532

地質学

貝塚 爽平

前期には関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象(たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成)についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論と交えて解説する。

人口地理学

土谷 敏治

人口の分布やその変化、人口移動について、研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

応用地理学 I

高木 正博

河川と地域の関係を、利水・災害・自然環境などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕高橋 裕著『河川工学』
(東京大学出版会)

文化地理学

こも
菱 口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本仏教史 II

廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに平安後期から江戸期にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに、鎌倉仏教の成立と展開、仏教諸宗派の僧侶・寺院と地域社会とのかかわり、都市景観と寺院、一向一揆・無縁所寺院と戦国大名、寺院と檀家等について考察する。その際には各地の寺院が所蔵する古文書・過去帳・授戒会帳・金石史料等も提示しながら行うことにする。

〔参考書〕黒田俊雄著『寺社勢力—もう一つの中世社会—』(岩波新書)
網野善彦著『無縁・公界・楽』(平凡社選書)
井上鋭夫『山の民・川の民』(平凡社選書)

日本史特講 VII (近代)

山 口 一 之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ（近・現代）

安藤正士

現代中国の政治外交史＝中国の内政と国際関係について、近代化論、比較政治論の立場から講義する。

〔教科書〕安藤正士・太田勝洪・辻康吾『文化大革命と現代中国』（岩波書店）¥540

西洋文化史Ⅰ

佐々木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式（人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位）や知の世界（読書行為、識字）、民衆の心性（価値規範、死生観）などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

考古学特講Ⅲ

飯島武次

中国青銅器文化の研究。夏・殷・周の考古学的研究を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年 ¥7,000
飯島武次『中国新石器文化研究』（山川出版社）1991年 ¥11,000

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そ

もそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

哲学史

丸山 豊 樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし、近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから、まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で、近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって、近世哲学の歴史は開始されるが、それはカントの「批判哲学」によって総合され、後さらに幾多の曲折を経て、現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて、現代の哲学と科学との関連を考慮しながら講義を進めたい。

〔教科書〕国嶋一則編『西洋哲学の展開』（公論社発行）

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代をこえて受け継がれてきた民間伝承を通して、日本社会の生活文化を明らかにしようとする学問である。国際的視野をもった人材の育成が叫ばれて久しいが、真の国際理解の前提には自国の伝統文化に対する民俗学的素養が近年益々大切になってきているといえよう。

講義では、日本の各地に伝承されている具体的な民俗の調査事例を紹介しながら、人の一生の重要な時期（誕生・成年・結婚・厄年など）に行われる人生儀礼（通過儀礼）を通して伝統文化についての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の主要領域 — 組織、企業経営と労働者生活および労働者意識、労使関係、労働組合、職業・産業と社会、などについて概観し、そこでの社会学の諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄他『産業社会学』
(学文社) ¥2,500

都市社会学

江上 涉

都市社会学の主要なテーマは、都市という環境がいかなる人間を生み出すのかということにあるが、これは2つに分けて考えられる。すなわち、環境としての都市そのものが何かということと、そこで生成する都市社会とはどのような社会かという問題である。このテーマをめぐって蓄積されてきた都市構造論、都市類型論、都市機能論、都市化論、生活構造論、ライフスタイル論、都市的生活様式論、ネットワーク論、コミュニティ論などを順次考えていくことにする。

なお、テキストは特に指定しないが参考文献を適宜紹介するので、それを読むことが重要である。

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に(部分的に米国にもふれる)社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』
(ミネルヴァ書房)

〔参考書〕随時紹介

ロシア・東欧経済論

山縣 弘志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かとはもかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独特のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるということが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論の歴史
 - (2) マルクスの社会主義論
 - (3) ロシア革命のめざしたもの — レーニン時代 —
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への根本的転換
 - (2) 工業化と農業集団化
 - (3) ソ連型「社会主義」の特質
 - (4) ソ連・東欧経済圏の形成

3. 「計画経済」と経済管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立
 - (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
 - (3) ソ連型経済管理システム
4. ソ連経済の到達水準
 - (1) 経済構造の特質
 - (2) 軍事生産と工業生産力
 - (3) 工業技術の諸問題
 - (4) 農業政策と農業制度
 - (5) 農業生産力
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) プレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧社会の特質
 - (2) 市場経済化の諸問題 — 何から何への移行か —

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行なう。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るのは当然である。参考書は適宜指示する。

社会政策

光岡博美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する社会改良思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史
- (4) 日本における労使関係の歴史
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本的労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)～(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作（映画）を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

国民所得論

吉野紀

220万の法人企業、6,200万人の就業者、そして4,200万の世帯、これらの間でさまざまな生産活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。

これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入って、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りこんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産（GNP）440兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ（巨視的）分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

<授業計画>

「国民経済計算」…………… 5回

GNP, GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

「平成3年日本経済の循環図」（配布資料）

『国民経済計算の知識』西嶋・藤岡（日経文庫）

「総需要、均衡産出量、均衡所得…………… 4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

『入門マクロ経済学』中谷（日本評論社）第3章

「貨幣・利子率および同時均衡」…………… 8回

この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現況との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策、財政政策」…………… 4回

前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では一律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学（上）』ドーンブッシュ・フィッシャー（マグロウヒル）第4章

「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」

…………… 4回

これまでに扱われてきたのは、財やサービスの

取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わせられる。

「最終講義」…………… 1回

平成7年日本経済の予想。

海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

<成績評価>

期末試験…………… 85%

2回の練習問題の提出（2回とも提出することが条件）…………… 15%

なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君（年間15名前後）には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもありうる。

〔教科書〕開講時に指示する。

中国経済論

小杉修二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3. 2につづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えられるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の

延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないうであらう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点を相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ(1-201 または1-301 教室)上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受け入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終るかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』(龍溪書舎) ¥3,300

アジア経済論

小林英夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期

もめずらしい。アジア一般というより、その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は、一つの高成長グループとしてくられ、その名をニックス(NICS)と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式でおこなう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。昨年は残念ながら実現できなかったが、これまでに野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月
アジアの実情
5月～7月

日本とアジアの経済関係(戦後日本とアジアの関係を、I. 賠償過程、II. 借款過程、III. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。7月の夏休み前に、外部講師をよび、直接企業進出に的をしぼった、実態報告を行う。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動(1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する)

1月

まとめ(1年間の講義について、まとめを行なう)

授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

〔参考書〕小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』(御茶の水書房) ¥3,200

小林英夫『東南アジアの日系企業』(日本評論社) ¥3,200

開港前の日本は、極東の一封建国家にすぎなかった。1853年（嘉永3）のペリー（M. C. Perry）来航に始まる鎖国体制の解体と欧米列強による領事裁判権・協定関税率・最恵国条項を内容とする安政条約の強制は、政治的にも経済的にも軍事的にも、幕末日本を植民地化の危機に陥れた。にもかかわらず、開港後わずか数十年の間に、日本は工業化を達成し、アジアにおける唯一の工業国家になった。この講義では、幕末開港後のこうした工業化過程とその歴史的条件をできるだけ系統的に、また分かり易くお話してみたいと思っている。日本経済史の対象はすこぶる広いが、時間的・能力的制約から今年度はこの問題に限定した。お話の中身としては今のところ次のテーマを予定している。ただし、年度内に生起する事件の中で、経済史との関連で特に重要なものについては、適宜取り上げてお話するよう心掛けたい。生きた具体的な現実との緊張関係を抜きにした講義は、社会科学の講義としては適切なものではないと思うからである。

- (1) 幕藩体制の動揺
- (2) 開港と植民地化の危機
- (3) 明治維新
- (4) 明治政府の工業化政策
- (5) 政商と天皇・華族の資本蓄積
- (6) 農民の分解と士族の没落
- (7) 自由民権運動と天皇制国家
- (8) 産業革命と工業化
- (9) 紡績と製糸業
- (10) 工業化と在来産業
- (11) 重工業と鉱山業
- (12) 工業化と公害
- (13) 資本主義と地主制
- (14) 鉄道業と海運業
- (15) 外国貿易の発展と構造
- (16) 工業化と財政・金融
- (17) 植民地の領有とその矛盾
- (18) 工業化は民衆にとって何であったか。

経済史を含めて、いま、なぜ歴史を学ぶ必要があるのだろうか。講義要綱を書くたびに、いつも気になるのはこの点である。大学の教員のような研究を商売にしている人間は一応別として、一般の学生や市民にとって、果たして歴史を学ぶ必要などあるのだろうか。結論的にいえば、私はやはりその必要があると思っている。戦後補償裁判に事例をとって、その理由を若干述べておきたい。

第2次大戦中、日本政府と日本企業は百万を越える朝鮮人を軍人・軍属・従軍慰安婦として、あ

るいは労務要員として日本に連行し、酷使虐待の果てに多くの人々を死傷させた。にもかかわらず、日本政府も関係企業もこれに対して何の補償もしなかっただけでなく、未払金さえ支払わずに戦後処理に決着をつけた。

こうした理不尽な戦後処理の再検討を求めて、被害者たちはいま東京地裁その他に提訴し、裁判を始めてる。しかし、日本政府も関係企業も強制連行・強制労働・差別待遇の事実を一切認めず、未払金問題は1965年の日韓協定で解決済として、被害者の要求を突っぱねている。

日本政府と関係企業はなぜこういう傲慢な態度を取り続けているのだろうか。それは、研究者であるわれわれの怠慢と資料不足（敗戦後、国と企業は関係資料を徹底して焼却した）のために、事実の究明が充分でなく、多くの日本人が無知・無関のままに放置されているからであろう。歴史を学ぶことの意義は、現在を知り未来を洞察する武器を仕入れることにあるといわれるが、それは、具体的にはこういうことをいうのではなからうか。

中小企業論

三 井 逸 友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、深刻化する不況と「構造転換」のすすむ今日こそ、さまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要があるだろう。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業者の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられ、今日また深刻となっている。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐる理論・研究を検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」

などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的關係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、「構造転換」(リストラ)対応策、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。

授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れる。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。

〈構成予定〉

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態
- IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

- 〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』(青木書店) ¥2,800 (税抜)
- 〔参考書〕巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』(有斐閣)
- 中小企業庁編『中小企業白書』〔各年次〕

| |
|---|
| <p>教育経済論</p> <p style="font-size: small;">や しよ</p> <p style="font-size: small;">谷 敷 正 光</p> |
|---|

〈授業内容〉

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの

観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2,000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2,000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向と、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心に、それぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

〈授業形態〉

講義の他、その都度現実的理解のために年間5～6回程、視聴覚教室でビデオを使用する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

- (1) 欧米先進国の経済の現状と教育
 - ①アメリカ
 - ②イギリス
 - ③フランス
 - ④ドイツ
 - ⑤日本
- (2) 戦前の経済発展と実業教育の振興
 - ①学制時代(明治10年前)
 - ②教育令時代(明治20年代)
 - ③学校令時代(明治30年代)
 - ④実業学校令時代(明治30年代)
- (3) 戦後の経済発展と産業教育の振興
 - ①復興期
 - ②高度成長期
 - ③1970年代
 - ④1980年代
 - ⑤1990年代

(1)(2)は前期に、(3)は後期に講義する予定。

〈履修条件〉

欠席しないこと。

〈評価方法〉

定期試験の成績

〔教科書〕特に使用しない。年間25～30枚のプリントを講義資料として配布する。

〔参考書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』(東大出版)

文部省『産業教育百年史』(ぎょうせい)

本庄良邦著『産業教育体制研究』(三和書房)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

☆ 現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのが、この講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

☆ 特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥深く興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

☆ 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。

1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。年間をおおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

前期

[導入の話題]

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

[総論]

◇アメリカ的特質

◇アメリカ経済の歴史的背景

[アメリカ経済各論]

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家

◇アメリカの労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの金融

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

後期

[世界とアメリカ]

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易(GATT)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

[アメリカと世界の諸地域]

◇アメリカとEU

◇アメリカと日本

◇アメリカとアジア・太平洋

◇アメリカとカナダ・メキシコ

[むずびの話題]

◇アメリカの経済学(あたらしい学派の見解)

毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

☆ あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらないで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

☆ アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

☆ 最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。今、どうしてもといわれれば、日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書です。

☆ 熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です。

この講義は、3年生、4年生いずれもが受講できることはいまでもありませんが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生のうちに受講することをすすめます。また、この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりです。また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。

財務会計論

遠藤 孝

〈授業の主たる内容〉

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について、その伝達、開示の手段である貸借対照表（BALANCE SHEET）、損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に、その性質、内容、役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので、企業会計とは何か、企業が作成する貸借対照表などの決算書は、どのようにして作成されるか、それはどのような性質、内容をもつものであるか、それはどのような役割を果たすものであるか、また決算書はどのように読んだら良いのか、など実例をもって説明する。

〈授業形態、講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

- ① 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- ② 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- ③ 5月第1週
財務会計の制度性について。企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- ④ 5月第2週
先週に引続き、日本の企業会計制度の問題点、「企業会計原則」について。
- ⑤ 5月第3週
貸借対照表論、貸借対照表とは何か。実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。

- ⑥ 6月第1週
資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- ⑦ 6月第2週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- ⑧ 6月第3週
繰延資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- ⑨ 6月第4週
引当金について、引当金とは何か。引当金の設定基準 — 商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- ⑩ 7月第1週
同上
- ⑪ 7月第2週
資本会計について。

後期

- ⑫ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑬ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑭ 9月第3週
同上
- ⑮ 10月第1週
企業内容、会計内容の開示について。注記 財務諸表附属明細表（書）
- ⑯ 10月第2週
同上
- ⑰ 10月第3週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- ⑱ 10月第4週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
- ⑲ 11月第1週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第2週
同上
- ㉑ 11月第3週
日本、世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同上
- ㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。
— 総括
- ㉔ 最終週
予備

以上のスケジュールは学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。（前期、後期2回実施の予定）
〔教科書〕講義の際指示。

管理会計論

中原 章 吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って始めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は、管理会計の本質、体系その中での意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思えます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。

「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

〈予め読むべき文献など〉

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思えます。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

〔教科書〕講義の際、指示します。

会計監査論

飯 岡 透

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計監査の目的と種類
 - (1) 会計監査の目的
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性和その構造
2. わが国における監査制度の発展
 - (1) 戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2) 戦後におけるわが国監査制度の展開
3. 証券取引法による監査制度
 - (1) 証券取引法による企業内容開示制度
 - (2) 公認会計士監査制度
4. 商法による監査制度
 - (1) 商法による計算と公開制度
 - (2) 監査役監査制度
 - (3) 会計監査人監査制度
5. 監査人の要件と責任
 - (1) 監査人の要件
 - (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
 - (3) 監査役および会計監査人の職務権限と責任
6. 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 十分な証拠とその決定要因
7. 内部統制と監査リスク
 - (1) 内部統制の構成要素とその評価
 - (2) 監査リスクと重要性
8. 監査要点と監査手続の選択適用
 - (1) 監査要点の意義と種類
 - (2) 監査手続の意義と分類
9. 監査計画の設定要件と組織的監査
 - (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的とその設定
 - (3) 組織的監査の必要性和審査機能の整備
 - (4) 他の監査人の監査結果の利用
10. 監査調査の目的と種類
 - (1) 監査調査の目的と作成要件
 - (2) 監査調査の種類と保存
11. 経営者による確認書の意義と記載内容
 - (1) 経営者による確認書の役割
 - (2) 経営者による確認書の記載内容
12. 監査報告書と監査概要書
 - (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 短文式監査報告書の記載内容
 - (4) 特記事項の記載内容
 - (5) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論および財務会計論などの講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材・参考書については、最初の授業時に指示する。

商業政策

岩下 弘

〈授業項目〉

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策
 - 2 流通近代化政策
 - 3 流通システム化計画
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制
- 六 「大型店問題」と訴訟－中小商業者運動論
 - 1 大型店の出店をめぐる諸問題
 - 1) 社会問題としての大型店の出店
 - 2) 消費者と大型店
 - 2 江釣子訴訟
 - 1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響
 - 2) 訴状と判決の問題点
 - 3 生業権訴訟
 - 1) 名古屋市の大型店問題
 - 2) 名古屋市の商業と小売市場

3) 生業権論

七 流通問題と消費者保護政策

- 1 消費者問題論
- 2 消費者保護基本法
- 3 消費者行政
- 4 生協

八 流通問題と独禁政策

- 1 独占禁止法
- 2 不公正取引
- 3 取引慣行

以上

〈成績評価〉

試験、レポート、出席により評価する。

〔教科書〕教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

貿易論

古沢 紘造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンス編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

〈授業内容〉

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易
- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易
- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I～VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

〈評価方法〉

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思

ます。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

<教材>

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪れたらよい機関を紹介いたします。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究館4階34号室）を訪ねる人もいます。

マーケティング

曾我信孝

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から説明する。
 - (1) 製品政策
 - ① 概念と差別化政策
 - ② 多様化・細分化政策
 - ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策
 - (2) 価格政策
 - ① 概念と価格設定の方法(1)
 - ② 価格設定の方法(2)と消費者支配
 - ③ 差別価格と収奪
 - (3) チャネル政策
 - ① 概念と流通機構
 - ② 商業の排除と系列化政策
 - ③ 流通支配の形態
 - (4) 販売促進政策
 - ① 概念と人的販売政策
 - ② 広告政策と広告業界
 - (5) マーケティング・ミックス

※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。

2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。
 - (1) 激変する市場環境
 - ① 国内市場の変化
 - ② ブロック経済化
 - ③ 経済規制の緩和

- (2) 総合商社の新事業
 - ① 川下戦略
 - ② 消費財生産部門への参入
 - ③ 新事業への対応政策
- (3) 総合商社の国際マーケティング戦略
 - ① 消費財マーケティングの展開
 - ② 総合商社の需要創造活動
 - ③ ネットワークと支配
- (4) 総合商社と子会社
 - ① 子会社戦略
 - ② マーケティング管理と子会社
- (5) 情報化戦略
 - ① 国際化と情報の対応
 - ② 通信事業と支配
 - ③ 情報関連事業と支配

※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならないマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

<評価の方法>

- ① 年一回の定期試験……70%
夏休中の課題 ……20%
出席状況 ……10%
- ② 評価基準
講義内容の理解 ……60%
問題意識 ……30%
分析力・応用力 ……10%

〔教科書〕曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）¥4,000

〔参考書〕三浦 信・来往元郎・市川 貢『マーケティング』（ミネルヴァ書房）¥2,200
石原武政『マーケティング競争の構造』（千倉書房）¥2,800

労務管理論

石井脩二

<講義目的>

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめています。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動

き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、日本企業が今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なことは、現実には生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実には焦点を合わせ、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

〈講義内容〉

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを表現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用の卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。

ところが現在、日本企業がつくりあげてきた強い競争力そのものが問われはじめている。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものがその妥当性を問われているということにはほかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開されようとしているかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめている。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序章

労務管理ないし人的資源管理とは

第1章

日本企業が直面している諸問題

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

〈授業方式〉

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

〈成績評価〉

前期（50点）、後期（50点）を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

〔教科書・参考書〕

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。講義時間にプリント配布。

①日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』（日本経済新聞社）¥2,800

②日本経済新聞社編『会社解体新書』（日本経済新聞社）¥1,300

③日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』（日本経済新聞社）¥1,300

④佐野陽子『企業内労働市場』（有斐閣）¥1,700

経営管理論

百田義治

〈講義の要旨〉

今日、日本的経営システムは、「トヨタイズム」という言葉に象徴されるその「効率性」の側面においても、また「長時間労働」や「過労死」という言葉に象徴される「否定的」な側面においても大きな関心が寄せられている。現代社会における我々の生活は、その大部分が企業の活動を媒介に実現されているのであり、物質的にも精神的にも豊かな社会を実現し、働きがいのある労働生活を回復するために、現代企業における経営管理問題に無関心でいられないことは多言を要しないであろう。

経営管理論は、企業の経営管理諸活動を近代化

・合理化する技法・制度・理念の提供を課題として誕生したものであり、今日においても、その基本的な性格が実践性にあることは否定できない。すなわち、現代の経営管理論は、めざましい技術革新の進展や著しい国際化の展開、あるいは急速に進行する高齢化社会の到来や深刻化する環境問題、さらには自覚した市民として登場しつつある消費者の行動の多様化など企業を取り巻く諸条件の変化に起因する諸問題に対する実践的な指針・政策を提供するという方策論的性格を一面において有している。

本講義では、このような方策論的経営管理論が提起するさまざまな経営管理の技法・制度・組織あるいは理念・思想の歴史的展開と現状を事実即して具体的に考察する。しかし同時に、経営管理の諸問題は、広義の経済学、あるいは社会科学の対象として位置づけて考察することが必要である。なぜなら、一つには、現代企業の諸活動は、経営者や管理者ばかりではなく、圧倒的多数の従業員「総労働」として実現されているのであり、そのような総体としての企業構成員すべての労働と生活の豊かな未来を展望することが経営管理論の課題でもある。二つには、現代企業は私企業とはいえ「社会的存在」・「社会的公器」でもあり、国民全体の豊かな未来を展望するという立場から、現代企業の経営管理問題の多様な諸相を歴史的、客観的、科学的に認識し、その問題点を解明することも経営管理論の重要な現代的課題である。すなわち、現代企業の諸活動は企業構成員全体の労働に支えられたものであり、またその諸活動は一般株主や消費者あるいは取引業者や地域住民などの、さらには国際化（グローバル化）の現状を踏まえれば進出国との関係をも含めて、数多くの利害関係者との多面的で密接なネットワークの中で展開されているのであり、したがって現代企業の経営管理の諸問題は、実践的・方策論的な立場からだけでなく、一般従業員、下請・関連企業、地域住民、消費者などの労働と生活との関係をも視野に入れて検討されなければならないであろう。本講義では、できる限り、このような視点からも経営管理の諸問題にアプローチすることにしたい。

〈授業の方法〉

授業は、主として、教科書と参考書を素材に授業スケジュールに従って行うが、経営管理問題への関心を鼓舞する意味でも、また経営管理の歴史的展開を学ぶことの現代的意義を理解する意味でも、新聞や雑誌の記事などできる限りアップ・トゥ・デートな生きた題材の利用にも努める。とくに、技術革新や日本の経営や国際化など経営管理の現代的課題を扱う後期の授業では、ビデオなども利用し、できるだけ具体的に現代企業の経営管理の実際を把握することにも努める。

〔授業スケジュール〕

- ①第1週～第2週：経営管理入門（社会と企業；現代企業と経営管理；経営者と労働者）
- ②第3週～第7週：現代経営管理の基本構造（生産管理；労務管理；財務管理；マーケティング；トップ・マネジメント、など）
- ③第8週～第12週：経営管理の理論（科学的管理論；人間関係論；現代組織論；経営戦略論、など）
- ④前期試験（前期最終週）
- ⑤第14週～第15週：技術革新と経営管理（ME技術革命と労働；現代企業の情報化；OAの進展と事務労働）
- ⑥第16週～第18週：日本の経営論（日本の労使関係；日本の生産システム；法人資本主義と企業集団；企業社会論）
- ⑦第19週～第22週：国際化と経営戦略の新展開（日本企業、アメリカ企業、イギリス企業などの具体的事例について）
- ⑧第23週：現代経営管理の課題と労働の未来
- ⑨第24週：後期試験

（以上のスケジュールは授業の進め方の基本的な方向です。時間割編成の関係などで若干変更することがあります）

〈成績評価の方法〉

前期試験と後期試験に、数回のレポートと出席状況を加えて総合的に評価します。

〔教科書〕今井俊一編著『経営学』（八千代出版）1994年

笹川儀三郎編著『現代経営の基本問題（仮題）』（税務経理協会）1994年

〔参考書〕新書・文庫などを中心に随時指定します。

行政法 II

齊藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、公務員法、(3)公物法・营造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、

『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法Ⅳ（１）

叶 和 夫

開講時に指示する。

民法Ⅳ（２）

叶 和 夫

開講時に指示する。

比較憲法

竹 花 光 範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国のシンボル等）
4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

経済法

川 井 克 倭

経済法—独占禁止法を中心として—

第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。

第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他私的独占、カルテル、企業結合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克倭著『競争政策法概説』（高文堂）¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井克倭著『カルテルと課徴金』（日本経済新聞社）

川井克倭著『いやでもわかる公取委』（日本経済新聞社）

国際関係論

首 藤 素 子

第1に、冷戦後の国際関係の特徴と問題についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、開発途上国に対する政府開発援助（ODA）の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕細谷千博・臼井久和編『新版 国際政治の世界』（有信堂高文社）1993年

〔参考書〕有賀 貞他編『講座 国際政治』（東大出版会）1989年（第2、3、4巻）

西洋政治史

浦 田 早 苗

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのこ

とを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。今年度はフランス革命以降の18、19世紀のフランス政治史を通じ、『近代』の意味するところを考えてみたい。

宣伝広告論

上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。
〔参考書〕その都度指示する。

政 党 論

前期：岩 井 奉 信
後期：早 川 純 貴

政党は民主政治の要であるといわれてきた。しかし、近年の激動する政治状況の中、政党および政党政治のあり方そのものが問われるようになってきている。本講義では、前期で岩井が現代日本の政党および政党政治の現状について、政治改革や政界再編などのトピックを中心に講義を行ない、現代政党が抱える問題についての理解を深める。その上で、後期には早川が政党および政党政治の理論について講義を行なうと共に、諸外国の政党についての比較などを行なう。
〔教科書〕岡沢憲英『政党』（東京大学出版会）

経 営 統 計

相 山 長 知

開講時に指示します。

国際経営論

茂 垣 広 志

国際経営論とは「国境を越えて事業展開している活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる領域である。周知のように1985年のプラザ合意以降の急激な円高と貿易摩擦による相手先国の輸入規制は、これまでの日本企業の国際戦略の転換を余儀なくさせるものであった。海外市場確保のための現地生産や円圏離脱のための第三国生産、それらは企業の戦略と活動の調整をますます複雑なものにする。

本講義では、企業の国際化、海外進出、多国籍化というような言葉で表わされている現象を企業経営の視点から多面的にとらえ、検討していきたい。その際、日本企業を念頭において話を進めるが、欧米の多国籍企業との比較を踏まえながら、理論とケースを織り交ぜつつ講義を進行させていく予定である。

〔教科書〕根本 孝・諸上茂登編著『国際経営の進化』（学文社）¥2,800

保険経営論

石名坂 邦 昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においては各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際的问题を取りあげながら行う。
〔教科書〕開講時に指示する。

財務会計論

渡 邊 恵一郎

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の財政状態と経営成績を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を持つ経営者が、投資者、債権者、その他企業活動に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が貸借対照表、損益計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心に課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規を取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

〔教科書〕染谷恭次郎著『現代財務会計』
(中央経済社)

経営分析論

片 桐 伸 夫

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

前期は収益性・安定性分析を、後期は生産性・社会性・損益分岐点・利益増減・成長性その他の分析をとりあげ、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。(財務諸表とは「貸借対照表」や「損益計算書」など、企業の毎期の経済活動を報告するものです。)

したがって、成績は「平常点」で評価します。

- ① 前・後期、計2回のレポート提出と、
- ② 前・後期、計2回のテストを行い、
- ③ なお、出席を重視します。

学年末試験は行わないので、十分注意下さい。

〔教科書〕開講の時、指示します。

人税の問題が大きな関心事として存在している。消費税についても何かと話題にのぼっている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。ここでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与(報酬、給料、賞与)の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、借地権、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

なお、テキスト、参考書等は開講時に指示する。
〔評価方法〕

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度、提出を求める。また、毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

税務会計論

高 木 克 己

税務会計論

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法

経営労務論

中 村 眞 人

企業社会と言われる今日の日本社会で、人々はどうのように働き、生活を支えているのだろうか。企業を社会経済のなかに位置づけた上で、企業と

労働との関係、企業のなかでの労働の実態について、考えていきたい。

学問の対象それ自体は、会社と仕事という身近なものだが、専門的な諸概念や理論枠組を用いて問題の発見と説明をはかる。講義内容は高度だから、自分で毎回、詳しいノートを取りながら聴講すること。

(1) 企業社会の成り立ちと労働

現代日本には、さまざまな業種の企業があり、また世界的な巨大企業から零細企業に至るまで企業規模の幅も広い。これらの企業は、どのような関係のもとに結びついているのか。そして、それは、企業で働く人々にどのような階層分化をもたらしているのか。また、それぞれの階層ごとに、どのような問題を抱えているか。これら前半については、下記の教科書を用いる。

(2) 現代日本企業の人的資源管理と労使関係

後半では、私がおこなっている実態調査研究をふまえて、現代日本企業の雇用管理（人事管理）、賃金、労働時間、労使関係などについて、具体的な事例を示し、最新の現実引照しつつ解説する。

〔教科書〕戸塚秀夫・徳永重良編『現代日本の労働問題』（ミネルヴァ書房）

商業史

山田 勝

商業と商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。その際、対象とする時代の人々の生活や考え方、現代とのかかわり、といった諸点も検討していきたい。

主に対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ（上代）

佐原 作美

『万葉集』の中から各期を代表する歌人の特色ある歌を選んで講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』（桜楓社刊）¥1,800

国文講読Ⅱ（中古）

鈴木 裕子

今年度は、『源氏物語』を、紅葉賀巻から読む。本文を正確に読みながら光源氏の青春期の喜びや苦悩というものについて考えてみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』二（新潮社）

国文講読Ⅲ（中世）

蘭 部 幹 生

中世は説話の時代とも言われるが、そのなかでも説話文学の代表作品である『宇治拾遺物語』を読む。一つ一つの説話が担っている歴史的背景や意味、及び他作品との関連について考えてみたい。

〔教科書〕中島悦次校註 角川日本古典文庫『宇治拾遺物語』（角川書店）¥720
〔参考書〕その都度指示する。

国文講読Ⅳ（近世）

清 田 啓 子

近世小説の白眉とされる『雨月物語』をとりあげる。古典と中国文学との撰取による独自の世界を充分味わってみたい。また、読本の発生以来、後期読本への流れも見、「雨月」の位置も確かめたい。

〔教科書〕水野 稔校註『雨月物語』（明治書院）

国文講読Ⅴ（近・現代）

大 室 英 爾

近代詩を読む。『於母影』の訳詩などからはじめて大正期の朔太郎・犀星・春夫あたりまでの主たる作品を順次読み、考える。併せて近代詩の流れにも検討を加える。

〔教科書〕萬田・吉田編著『展望近代詩』—その歴史と作品—（双文社出版）¥1,236

国文講読Ⅴ（近・現代）

笹瀬 王子

前年度に引きつづき、泉鏡花を扱う。作品に忠実な読みを通して〈一つの美しい魂の国〉とも評される鏡花文学の特質とその魅力を考えたい。

〔教科書〕川村二郎編『鏡花短篇集』（岩波文庫）

¥520

泉 鏡花著『歌行燈』（岩波文庫）

¥260

国文特講Ⅴ（近・現代）

笹瀬 王子

田山花袋の回顧録『東京の三十年』を読む。本書に描かれた文壇や社会の動きに留意しつつ、多角的に明治の文学を考えてみたいと思う。

〔教科書〕田山花袋『東京の三十年』（岩波文庫）

¥570

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

英文タイプライティングⅡ

竹内 美恵子

一年次に習得した基礎の上に、レター、各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし、一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。

なお、他学部の学生は、ブラインド・タッチをマスターしていること。

時事英語

岡本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してくること。

〔教科書〕テープ使用。

英語演習Ⅰ（ディクテーション）

岡本 誠

慣用句の成立背景を歴史的にみていく。例えば、OKという言い方はどのようないきさつで成立したのか。あるいはmaverickとはどうして「一匹狼」の意味になったのか。これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってくること。各自TOEFL 500点をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

杉田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による
実習

〔教科書〕コンピュータ教育工学研究所編
ガイドブック『BASIC』
(サイエンス社) ¥1,854

臨床放射線特論Ⅰ

本間 襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では、将来病院や医学関係に従事する人に必要な知識である。

〔教科書〕定めず

応用計測学

榎 尾 英 次

医用画像診断装置は、コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では、核医学機器（ガンマカメラ、シングルホトンECT、ポジトロンCT）、X線CT装置、MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置、DSA、CRならびにPACSについても、その概要を講述する。

〔参考書〕 岩井喜典他編著『医用画像診断装置』
（コロナ社）

教職および資格講座

教 職 課 程
学校図書館司書教諭講座
社会教育主事講座
博物館学講座
社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。
(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

| 課程・講座名 | 資格取得学部 |
|---------------------|----------|
| 教 職 課 程 | 全 学 部 |
| 学校図書館司書教諭講座 | 全 学 部 |
| 社会教育主事講座 | 全 学 部 |
| 博物館学講座 | 仏教学部・文学部 |
| 社会福祉主事講座 社会福祉士基礎 | 全 学 部 |

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

| | |
|------------------------------------|---|
| 教育原理 (上岡 安彦) | 1 |
| 教育原理 (北村 三子) | 1 |
| 教育原理 (坂本 信昭) | 1 |
| 教育原理 (田中 智志) | 1 |
| 教育原理 (村山 輝吉) | 1 |
| 教育心理学 (教育方法論を含む) (遠藤 司) | 2 |
| 教育心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子) | 2 |
| 教育心理学 (教育方法論を含む) (北島 歩美) | 2 |
| 教育心理学 (教育方法論を含む) (国眼 眞理子) | 2 |
| 教育心理学 (教育方法論を含む) (中村 均) | 2 |
| 青年心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子) | 2 |
| 青年心理学 (教育方法論を含む) (川田 三夫) | 2 |
| 青年心理学 (教育方法論を含む) (小宮山 要) | 3 |
| 青年心理学 (教育方法論を含む) (牟田 悦子) | 3 |
| 特別活動 (中野目 直明) | 3 |
| 生活指導 (遠藤 司) | 3 |
| 生活指導 (佐藤 尚人) | 3 |
| 宗教科教育法 (小山 一乗) | 3 |
| 国語科教育法 (神谷 道倫) | 4 |
| 書道科教育法 (那須 隆吉) | 4 |
| 英語科教育法 (荒井 良雄) | 4 |
| 社会科・地理歴史科教育法 (長野 覺) | 4 |
| (平成元年度以前入学生: 社会科教育法) | |
| 社会科・地理歴史科教育法 (中島 義一) | 4 |
| (平成元年度以前入学生: 社会科教育法) | |
| 社会科・地理歴史科教育法 (野呂 肖生) | 5 |
| (平成元年度以前入学生: 社会科教育法) | |
| 社会科・公民科教育法 (長谷部 八朗) | 5 |
| (平成元年度以前入学生: 社会科教育法) | |
| 社会科・公民科教育法 (谷敷 正光) | 5 |
| (平成元年度以前入学生: 社会科教育法) | |
| 社会科・公民科教育法 (小山 一乗) | 6 |
| (平成元年度以前入学生: 社会科教育法) | |
| 社会科・公民科教育法 (橋爪 敏) | 6 |
| (平成元年度以前入学生: 社会科教育法) | |
| 職業科教育法 (前田 幸一) | 6 |
| 商業科教育法 (谷敷 正光) | 7 |

| | |
|-----------------------|---|
| 道徳教育の研究 (上岡 安彦) | 7 |
| 教育実習 (上岡 安彦) | 7 |
| 教育実習 (坂本 信昭) | 7 |
| 教育実習 (村山 輝吉) | 8 |
| 教育実習 (北村 三子) | 8 |

(2) 教職に関する専門科目 (選択)

| | |
|-----------------------------------|-----|
| 教育哲学 (汐見 稔幸) | 8 |
| 教育社会学 (高島 秀樹) | 8 |
| 現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹) | 8 |
| 教育評価 (大浜 幾久子) | 9 |
| 教育情報学 (小倉 康仁) | 9 |
| 教育調査 (鈴木 規夫) | 9 |
| 教育史 (北村 三子) | 9 |
| 教育関係法規 (広沢 明) | 9 |
| 社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉) | (9) |
| 社会教育施設 (村山 輝吉) | (9) |
| 図書館学 I (山崎 慶子) | (9) |
| 図書館学 II (源 昌久) | (9) |
| 視聴覚教育 (赤堀 正宜) | (9) |
| 教育臨床心理学 (牟田 隆郎) | 10 |
| 教育法規研究 (神田 修) | 10 |
| 児童文化 (湯山 厚) | 10 |
| 宗教教育 (松本 皓一) | 10 |

(3) 教科に関する専門科目

【社会 地理 歴史 公民】

| | |
|-----------------------|----|
| 日本史概説 (粟野 俊之) | 10 |
| 日本史概説 (小松 寿治) | 10 |
| 世界史概説 (井村 行子) | 10 |
| 世界史概説 (渡辺 惇) | 11 |
| 地誌学概説 (橋詰 直道) | 11 |
| 地誌学概説 (長野 覺) | 11 |
| 地誌学概説 (宮口 伺廸) | 11 |
| 人文地理学概説 (小林 高壽) | 11 |
| 自然地理学概説 (高木 正博) | 11 |
| 自然地理学概説 (早船 元峰) | 11 |
| 民法 I (青野 博之) | 12 |
| 民法 I (鶴井 俊吉) | 12 |
| 政治学原論 (大塚 桂) | 13 |
| 社会学原論 (渡辺 源樹) | 13 |
| 経済原論 (荒木 勝啓) | 13 |
| 経済原論 (大石 雄爾) | 14 |
| 経済原論 (小野 俊夫) | 15 |
| 哲学概説 (中村 璋八) | 15 |
| 哲学概説 (久保 陽一) | 15 |
| 倫理学概説 (国嶋 一則) | 15 |
| 宗教学概説 (洗 建) | 15 |

| | |
|-----------------------|------|
| 宗教学概説 (松田 文雄) | 15 |
| 宗教人類学 (佐々木 宏幹) | (16) |
| 民間信仰論 (谷口 貢) | 16 |
| 東洋思想研究 (館野 正美) | 16 |
| 民衆宗教成立史 (洗 建) | 16 |
| 歴史哲学 (麻生 建) | 16 |
| 日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘) | (16) |
| 美術史概説 (中島 亮一) | (16) |
| 日本宗教文化史 (松田 文雄) | 16 |
| 【職業】 | |
| 産業概説 (前田 幸一) | 16 |
| 職業指導 (山田 勇治) | 17 |
| 商業実習 (前田 幸一) | 17 |
| 【商業】 | |
| 職業指導 (山田 勇治) | (17) |

II 学校図書館司書教諭講座

| | |
|---------------------|----|
| 図書館学Ⅰ (山崎 慶子) | 18 |
| 図書館学Ⅱ (源 昌久) | 18 |

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

| | |
|-----------------------------------|----|
| 社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉) | 19 |
| 社会教育計画 (村山 輝吉) | 19 |
| 社会教育実習 (村山 輝吉) | 19 |
| 社会教育実習 (上岡 安彦) | 19 |

(2) 選択必修科目

| | |
|--------------------------|------|
| 現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹) .. | (19) |
| 婦人問題と社会教育 (矢口 悦子) | 19 |
| 社会教育施設 (村山 輝吉) | 20 |
| 図書館学Ⅰ (山崎 慶子) | (20) |
| 博物館学Ⅰ (倉田 芳郎) | (20) |
| 博物館学Ⅱ (竹内 順一) | (20) |
| 企業内教育・職業訓練 (塩川 正人) | 20 |
| 社会体育Ⅰ (古田 潤子) | 20 |
| 社会体育Ⅱ (古田 潤子) | 20 |
| 視聴覚教育 (赤堀 正宜) | (20) |
| 教育原理 | (20) |
| 教育心理学 (教育方法論を含む) | (20) |
| 青年心理学 (教育方法論を含む) | (21) |
| 社会心理学 (坪井 健) | 21 |
| 教育社会学 (高島 秀樹) | (21) |
| 教育調査 (鈴木 規夫) | (21) |
| 教育史 (北村 三子) | (21) |
| 児童文化 (湯山 厚) | (21) |
| 社会教育行政 (牧野 篤) | 21 |
| 成人学習論 (牧野 篤) | 21 |

IV 博物館学講座

(1) 必須科目

| | |
|---------------------|----|
| 博物館学Ⅰ (倉田 芳郎) | 22 |
| 博物館学Ⅱ (竹内 順一) | 22 |

| | |
|--|------|
| 教育原理 | (22) |
| 社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉) | (22) |
| 視聴覚教育 (赤堀 正宜) | 22 |
| 博物館実習Ⅰ (館務) (倉田 芳郎・太田喜美子) .. | 22 |
| 博物館実習Ⅱ (収集) (倉田 芳郎・葉貫 鷹哉・ 恵津森 智行・太田喜美子) 22 | |
| 考古発掘実習 (千葉 基次) | 23 |
| 博物館実習Ⅲ (見学) (倉田 芳郎・太田喜美子) .. | 23 |

(2) 選択必修科目

| | |
|------------------------------|----|
| 日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘) | 23 |
| インド仏教文化史 (奈良 康明) | 23 |
| 西洋文化史Ⅰ (佐々木 真) | 23 |
| 西洋文化史Ⅱ (三小田 敏雄) | 23 |
| 仏教美術 (中島 亮一) | 24 |
| 現代美術 (矢野 陽子) | 24 |
| 禅美術 (海老根 聰郎) | 24 |
| 美術史概説 (中島 亮一) | 24 |
| 西域美術史 (相馬 隆) | 24 |
| 考古学概説Ⅰ (日本) (倉田 芳郎) | 24 |
| 考古学概説Ⅱ (外国) (飯島 武次) | 24 |
| 考古学特講Ⅰ (高浜 秀) | 24 |
| 考古学特講Ⅲ (飯島 武次) | 25 |
| 日本民俗学 (谷口 貢) | 25 |
| 宗教人類学 (佐々木 宏幹) | 25 |
| 地形学Ⅰ (小池 一之) | 25 |
| 地質学 (貝塚 爽平) | 25 |

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

| | |
|---------------------------|----|
| ※社会福祉原論 (伊藤 秀一) | 26 |
| ※社会福祉原論 (原田 信一) | 26 |
| ※老人福祉論 (前期: 中野 いく子) | 26 |
| (後期: 東條 光雅) | |
| ※障害者福祉論 (原田 信一) | 26 |
| 児童福祉論 (柏女 靈峰) | 26 |
| ※社会保障論 (近藤 功) | 27 |
| ※公的扶助論 (伊藤 秀一) | 27 |
| ※地域福祉論 (和田 敏明) | 27 |
| ※心理学 (福祉) (井上 孝代) | 27 |
| ※社会学 (福祉) (橋爪 敏) | 27 |
| ※法学 (福祉) (小林 弘人) | 28 |
| リハビリテーション論 (原田 信一) | 28 |
| 社会福祉運営論 (坂田 周一) | 28 |
| 家族福祉論 (高橋 重宏) | 28 |
| 医療福祉論 (前期: 松本 栄二) | 28 |
| (後期: 春見 静子) | |
| 婦人福祉論 (林 千代) | 28 |
| 保健福祉論 (安梅 勅江) | 28 |

| | |
|----------------------|----|
| 社会福祉発達史（林 千代）…………… | 29 |
| 海外社会福祉論（中野 いく子）…………… | 29 |
| 上記科目のうち | |

※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注（ ）頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教 育 原 理

上 岡 安 彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次に、出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』〔上・中・下〕
（岩波文庫）

上 ¥570，中 ¥520，下 ¥520

教 育 原 理

北 村 三 子

登校拒否・不登校の広がりや象徴するように、今日の社会では、それまで自明だとされていた学校や教育の価値が揺ぎ始めている。このような時期にあって、私たちはどのような方向で教育について考えてゆけばよいのだろうか。本講義では、その手掛りを、J. クリシュナムルティの教育思想の中に探ってみたい。

〔教科書〕J. クリシュナムルティ『英知の教育』
（春秋社）¥1400

教 育 原 理

坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる

9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える
12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』
（学芸図書）¥950
デュイ著、宮原誠一訳『学校と社会』
（岩波文庫）¥200
西村絢子他『現代教育を考える』
（昭和堂）¥2,600

教 育 原 理

田 中 智 志

本講義は、教育についての基本的・総合的な認識と、教育の現実を直視する学問的姿勢を学ぶことを目的とするものであり、とくに個人的経験をこえた、ひと・社会と教育・学校との構造的な関係をあきらかにしていきたいと思えます。とりあげるトピックスは、1. 人間と教育（人間を形成するとはどういうことか）、2. 社会のなかの学校（学校の選抜機能はなぜ生じるのか）、3. 教育課程と学習指導（みえないカリキュラムとはなにか）、4. 教育と学校の存立構造（脱学校論や再生産論はなにを告発しているのか）などです。

〔教科書〕松浦良充編著『いま教育を考えるための8章』（川島書店）¥2,200

教 育 原 理

村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作なども参照しつつ、人間の発達と教育、文化、社会のかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』（岩波新書）
¥480

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕（国土社）
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）

教育心理学
（教育方法論を含む）

遠 藤 司

今日の教育の現場において、教師、生徒がおこなう様々な活動に対して心理学の知見を基にした見方がなされている。特に、教師として生徒と様々な形で関わる際に、心理学の見方に対してどのような態度で臨むかによって、具体的な教育活動のあり方が異なってくる。本講義では、心理学の知見がどのように教育の世界に影響を及ぼしてきたかを、学習、評価等の諸領域において概観しながら、生徒とのよりよい関わりを作るために、教師としてどのような活動をしていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

教育心理学
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方や、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学
（教育方法論を含む）

北 島 歩 美

思春期、青年期の心理的発達課題について概説し、それらと合わせて、教育の現場においてあらわれる臨床的諸問題（不登校、心身症など）について検討する。さらに、時間が許せば、それらの問題についての臨床的アプローチを考えていきたいと思っている。

〔教科書〕菅佐和子著「思春期女性の心理療法」
（創元社）¥1400

〔参考書〕E. H. エリクソン著「自我同一性」（誠心書房）¥2500

中井久夫・中山康裕編「思春期の精神

病理と治療」¥4,000

教育心理学
（教育方法論を含む）

国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「青年期」「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」の三領域を中心に学んだ上で、「学習意欲と教育評価」や「進路指導」についても併せて考えていきたい。

〔参考書〕授業において随時プリントを配布する。

教育心理学
（教育方法論を含む）

中 村 均

1. 発達
どのような仕組みで発達が起こると考えられているか。発達の変化の概観。
2. 学習
どのような仕組みで学習が起こると考えられているか。学習を促進する条件はどういうものがあるか。
3. 個人差
一人ひとりの違いの把握について。
4. 教育方法
教育メディアを利用した教育方法について。
〔参考書〕授業中そのつど紹介する。

青年心理学
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学
（教育方法論を含む）

川 田 三 夫

青年は発達の存在であると同時に社会的存在でもある。思春期の頃にふと自分のことを考え始

め、友達と比較をしたりして色々悩みながら現在に至っている。親はもちろん、テレビ・マンガ、遊び・おもちゃ、学校・友達、勉強・進学、文学・音楽など自己の形成に影響を与えるものは数多い。講義の前半はこれらの意味や役割について考えてみる。

後半は身近な所で起きている現象や話題を取り上げながら青年を考える一方で、分かっているようで分かってない自分のことを人格心理学的な側面からアプローチして理解を広げてみたい。簡単な心理学のテストなども試みにやってもらう予定である。

青年心理学
(教育方法論を含む)

小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性等について考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。
〔教科書〕使用しない。

青年心理学
(教育方法論を含む)

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴、彼らへの対応について学ぶ。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学-青年心理学』(学文社) ¥1,000

特別活動

中野目 直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔教科書〕宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』(明治図書) ¥1,650

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』(エイデル研究所) ¥2,000

生活指導

遠藤 司

教師として生徒の「生活」にいかんして関わるべきかという問題は、今日の学校教育において重要になっている。特に最近、学校生活に適応できずに、様々な形で不適応状態に陥り、困難をおぼえている生徒も多い。本講義では、それぞれの生徒にとっての学校生活に適應することの意味、あるいは不適応状態に陥ることの意味を探りつつ、一人一人の生徒に教師がどのように関わればよいのか、また、学校という生活の場をどのように作っていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

生活指導

佐藤 尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) ¥2,200

宗教科教育法

小山 一乗

先ず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科

学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。学習指導案作成の徹底的指導をする。

- 〔教科書〕『仏教概論－わかりやすい仏教－』
 (曹洞宗宗務庁) ¥800
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』
 (大法輪閣) ¥1,600
 『教育小六法』(学陽書房) ¥2,200
 小中高各『学習指導要領』(文部省、各¥230, ¥250, ¥370)
 『生徒指導の手引』(文部省¥460)
 『教職教養ランナー』(一ツ橋書店) ¥1,020
 『現代のエスプリ』251号(至文堂) ¥1,020
 その他必要に応じて指示する。資料を配布するのでファイルを用意しておくこと。
 〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版、1985年)
 その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

- 〔教科書〕改編 中学校・高等学校『国語科教育法』(桜楓社) ¥1,800

書道科教育法

那須隆吉

長い歴史をもつ書の特徴を考察し、その指導法を学習する。文部省の芸術科指導要領を理解し、

将来の教師としての自覚を促し、指導力を養うことにつとめたい。

- 〔教科書〕久米公著『書写書道教育要説』(萱原書房) ¥2,300
 〔参考書〕『高等学校学習指導要領解説』(文部省) ¥410

英語科教育法

荒井良雄

中学校や高等学校の英語教員として教壇に立つための基本となる英語教育法の理論と実践の研究指導を行う。

学習指導案の作成法と授業の進め方の実際的な指導が中心になる。教師に必修のPublic Speakingを重視する。

- 〔教科書〕『英語科教育法の実際』
 (成美堂) ¥2,200
 〔参考書〕稲村松雄『ジャック・アンド・ベティーから21世紀へ』(桐原書店) ¥1,400

社会科・地理歴史科教育法

(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(地理))

長野 覺

学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校地理歴史科の教科目的・教科内容等を概観したのうち、特に地理教育について教案作成・教材の工夫・視聴覚器材の使用法などをに指導し、授業演習を行い、教育実習に備える。

- 〔教科書〕中学校社会科教科書、高等学校地理教科書・地図帳、文部省学習指導要領

社会科・地理歴史科教育法

(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(地理))

中島 義一

社会科(地理歴史)教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

社会科・地理歴史科教育法
(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(歴史))

野 呂 肖 生

「中学校で社会科、高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科・地歴科教育(とくに歴史)の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

長谷部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科公民科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、模擬授業やディスカッションの機会を持ち、受講生の主体的な授業参加を期したい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕適宜指示する。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

谷 敷 正 光

〈授業内容〉

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を廃止し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまで

さかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原理とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教室でのビデオの上映などを行う。

〈授業項目〉

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科教育の原点
4. 社会科学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と公民科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
10. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
11. 教育評価
12. 教育実習の意義
13. 模擬授業を通じての社会科の学習指導と授業実践の研究
14. 社会科教師論
15. 教員採用試験の準備と今年度の採用について(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する)

〈履修条件〉

出席を確認する。

〈成績評価の方法〉

授業中定期試験と同じ様式で一度試験を行う。授業での課題の提出、学習指導案の作成、授業実践などで総合的に評価する。

〔教科書〕大森・谷敷共著『社会科教育研究』(梓出版)

〔参考書〕遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

石川達三著『人間の壁』(新潮文庫)
灰谷健次郎著『兎の眼』(新潮文庫)
無着成恭著『山びこ学校』(角川文庫)
その他、若干のルポ、小説、社会科・公民科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

- 〔注 意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。
②視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

小 山 一 乗

我が国にかかわる第二次世界大戦、英文・邦文の「日本国憲法・教育基本法」、学習指導要領相互の関連検証。学校教育法に規定する学校の目的・学校教育の目標の系統的位相性の検討。社会科創設の国際関係論的・歴史的背景、及び、初期社会科指導要領(試案)以来の変遷概観。社会教育の目標・内容・方法・カリキュラム論。カリキュラムの類型。学習指導の段階説。学習指導案の様式・類型と教師の教育観。学習指導要領各項文末表現①「知識理解度事項」②「態度的事項」③「技能的事項」等と学習指導上のねらいの確認。中・高等学校の社会科・公民科の教科書を用い、個人又はチームによる模擬授業実践を課す。その際、年間学習指導計画案から本時学習指導計画案までを作成し、他教科との関連をも考慮すること。模擬授業とはいえ実際の授業とことろえ、メディア・ミックスを含めた手作りの「掲示・配布資料等の実物」を作成すること。模擬事業は、カガミ利用としてのビデオに収録し、事後の授業分析の討議に供する予定。最後に『学習指導要領』『指導書 社会編』『解説 公民編』をもとにして、各自手作りの教科書素描の提出を課す。シラバスは開講時に示す。

[教科書] 小・中・高校各『学習指導要領』、各
¥230 ¥250 ¥370 小学校・中学校学
習指導要領各『指導書 社会編』¥90
¥100 『高等学校学習指導要領解説
公民編』(実教出版)¥220 『中学生
の社会科・地理』『同 歴史』『同
公民』(中教出版)各¥605 ¥605
¥605

『最新版 倫理』『改訂版 政治・経
済』『改訂新版 現代社会』(中教出
版)、各¥370 ¥370 ¥605

『地図帳』各自で用意のこと

『平成6年版 教育小六法』(学陽書房)
¥2,200 『現代のエスプリ』251号(至
文堂)¥1,020

[参考書] 『楽しく学べるヒント教材 シリーズ
中学 社会科の授業Ⅰ』『同・Ⅱ』

(明治図書)各1,400

『教職教養ランナー95年版』(一ッ橋
書店)¥1,020

『一般教養ランナー95年版』(一ッ橋
書店)¥1,020

谷川彰英『戦後社会科教育論争に学ぶ』
(明治図書)¥783

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

橋 爪 敏

社会科は、戦後改革の一環として、民主的な国民の育成を目指して設定された教科である。したがって、単に知識の習得のみを目的としたものではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、現実の政治的状況・教育状況によって紆余曲折してきたのも事実である。

1994年4月から、高等学校社会科は公民科と地歴科の2科に再編される。その分割再編の是非はともあれ、公民科・社会科教師に求められる「資質」は他教科のそれにも増して、厳しいものがあると言っておく。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設け“教えること”を、実際の体験を通して学習する。

[教科書] 開講時に指示する。

職業科教育法

前 田 幸 一

<講義目的>

職業科及び技術・家庭科に関する教育について学んでいきます。授業は人数の関係もありますが、ゼミ形式で進めていきます。

<授業内容>

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

(1) 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。

(2) 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討する。

(3) 職業教育について

(1)(2)は前期授業、(3)の職業教育は後期授業で行う予定です。なお(3)の職業教育についてはテキストを利用します。これは開講時に指示します。

<評価方法>

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物などで評価します。

商業科教育法

谷 敷 正 光

<授業内容>

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育は大きく軌道修正され、さらに先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されている。従つて、本講は、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

<授業形態>

講義の他に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教室でのビデオ上映などを行う。

<授業項目>

1. 日本経済の発展と教育・産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の歴史
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
10. 教育評価
11. 教育実習の意義
12. 模擬授業を通じての商業科の学習指導と授業実践の研究
13. 商業科教師論
14. 教員採用試験の準備と今年度の試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）

〔教科書〕岡田修二他『新商業教育論』（多賀出版）

〔参考書〕城山三郎『素直な戦士たち』

（新潮文庫）

灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）

竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』

（有斐閣）

その他、高校商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。

②視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

道徳教育の研究

上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（新訂版）（学芸図書）¥900

教育実習

上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デュイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥370

デュイ『学校と社会』（岩波文庫）

¥350

教育実習

坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成—提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、教育とは何か、どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』
(共文社) ¥480
田村暁司他著『きょういく』ビジュアル
ノート(エイデル研究所) ¥1,800
西村絢子他『現代教育を考える』
(昭和堂) ¥2,600

教育実習

村山輝吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはきんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

北村三子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育をめぐる様々な問題について、文献を読み合い討議をしたい。

(2) 教職に関する専門科目(選択)

教育哲学

汐見稔幸

科目名は教育哲学となっているが、固苦しいものではなく、気軽に現代の教育問題を話し合い考え合う研究会形式の授業を考えている。授業者の都合で、毎週の授業でなく、まとめて何回かの授業を合宿形式の可能性も含めて行なう予定であるが詳細は参加者と相談して決めたい。取りあげたいテーマとして環境問題と教育、授業形式の新しい創意(ディベートなど)とその検討、学校の現在と将来、不登校・登校拒否問題などを考えているが、これも参加者の希望により決定する。参考図書としてあげた本は読んで参加することを希望する。

〔参考書〕『地球時代の子どもと教育』汐見稔幸著(ひとなる書房)

教育社会学

高島秀樹

教育社会学は教育を社会的な事象としてとらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達を目ざす営みであることはいうまでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育(家族、遊びと仲間集団、地域社会など)と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』
(明星大学) ¥2,000

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

現代日本社会とその内での私達の生活は、今日大きく変動しつつあり、そこにまた多くの問題を内在させている。この科目では、現代社会の内における個人のライフステージに沿って、各ライフステージにおける生活世界の実態と発達課題、各ライフステージにおいて個人と密接な関係を持つ社会集団や社会の状況について明らかにし、さらにそれらと教育との関係についてできるだけ具体的に、実例を取り入れて考察していきたい。

この科目では単なる「講義」にとどまらず、各々の問題について基本的なことを説明した上で、受講生自身に考え、発表してもらうことも取り入れていきたいと計画している。

〔教科書〕高島秀樹・岩上真珠・石川雅信共著
『生活世界を旅するーライフステージの社会学』(福村出版)
1994年3月刊行予定

教育評価

大 浜 幾 久 子

まず狭義の教育評価にとられず、教育心理学の研究手法 — 実験・観察・調査・テスト — の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

小 倉 康 仁

日本の学校現場で広く普及しているパソコン用アプリケーションソフト（ワープロソフト、表計算ソフト）や教育用プログラミング言語の操作実習を通して、教育におけるコンピュータ利用の可能性について多角的に検討する。

授業で取り上げる話題としては、コンピュータ・リテラシー、CAIとCAL、CMI、オーサリング・ソフト、シュミレーション・ソフト、データベース、パソコン通信、マルチメディアなどを予定している。

教育調査

鈴 木 規 夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育史

北 村 三 子

日本の若者史および青年期教育に関する歴史的文献を読む。

教育関係法規

広 沢 明

憲法、教育基本法、子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、内申書、日の丸・君が代、教科書検定、学校事故、障害児教育、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕広沢明『憲法と子どもの権利条約』
(エイデル研究所) ¥2,800

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村 山 輝 吉

(P.19) 参照

社会教育施設

村 山 輝 吉

(P.20) 参照

図書館学 I

山 崎 慶 子

(P.18) 参照

図書館学 II

源 昌 久

(P.18) 参照

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

(P.22) 参照

教育臨床心理学

牟田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいえない。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現している。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

神 田 修

憲法と教育基本法、教育と権利、学校教育・教師と法、教育行政と法などについて学習する。

〔参考書〕①『解説教育六法』1993年版（三省堂）

②神田修他編著『現代教育の課題』1992年（北樹出版）

③兼子仁、神田修編著『教育法規事典』1991年（北樹出版）

児童文化

湯 山 厚

児童文化とはなにかとか、その史的推移とか、あるいはこれからのあり方は、といったように概論風ではなく、現に身近にある名作物の児童図書や、リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ、それらを歴史的に、あるいは他ジャンルとの関連、さらには公教育、民間教育運動との関係、といった観点からとらえなおし、子どもを取りまく環境の一部ともなっている文化財をみなおすとぐちとしたい。

〔参考書〕上笠一郎著『児童文学概論』（東京堂出版）¥1,800 『日本唱歌集』『日本童謡集』（いずれも岩波文庫）各¥450 坪田譲治編『赤い鳥傑作集』（新潮文庫）¥400

H・Aレイ・光吉夏弥訳『ひとまねござる』（岩波書店）¥1,300

宗 教 教 育

松 本 皓 一

宗教的情操を培うことは、円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要問題である。そうした点から、知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適宜明示する。

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

栗 野 俊 之

日本における古代から中世・近世・近代へという歴史の流れを概観するが、その際、政治・社会・文化・宗教などの中で、主に政治状況・社会状況を中心として講義して行きたい。また、関連する史料なども活用したいと思う。

日本史概説

小 松 寿 治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

井 村 行 子

「大航海時代」以降の世界史をヨーロッパ、アメリカを中心に概説する。

〔教科書〕大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』〔近現代編〕（ミネルヴァ書房）¥2,000

〔参考書〕授業中に指示する。

世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

橋 詰 直 道

前半は、地域の捉え方、地域区分、自然環境と人間の関係など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。

後半は、主に都市と農村の変容について、動態地誌的な事例研究成果を紹介し、地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

地誌学概説

長 野 覺

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている国の地誌を学習することにした。講義はプリント資料を中心に進めるが、参考書は開講後に指示する。

〔教科書〕藤岡謙二郎他『世界地誌』（大明堂）

地誌学概説

宮 口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

人文地理学概説

小 林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑧人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店編の『地理統計』

自然地理学概説

高 木 正 博

自然地理学の分野のうち、地形と水を基本的な視点において、自然環境と人間生活とのかわりを具体的な地域事例をもとに解説し、それぞれの地域が有する地域的特性を明らかにする。

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

〔参考書〕水見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）¥3,600

民法 I

青野博之

〈講義目的(要旨)〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。せっかく民法を学ぶつもりになったのであれば、民法全体のイメージをつかむためにも、民法の体系性からしても、できれば、民法二部も続けて受講してほしい。

民法総則・物権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみることができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか(権利)、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか(義務)を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前期

民法総則のうち法律行為の前半まで(民法一条から——八条まで)。

4月、序説(たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか)。

5月、自然人(たとえば、未成年者と契約をするときにどんな問題があるか)。

6月、法人(たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか)、物

7月、法律行為(たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か)。

後期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで、および物権法(民法一九条から三九八条の二二まで)。

9月、法律行為(たとえば、契約を取り消すことができるのはどんな場合か、契約を取り消すとどうなるか)、期間、時効(たとえば、時効という制度はなんのために認められているか)。

10月、物権総論(たとえば、物権は債権とどこが違うか)、物権変動(たとえば、マンションを買った場合には何をしなければならないか)。

11月、占有権、所有権、用益物権(たとえば、土地を借りるとどんな権利が発生するか)。

12月、担保物権(たとえば、土地を買うために

お金を借りやすいのはなぜか)。

1月、質問に答える(受講生からの質問には毎回の講義時間の際に答えるが、それとは別に質問時間を設ける)。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。試験に際しては一切の持ち込みを不可とする。

〈教材〉

教科書：我妻 栄・有泉 亨著(川井 健補訂)『民法I(総則・物権法)』(一粒社)、教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

六法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持ってくること。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は、『ポケット六法』(有斐閣)、『コンパクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)などの大きさ(厚さ・値段)のもので十分である。『コンサイス六法』(三省堂)、『判例基本六法』(岩波書店)、『判例六法』(有斐閣)を進んだ勉強をしたい受講生に勧める。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましい。

民法 I

鶴井俊吉

民法(I)は、民法総則、物権法を対象とする。民法総則は民法の通則であって、抽象的でわかりづらい。そして物権法も、日本の特殊性が強く出ている領域であって、これもまたむずかしい。できる限り具体的な事例などをあげて解説する予定でいる。

〔教科書〕我妻 栄・有泉 亨著『民法I』
総則・物権法(一粒社)

政治学原論

大塚 桂

現代政治学の体系的な理解を深めるべく、以下の諸問題について検討していく。

- I. 政治学の課題と対象ならびに方法論
- II. デモクラシーとリベラリズムの概念、史的展開
- III. 政治権力論
- IV. 政治制度・機構論
- V. 行政国家論・現代社会論
- VI. 政治変動論
- VII. 政治行動論
- VIII. 政治過程論・政策決定過程論
- IX. 政治集団論
- X. 国際政治理論

〔教科書〕開講時に指示するが、拙著の刊行を予定している。

- 〔参考書〕原田綱『政治学原論』（朝倉書店）
¥5,356
佐竹寛『政治学体系論』（法学書院）
¥3,090
中山政夫『現代政治学』（三和書房）
¥2,575
日下喜一『現代政治学概説』（勁草書房）
¥2,060
本田弘『政治理論の構造』（頸草書房）
¥4,000

社会学原論

渡辺源樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経済原論

荒木勝啓

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分（IS-LM分析まで）に限定して行うことにする。

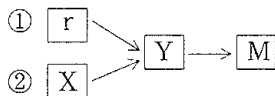
ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって（その結果）黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大（黒字増大）と、景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほど怖いものはない。ではアメリカはどうだったのであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A)景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B)景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX、輸入をMとし、国際収支を便宜上經常収支すなわち輸出－輸入だけに限定し、 $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大（黒字化）し、Mがふえれば減少（赤字化）する。X、Mともにふえればその相対的なふえ方に依じてBの増減が決まる。さて、公定歩合をrと表し、「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると、「公定歩合が下がる」と景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のようなcausalityが成立つてあろう。さて上述の答案の混乱は、本来この図式の①から出発する事象の流れを、日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば、結果はMの増加だけであり、従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ經常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば、結果はやはりMの増大となるがしかし、日本経済の経験が示す

ように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち經常収支は増大するのである。こうして、上述の答えは前提が違うが故に、誤りであり、また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は、「景気が良くなった」その原因、出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給＝総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト＝イン＝スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス
- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお、最低年1回実地研修を行う。予定では証券取引所である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題、1題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』(成蹊堂)

経済原論

大石雄爾

〈講義内容〉

20世紀末を抑えて、国内・国外を問わず現代社会は大きく揺れ動き、ますます複雑な様相を呈している。そのような時代であるからこそ、私たちはただ目まぐるしく移り変わる日々の出来事だけに目を奪われてはならない。現実をよく観察し、そこに貫いている傾向や法則をしっかりと捉えることが必要となってくる。

この講義は、このように複雑な現代資本主義社会の運動法則を理解する上で必要な基礎的・一般的知識を身につけることを目的としている。その

ために、以下のようにテーマを立て、講義を進めていく。

1. 経済理論を学ぶにあたって
2. 社会科学としての経済学
3. 経済学の対象と方法
4. 商品とは何か
5. 商品生産社会と貨幣
6. 貨幣の諸機能
7. 貨幣の資本への転化
8. 資本の生産過程
9. 絶対的剰余価値の生産
10. 相対的剰余価値の生産
11. 資本主義と賃金
12. 資本の蓄積
13. 資本の流過程－資本の循環と回転
14. 社会的総資本の再生産－単純再生産
15. 社会的総資本の再生産－拡大再生産
16. 剰余価値と利潤
17. 生産価格と平均利潤率
18. 商業資本と商業利潤
19. 利子生み資本と利子
20. 近代的土地所有と地代
21. 国家と財政
22. 国際経済関係
23. 資本主義と産業循環
24. 現代資本主義経済理解のために

〈講義(授業)方法と留意点〉

講義においては、上記のテーマについてはほぼ1回につき1テーマのペースでお話する予定である。できる限り理解を深めてもらうために、相当量の板書することになる。参加する諸君は、ただこれを書き写すだけでは不十分である点を自覚し、自分で読み返したとき意味が理解できるノートの取り方を工夫してほしい。

毎回の講義の冒頭では、その時々政治・経済にかかわるトピックスをとり上げて解説を加える予定である。また、諸君の問題関心を引き出すために、年間数回にわたって「30分レポート」を実施する。これは、年間の成績を評価する際に、考慮の対象となる。

経済原論は理論という性格上、全体的な関連の強い科目であり、年間を通して受講して初めて十分な理解が可能になるという特徴をもつ。その点からして、毎回必ず出席することを強く要求したい。欠席する場合には、その事由を書いた、客観的な証明書の役を果たす文書を提出する必要がある。

〈成績評価〉

試験は原則として年度末に行う。平素から講義に出席し、反復勉強していないと失敗することが多い。また、「30分レポート」も加味して評価する。

〔教科書〕平野喜一郎他『経済原論』（青木書店）
¥2,781
〔参考書〕金子ハルオ他『資本主義の原理と歴史』
（青木書店）¥1,854

経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学のミクロとマクロの基本を解説し、複雑な現代経済を理解する力を養うことを目指す。

〔教科書〕小野俊夫編著『現代経済学の基礎』
（学文社）

哲学概説

中村璋八

この講義は中国の哲学を中心とし、その起源より、それ以後、現代に至るまでの史的展開を概説する。哲学・思想は洋の東西にかかわりなく、その地の自然環境、すなわち気候、風土やその時々々の政治、経済などと密接な関連を持ちながら発生し、それを展開して行くものである。中国は広大であり、その歴史も世界の中で最も長い。そこで、この講義も中国各地の気候・風土やその各時代の政治・経済を念頭におきながら殷墟卜辞・諸子百家を始め秦・漢以降の経学・道教・佛教などの各特色を考察し、それが朝鮮半島や日本に如何に受容され、変質して行ったかも考えてみたい。

〔教科書〕中村璋八編『中国思想文学通史』
（明治書院）¥1,600

哲学概説

久保陽一

科学技術の進歩は今日めざましいが、反面様々な弊害をもたらしつつある。産業廃棄物による環境破壊などは我々、地球上の生物の生存そのものを脅かしており、それ故、科学技術の進歩を単純に手離して楽観視することはできなくなっている。それだけでなく、科学のみが「客観的真理」を保障するという信念は、科学的抽象によって切捨てられた現象を見失うことになりかねない、という問題もある。科学はむしろ、「真理」の或る一面だけを捉えられるにすぎず、科学以外のアプローチによる「真理」への道もあるのではないかと、例

えば芸術や宗教は、（科学によって見えなくさせられた）人間と世界との根源的関係を体験させられるのではないかと、少くとも科学にはそのような補充が必要ではないかと。このような問題を今年の講義では取り上げ、それを次のような題目に即して扱いたい。

- 1) 近代の科学主義と認識論（デカルト、ガリレオ、ロック～ヒューム、カント）
- 2) ドイツ観念論における形而上学復活（ラインホルト、フィヒテ、シェリング、ヘルダーリン、ヘーゲル）
- 3) ラッセルのヘーゲル批判と現代英米系の言語論的哲学
- 4) 芸術の哲学（アリストテレス、ニーチェ、ハイデガー等）

〔教科書〕田島節夫他『西洋哲学の展開』（公論社）

〔参考書〕渡辺二郎『現代哲学』（日本放送出版協会）
渡辺二郎『芸術の哲学』（ " ）

倫理学概説

国嶋一則

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、—アリストテレス倫理学、キリスト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、マルクス主義、実存主義、プラグマティズム、功利主義等—現代における倫理の問題（生命環境倫理学等）について考えることにしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から特に宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科であることに配慮し、憲法問題の宗教学的考察などをとりあげる。

〔教科書〕なし。

〔参考書〕その都度指示する。

宗教学概説

松田文雄

初めに宗教学の研究手法、その領域、宗教学で用いる用語などを概説し、後期、今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕 随時指示する。

宗教人類学

佐々木 宏 幹

(P. 25) 参照

民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていききたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

館 野 正 美

中国古代のさまざまな思想家たち（いわゆる“諸子百家”）の哲学思想を概観する。すなわち、まず儒家の孔子・孟子・荀子らの考え方を垣間見る。いわゆる“人性論”（人間存在の本質、本性論）と“天命説”（運命論）を機軸に、その思想の流れを把握する。

その際、これを墨家の思想と対比させることによって、そのおのおの的思想的特質を一層さわだたせたい。文字通り“似ていて非なる”儒家と墨家の両思想が、より明確になるであろう。

かくして、中国古代における人性論と天命説の大きな流れが、ひととおり概観されることとなるであろう。

〔教科書〕 館野正美著『中国古代思想管見』（汲古書院）¥1,200

〔参考書〕 授業中に適宜紹介します。

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕 堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）¥2,000

歴 史 哲 学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕 麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

日本文化史Ⅱ

廣 瀬 良 弘

(P. 23) 参照

美術史概説

中 島 亮 一

(P. 24) 参照

日本宗教文化史

松 田 文 雄

近世における日本宗教文化について講義する。必要な資料はプリントして、受講生と共に講読する。

【職 業】

商 業 概 説

前 田 幸 一

〈講義目的〉

日本の主要な産業を勉強していきます。教職コースの科目ということもあり、受講者数が多くないのでゼミ形式で授業を進めていきます。

〈授業内容・授業計画〉

授業は

1. 戦後日本の産業発展と今後の展望
2. 産業の見方・考え方

3. 素材型産業
4. 組立加工型産業
5. 生活関連産業

という項目に沿って進めていきますが、特に上記の3, 4, 5の項目に力を入れて授業を進めます。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物のどちらかで評価します。

〔教科書〕日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

〔参考書〕水口和寿『現代産業概論』（昭和堂）

宮沢健一・竹内宏編『日本産業教室』（有斐閣）

職業指導

山田 勇 治

〈講義目的〉（要旨）

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容とするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。受講する場合には、問題意識をもって積極的に教育問題を考えるようにしてほしい。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、職業指導の基礎的な概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点について考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明を加えたいと思っています。

〈評価方法〉

出席および授業中における課題などの提出状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価する。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』（創成社）
¥1,300

〔参考書〕藤本喜八『進路指導論』（恒星社厚生閣）

商業実習

前田 幸 一

〈講義目的〉

国内よりも対外国企業との商品取引の実務について授業を進めていきます。授業はゼミ形式で行っていくつもりです。

〈授業内容〉

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

1. 輸出実務の概要
2. 取引関係の創設
3. 取引条件の取決め
4. 売買条件の取決めと契約成立
5. 輸出信用状の照合
6. 約定品の調達
7. 輸出保険
8. 輸出承認と認証の取付け
9. 運送契約の締結
10. 為替の予約
11. 海上保契約
12. 輸出検査と包装
13. 輸出通関
14. 船積み
15. 船積書類
16. 輸出決済
17. 貿易クレーム

〈評価方法〉

筆記試験はしません。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

〔教科書〕開講時に指示

〔参考書〕石田貞夫『貿易取引の実務』実教出版
渋谷源蔵『貿易実務』同文館
藤田栄一『貿易取引の英語』勁草書房

〔商業〕

職業指導

山田 勇 治

(P.17) 参照

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I

山 崎 慶 子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」「図書館資料の選択」、後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』改訂版（学芸図書）¥1,442

図書館学 II

源 昌 久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕 もり・きよし原編『日本十進分類法新訂8版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編
『日本目録規則1987年版』
（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項をとりあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念、歴史、現状、外国との比較、社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕碓井・倉内編『新社会教育』（学文社）
¥2,000

〔参考書〕『社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕永田良行著『成人教育への挑戦』

（全日本社会教育連合会）¥773

ジェルピ著『生涯教育』（東京創元社）
¥1,500

(2) 選択必修科目

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化、地域社会と社会教育、社会教育調査とデータの活用、社会教育事業計画、学習情報の提供と学習相談、社会教育と広報・広聴、社会教育施設の経営、社会教育の評価等が主な内容となる。

〔教科書〕酒匂・村山他共編著『生涯学習の方法と計画』国土社¥2,800

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

(P.8) 参照

社会教育実習

村山輝吉

実習前の指導 — これまでの実習の経験に学ぶ。

実習期間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる共通する課題の追求。〔例〕社会教育職員の専門性とはなにか。

婦人問題と社会教育

矢口悦子

女性問題（婦人問題）の現状を明らかにし、その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては、

I. 女性問題を捉える基本的視点

II. 日本における婦人運動の歴史

III. 日本における婦人教育政策の歴史と現状

IV. 国際的動向と女性学の発展

V. 女性問題学習の実際

（社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践、その他の活動・実践など）

VI. 今後にむけての課題

という内容を考えている。

〔教科書〕なし

〔参考書〕授業中に紹介する。

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
 2. 社会教育施設にかかわる人々
 3. 公民館
 4. 図書館
 5. 博物館
 6. 社会体育施設
 7. その他の社会教育施設・関連施設
 8. 社会教育施設をめぐる動向と課題
- 〔参考書〕適宜指示する。

図書館学 I

山崎慶子

(P. 18) 参照

博物館学 I

倉田芳郎

(P. 22) 参照

博物館学 II

竹内順一

(P. 22) 参照

企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業」は“生きもの”のように変貌し、成長しています。企業の生きた姿を知ることは、卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は、企業人教育20年の経営コンサルタントが、実践事例を中心に、企業論と人間論を、学生諸君と対話しつつ展開します。

★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を、企業人教育の手法を活用して指導します。

★会社就職を希望する人へは、会社選択のノウハウを、個人別指導をしつつ展開します。

〔教科書〕なし

社会体育 I

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということ動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育 I・II」は必ず対で履修すること。
〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）¥980

社会体育 II

古田潤子

人間の動きと道具との関係。
動きに於ける人と人との対話。

動きと呼吸との関係。

動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P. 22) 参照

教育原理

(P. 1) 参照

教育心理学

(教育方法論を含む)

(P. 2) 参照

青年心理学
(教育方法論を含む)

(P. 2・3) 参照

社会心理学

坪 井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会学的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会学的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的とした。

[教科書] 穴田義孝編『こころ・行動そして社会』
(人間の科学社)

教育社会学

高 島 秀 樹

(P. 8) 参照

教 育 調 査

鈴 木 規 夫

(P. 9) 参照

教 育 史

北 村 三 子

(P. 9) 参照

児 童 文 化

湯 山 厚

(P. 10) 参照

社会教育行政

牧 野 篤

生涯学習振興法の成立により国の教育政策全体が生涯学習体系の構築へと動き出した。それはまた従来の学校教育・社会教育の区別を曖昧にしかつ各々の固有の役割を否定し、生涯にわたる国民管理の体系への移行ともいえる側面を有している。しかし他方、細川政権の誕生に見られるように、地方分権への動きが強まりつつあり、生涯学習に、従来のたて割り、中央集権行政の打破を期待する声もある。この講義では、生涯学習体系の中において、国民の学習する権利を生涯にわたって保障する社会教育行政のあり方をとくに地方自治、住民のまちづくり運動の観点から考察したい。

成人学習論

牧 野 篤

生涯学習振興法の成立により、生涯学習体系の構築が政策として明確に位置づけられることとなった。しかし、そこでは人間とくに成人が生涯にわたって学び続けるとはどういうことなのかという根本的問題がとらえられているとはいえない。この講義では、生涯学習体系の理論的枠組を分析しながら、その問題点を指摘するとともに、成人が学ぶということの意味をとらえ返し、そこから成人学習のあるべき内容を考察したい。

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

竹内順一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

教育原理

(P. 1) 参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

(P. 19) 参照

視聴覚教育

赤堀正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また、学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔教科書〕中野照海・赤堀正宜他編著『メディアと教育』（小林出版）¥2,000

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田芳郎・太田喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・葉貫磨哉
恵津森智行・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履

修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

千葉基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。充分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目の授業は、必ず出席のこと。又、発掘実習には30日以上参加すること。

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田芳郎・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、平安期末から江戸期にかけての文化について詳述する。

インド仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰ－インド、東南アジア－』（山川出版社）

奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）、『仏教と人間』（東京書籍）

西洋文化史Ⅰ

佐々木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式（人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位）や知の世界（読書行為、識字）、民衆の心性（価値規範、死生観）などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

西洋文化史Ⅱ

三小田 敏 雄

本年度は下記の教科書を使用して、＜西欧的結婚パターン＞や＜ライフ・サイクル奉公人＞というような西欧的特徴を通してヨーロッパの家族関係を変遷を辿りながら、文化の諸相におけるその具

体的表現を学んで行く。

〔教科書〕ミッテラウア／ジューダー『ヨーロッパ
家族社会史』名古屋大学出版会
¥2,472

仏教美術

中島亮一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。(スライド併用)

〔教科書〕①高田修『仏像の誕生』(岩波新書
388) ¥480
②佐和隆研『仏教美術入門』(教養文
庫576) ¥720

〔参考書〕その都度指示する。

現代美術

矢野陽子

19世紀以降の美術の流れを鳥瞰しながら、あらゆる表現が試みられている現代美術を時代を追って検討していく。毎回スライド等で具体的に美術作品を見ながら、様式の革新、伝統の継承、作者の意図などを考察する。

禅美術

海老根聡郎

日本の中世絵画には、伝統的な大和絵と、この時代に、中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり、画家も禅宗画僧である。講義は、この流れを黙庵、鉄舟、明兆、周文、雪舟などの画家を中心としてたどりながら、合わせて大和絵についても述べる。(毎回スライドを使用する)

美術史概説

中島亮一

前期では日本の原始時代から平安時代までの美

術を、後期は鎌倉時代以後(できれば江戸時代まで)の美術を、時代の中で紀伝風にテーマ仕立てに分類し(例えば「明日香村の石造物」,「浄土教の美術」など)スライドなどをととして考察し、それぞれの問題点も検討する。

〔教科書〕久野健他『美術史<日本>』(東京堂
出版) ¥2,000

〔参考書〕その都度指示する。

西域美術史

相馬隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。(スライド使用)

考古学概説Ⅰ(日本)

倉田芳郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ(外国)

飯島武次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』
1985年(山川出版社) ¥7,000
飯島武次『中国新石器文化研究』
1991年(山川出版社) ¥11,000

考古学特講Ⅰ

高浜秀

ユーラシア大陸の北を横切って、西はハンガリア平原から東は中国の北の大興安嶺まで続く草原地帯には、古来、南方の農耕地帯とは異なった独

特の文化が栄えていた。初期鉄器時代になるとここには騎馬による遊牧が行われ始め、スキタイ系文化と呼ばれる互いにきわめて共通点の多い幾つかの文化が成立することになる。講義では、その前段階である青銅器時代から始めて、この地帯の文化を考えていきたい。

考古学特講Ⅲ

飯島武次

中国青銅器文化の研究。夏・殷・周の考古学的研究を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

(山川出版社) 1985年¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

(山川出版社) 1991年¥11,000

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代をこえて受け継がれてきた民間伝承を通して、日本社会の生活文化を明らかにしようとする学問である。国際的視野をもった人材の育成が叫ばれて久しいが、真の国際理解の前提には自国の伝統文化に対する民俗学的素養が近年益々大切になってきているといえよう。

講義では、日本の各地に伝承されている具体的な民俗の調査事例を紹介しながら、人の一生の重要な時期(誕生・成年・結婚・厄年など)に行われる人生儀礼(通過儀礼)を通して伝統文化についての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。ときにスライドまたはビデオを用いる。

〔教科書〕佐々木宏幹編著『宗教人類学』(新曜社) ¥2,200

地 形 学 I

小 池 一 之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント・スライド、ビデオを使ったわかりやすいものになりたい。(内容は最先端の知見を含む)

〔教科書〕貝塚はか編『写真と図でみる地形学』(東大出版会) ¥4,532

地 質 学

貝 塚 爽 平

前期には、関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象(たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成)についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,700

社会福祉原論

原田 信一

今日の社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求している。そこには提供者と利用者(対象者)間における对人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応える専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕1. 孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』(ミネルヴァ書房)
2. 岡村重夫『全訂・社会福祉学』
(柴田書店)

老人福祉論

前期：中野 いく子
後期：東條 光雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、

現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第3版(海声社) ¥1,640
〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1993』
(全社協) ¥2,800

障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に遡りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明する。さらに、その対応方法、政策、ならびに処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)
〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)
(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

柏女 霊峰

児童福祉とは、理念的には人格主体として理解されながら、実際には自分たちの立場を主張したり、それを守ることができない児童に代わって、国、地方自治体、保護者及び社会全体が、その生活と発達、自己実現を保障する活動の総体であると考えられる。

本講では、最新の資料に基づきながら、児童福

祉の理念、児童を取り巻く環境、制度体系、サービスの現状と課題、児童福祉の方法について論述するとともに、出生率の低下、児童虐待、不登校等の今日的・個別の課題についても言及し、現代社会とのつながりの中で児童の福祉について考えてみたい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編集「児童福祉論」中央法規1992 ¥2,500

〔参考書〕別途作成する「児童福祉資料集」をコピーの上使用する予定。

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

和田 敏明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主

体の多元化を伴い進展している。平成5年度からは、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の実現が新しい段階を迎えた。講義では、地域福祉の理念と内容、推進方法、地域福祉の現状について基礎概論を講ずるとともに、それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7

『地域福祉論』¥2,500（中央法規）

〔参考書〕永田幹夫著<改訂>『地域福祉論』（全国社会福祉協議会）¥2,060

心理学（福祉）

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

社会学（福祉）

橋爪 敏

この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供する事を目的とする。『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』をテキストとしてその内容を把握し、社会学独自の社会現象の見方や考え方を理解する。

したがって、テキストに即して、社会学の歴史、社会集団、現代社会の諸問題などを論じていく。参加学生数によっては講義以外の方法も併用したい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『改訂社会福祉士養成講座12/社会学』（中央法規出版）

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』、『わかりやすい社会学』（学文社）

法 学 (福祉)

小 林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことからについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉運営論

坂 田 周 一

社会福祉の政策形成と行政運営および財政問題、さらに社会福祉施設をはじめとした現場での組織運営を包括的に捉える理論である社会福祉運営管理論（ソーシャル・アドミニストレーション）の基本概念を体系的に講述する。

〔参考書〕必要に応じて適宜紹介する。

家族福祉論

高 橋 重 宏

現代の家族生活の問題と課題を解説する。さら

に、「家族」、「家庭」、「家庭機能」等の概念を整理するとともに、ファミリー・サービスのあり方についても北米における事例を紹介しつつ検討したい。

とくに1994年は国連が定めた国際家族年であり、その原則、目的スローガン等についても講述する。

医療福祉論

前期：松 本 栄 二
後期：春 見 静 子

医療とは何か。医療の歴史、医療福祉の歴史、医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1. 医療論

医療の概念、医療の場、与え手と受け手、医療法、現代医療問題点

2. 医療領域のソーシャルワーク

歴史、意義、機能、方法、機関

3. 医療ソーシャルワークの実際

事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

〔教科書〕山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）¥2,500

婦人福祉論

林 千 代

私は、婦人（女性）問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か、婦人保護事業について）、女と老い（老後問題の中で）等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕林 千代著『母子寮の戦後史』（ドメス出版）

保健福祉論

安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の

保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄監修『保健福祉学』（川島書店）

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介。

海外社会福祉論

中野 いく子

前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では、受講生の関心に基づいてグループを編成し、北欧やヨーロッパ大陸諸国、アジア諸国の社会福祉の政策・制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

駒澤大学の構内図

教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見て下さい。

<例>

| | |
|--------|-----------|
| 1-301 | 本館(1号館)3階 |
| 4-204 | 4号館2階 |
| 7-110 | 7号館1階 |
| 8-150 | 8号館1階 |
| 9-390 | 9号館3階 |
| 2研-101 | 第2研究館1階 |
| 禅研-201 | 禅研究館2階 |
| 体育館 | 体育館2階 |

(ただし選択種目により第2体育館になる)



各事務室・掲示板配置図

教務部窓口

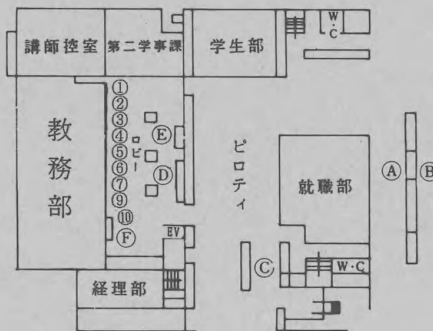
- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ③科目等履修生 聴講生 卒業証書
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
<健康診断書および在学証明書は学生部>

※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。

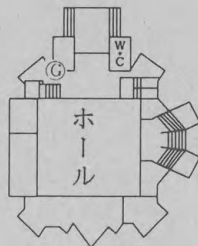
- ⑤諸届願
休学・復学・退学・死亡
改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更

- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦転部転科
- ⑨履修・試験・成績・学業相談
学部演習(仏教学部・経済学部
法学部・経営学部)
- ⑩時間割変更・休講・外国語指定届

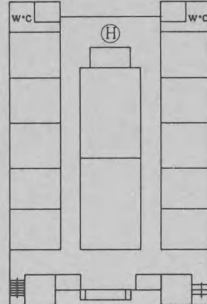
本館1F



耕雲館2F



体育館1F



掲示

- ①第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項, その他
- ②第2掲示板(裏面) - 臨時掲示板 -
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- ③第3掲示板 - 臨時掲示板 -
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- ④休講掲示板・ビデオ教場使用一覧(当日)
- ⑤授業時間表カウンター・教場変更掲示板
- ⑥大学院・留学生関係掲示板
- ⑦国際センター掲示板
- ⑧留学生専用・海外留学掲示板
学外諸機関からの案内・募集広告等

